

教会学校教案誌

2013.7.8.9月号

わたしの目には、あなたは高価で尊い。

わたしはあなたを愛している。イザヤ43章4節



No.50

日本キリスト改革派教会
中部中会日曜学校委員会

2013年7～9月カリキュラム（第50号）

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第1年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参照教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単 元 の 目 標			
7月7日	第六戒 殺してはならない	問53, 54 マタイ5:21-26	ウ小67-69、ハイデ105-107 マタイ5:22
	命は主のもの。人の命の尊さを知ろう。いじめは殺人の始めであることを知ろう		
14日	第七戒 姦淫してはならない	問55, 56 マルコ10:1-12	ウ小70-72 創世記2:24
	男性と女性との正しい関係を学ぼう。結婚の尊さ、神聖さを知ろう		
21日	第八戒 盗んではならない	問57, 58 創世記1:26-29	ウ小73-75、主は羊飼いか37 創世記1:26
	与えられたものに満足し、神に感謝し、神と人のために用いよう		
28日	第九戒 偽証してはならない	問59, 60 サムエル上17:12-30	ウ小76-78、ハイデ112他 出エジプト20:16
	偽りによって人を陥れてはならない。愛と真実のある言葉を語ろう		
8月4日	第十戒 むさぼってはならない	問61, 62 ルカ12:13-21	ウ小79-81、ハイデ113他 出エジプト20:17a
	むさぼりは偶像礼拝である。人のものを欲する自己中心の罪を悔い改めよう		
11日 (平和)	平和を創り出す	平和カテキズム ルカ22:47-53	ウ大122 マタイ5:43
	神は平和の神である。互いに祝福を祈り、身の周りで平和を創り出して歩もう		
18日	神のおきてを喜ぶ生活	問63 マルコ10:17-27	ウ小39-41、82-85他 詩編:119:14
	聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、主イエスにならう者として歩もう		
25日	十戒の完成者キリスト	問64 ヨハネ1:5-10	ウ大149、ウ小82 ヨハネ1:9
	十戒（律法）を完成するために、主イエスはこられた。十字架の贖いを喜ぼう		
9月1日	教会に生きる（一）	問65 エフェソ4:12, 13	ウ小29-32、ハイデ54, 55 エフェソ4:13
	聖霊によって結ばれた教会と一つにされて、自らを神にささげて歩もう		
8日	教会に生きる（二）	問66 使徒20:21	ウ小85 使徒20:21
	天上の主が教会に豊かな祝福を注いでくださる。主と共に、教会と共に歩もう		
15日 (敬老)	信仰と悔い改め	問67 使徒言行録2:37-40	ウ小86, 87 使徒2:38
	聖霊によって信仰が与えられたことを喜び、日ごとの悔い改めに生きよう		
22日	恵みの手段	問68 マタイ28:18-20	ハイデ65、ウ小88 マタイ28:20
	御言葉と礼典と祈りが信仰生活の土台である。教会の恵みに生きよう		
29日	神の御言葉—聖書—	問69 ヨハネ5:31-40	— ヨハネ5:39
	書かれた神の御言葉である聖書に日々耳を傾けよう		

も く じ

2013年7・8・9月カリキュラム

まえがき	安田直人	4
巻頭説教	中田 稔	5
日曜学校・教会学校訪問		
船橋高根教会の教会学校の紹介	渡辺 亮	8
講演	芦田高之	12
「聖霊の歌である賛美 ―聖霊による化学反応を求めて―」		
新しい歌	木下裕也	24
副読本のご案内		27
自由募金のお願い		28

聖書黙想・説教展開例・分級展開例

7月 7日	30
7月14日	35
7月21日	40
7月28日	45
8月 4日	50
8月11日	55
8月18日	61
8月25日	66
9月 1日	72
9月 8日	77
9月15日	82
9月22日	88
9月29日	93

2013年10・11・12月カリキュラム	98
2013年度年間カリキュラム	99
執筆者よりひとこと・あとがき	101

まえがき

安田直人（田無教会牧師）

このたび、教案誌編集部に加わらせていただくことになりました。教案誌発足以来、望月信先生が積み重ねてこられたお働きを拝見すると、しばしば呆然と致します。

『子どもカテキズム』と教案誌が発行され、用いられ始めて、13年目に入りました。私の知る限りで、松田輝一先生が「つのぶえ」誌にカテキズムの翻訳を掲載し、解説を執筆された日曜学校教案がありました。このカテキズムは広く改革派教会で用いられた『キリスト教初歩教理問答書』です。大会教育委員会は、後に、このカテキズムに基づく、説教集をも出版されました。

その後、大会教育委員会による、いくつかの尊い試みがなされました。CRC で用いられている教案の翻訳があり、他のカテキズムの翻訳もあり、また独自の教案作成も試みられました。それらはいずれも、教案誌作成にあたって、参考にされ続けなければならないものです。

しかし、日本キリスト改革派教会内で、これほど長く、同じカテキズムと教案誌が同時に用いられ続けたことは、かつてありませんでした。もちろん、多くの欠けがあることを承知していますが、欠けを補って余りある祝福を、神様はお与えくださっていることを覚えています。

私事で恐縮ですが、私の娘は、ちょうどこの教案誌と同じ年齢です。ごく一部を除いて、日曜学校で育ってきたほとんどすべての期間を、このカテキズムを唱え、この教案誌に基づく説教と分級によって養っていただいたこととなります。そして神様の憐れみによって、娘は信仰告白へと導いていただきました。

子どもの時に、どのような信仰の言葉を口にするか、日曜学校のお友だちと共に口ずさむか。それは、一人の人間の生涯を決定するほどの重

みを持ちます。多くの日曜学校の教師たちが、また日曜学校に子どもを送り出してくださっている保護者が、その重みを覚えながら、このカテキズムと教案誌に基づく日曜学校の営みに、子どもたちの魂を委ねてきてくださいました。

今年の定期大会では、この慣れ親しんだ『子どもカテキズム』が、大会教育委員会に設けられた小委員会での議論を経て、更にグレードアップして、装いも新たに私たちの前に現れることになると伺っています。それに伴って、教案誌の内容も、再び新しくされてゆくことになるでしょう。

私は、このような教案誌のこれまでの歩みと、来年4月から始まるこれからの歩みを、心から喜びたいと思います。長い時をかけて子どもたちの心に刻まれてゆく信仰の言葉が、この後、どのように実を結ぶか。注意深く見守ってゆきたいと思います。

皆さんの祈りによる応援が必要です。子どもたちと共に、新しいカテキズムの言葉を唱える、教師や親たちの努力が必要です。そして、これを長く使い込んでゆき、その時々々の黙想と説教展開例と分級展開例の言葉を紡ぎ出し、それを用いて子どもたちに語りかける直接の言葉を生み出す、日曜学校教師会の働きが必要です。これらの必要が満たされ、積み重ねられてゆくなれば、神様は私たちの日曜学校の営みを豊かに祝福してくださると信じます。

私たちの子どもたちに、キリストの言葉を届けたい。そのために拙くとも、教会の信仰の言葉である『子どもカテキズム』を、子どもたちと、親たちと、そして日曜学校の教師と声を合わせて、唱え続けてゆきたい。教案誌編集部に加わらせていただいた、私の願いはこれに尽きます。皆さまの御加禱を切にお願い致します。

あなたの神、主を愛しなさい

～申命記6章4～9節による説教～

中田 稔（岡山西伝道所宣教教師）

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座しているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい。更に、これをしるしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。

（申命記6章4～9節）

中部中会の尊いお働きにより、日本キリスト改革派教会の中で教会学校のための教案誌が途切れることなく出版され、用いられていることを、まず心より感謝を致します。

改革派教会は信仰の継承を大切にする教派であり、またそのことに重荷を持って歩みを進めて来たのだと思います。様々な弱さの中にあっても、主は私たちの教会を契約の子たちの成長によって支えてくださっていることもまた事実であると思います。

きょうは申命記の御言葉より、信仰の継承の在り方、特に契約の子の教育について聞いて参りたいと思います。

モーセは申命記6章4、5節で、神が約束された地に入ろうとするイスラエルの民に向かって、「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」と命じます。後半5節の言葉は、イエス様が、福音書の中で「これが最も重要な第一の掟である」（マタイ22:38）とおっしゃった御言葉です。「これ」とは、もちろん申命記5章でモーセがイスラエルの民に対して語り直した十戒の言葉です。

モーセは申命記5章3節で、十戒について「主はこの契約を我々の先祖と結ばれたのではなく、今ここに生きている我々すべてと結ばれた」と語ります。この掟は神からこの契約が与えられた時代に生きていた者たちのためだけではなく、今生きている者に与えられていると言うのです。それはとりもなおさず、現代の私たちに、この十戒の言葉は効力をもって与えられているということを意味しています。モーセは、これを「聞け、イスラエルよ」と語りかけ、この御言葉に応答しなさい、従いなさいと私たちに語るのです。私たちは、この「掟」にどのように応答し、これを受け継いでいけば良いのでしょうか。

イエス様が、「これが最も重要な第一の掟である」とおっしゃった御言葉で、最も重要な事柄は、「あなたの神、主を愛しなさい」と言うことであることは誰もが認めることだと思います。十戒は、「何々しなさい」「何々してはならない」と私たちに縛る掟と考えられやすい訳ですが、モーセは決してそのようなには言っていないことがわかります。なぜなら十戒そのものが、その序言において「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出し

た神である」と、イスラエルを愛し、奴隷の状態から解放してくださった愛の神であることを明らかにしているからです。同じように、現代の私たちも、キリストの十字架の愛によって罪の奴隷状態から導き出されたのです。また、「愛する」ということは、義務として強制されて出来ることではありません。神がまずイスラエルを、また私たちを愛してくださった、その愛によって私たちも神を愛することが出来るようにされたのです。

モーセは、「心を尽くし」「魂を尽くし」「力を尽くして」神を愛するようにと言います。神が私たちを愛してくださったことによって、私たちに神の命令を守りたいという思いを起こさせます。私たちは、神がまず私たちを愛してくださったからこそ、神を愛し、神の律法に従うことが出来るのです。決して律法に書かれているからとか、従わないといけないから従うということではないのです。

この愛による律法への従順の姿勢は、6章6節を見ますと、その律法の言葉を「心に留め」ることだと言われます。「心に留め」とはただ心の中に蓄えておくということではなく、いつでも心に蓄えたことを実行できるように、また忘れないようにしておくということです。さらに6章7節では「子供たちに繰り返し教え、家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせなさい」と言われています。私たちが神に愛された故に、私たちは神の御言葉に従いたいという思いを与えられ、「家に座っているとき」「道を歩くとき」「寝ているとき」「起きているとき」、このような日常生活の中で、常に神の御言葉を心を留め、それを実行することによって、親は子供に繰り返し信仰とはどういうものであるかを行動によって教えるのです。

子どもに信仰を継承するということは、大人がこのように神を愛することから始まります。

私たちは、弱く愚かな者ですから、神から与えられた律法の全てを完全に守ることはできません。しかし、神から愛された者が、神を愛し、神に仕えようとする姿勢は子どもたちに明らかになるのだと思います。モーセは、まず自分自身が神に仕える姿によって、神を愛することを教えることが第一であることを教えているのだと思います。そしてそれは、日々日常生活の中で、繰り返し教えられなければならないのです。さらにそれだけでは、この世の立派な行いの人たちとどこが違うのか見分けがつかないでしょう。ですから、子どもたちに、「語り聞かせなさい」と言われます。この「語り聞かせる」言葉は、「今日わたしが命じる言葉」です。決して人間が語る言葉ではなく、モーセが神から授けられた十戒の言葉を語るのです。親の行動が、私たちの行動の規範である御言葉に基づいて行われていることを教えなければなりません。また、親の行いの不十分な部分を悔い改めなければなりません。そして、この「語り聞かせる」ことも、「家に座っているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも」行いなさいと言うのです。

このように見てきますと、後ろ姿で教えることも、また、御言葉を語り聞かせることも、私たちの全生活を通して行うことを、神は私たちに求めておられることが分かります。この親としての責任を私たちは深く自覚しなければなりません。

「子供たちに繰り返し教え……語り聞かせなさい」とはもちろん親に語られた言葉です。しかし、親とは血のつながりを持つ親だけではありません。ウェストミンスター大教理問答は、第五戒を扱う時、「家族、教会、国家のいずれにおいてであれ、神の定めにより、私たちの上に、権威ある立場に置かれている人々のこと」を父母、つまり親と言うと告白しています。

ですから、教会の大人たちは皆、このモーセの言葉に心を留め、教会の子どもたち、若者た

ちを神様に導く務めを神様から託されているのです。

親と教会がこの務めを信仰に基づいて、感謝を持って行う時、信仰の継承は神によって確実に

成されていくのだと思います。そして、私たちの教会の未来は神の祝福の内に明るい希望を持って歩んでいくことができるのだと思います。



船橋高根教会の教会学校の紹介

渡辺 亮（船橋高根教会長老）

1. はじめに

私たちの船橋高根教会は、東関東中会に属する千葉県船橋市にある教会です。

1963年6月16日、基督改革派日本伝道会(CRC)船橋伝道所（宣教師M・ドベルト、協力牧師小池正良）として発足し、今年の6月16日で50周年を迎えます。伝道開始の2週間後の1963年6月30日、第1回教会学校が小池牧師宅で開始され生徒2名、教師2名で礼拝が持たれました。伝道開始の直後から教会学校が始められた、その意気込みを感じます。牧師は開始から30年が小池正良牧師。次の10年は横田隆牧師。そして現在3代目4年目に入った小峯明牧師です。現在礼拝出席者は80～90名位です。

2. 教会教会学校の教勢の移り変わり

1963～72（10年）	礼拝出席数平均	49.9名
1973～82（20年）	〃	69.1名
1983～92（30年）	〃	23.9名
1993～02（40年）	〃	16.5名
2003～12（50年）	〃	12.3名
2013年3月現在、在籍生徒数は26名		

* 10年目 年2回の伝道映画会・夏期学校・秋の伝道週間子ども会87名、教勢膨張を続ける。

* 20年目 前10年の実りを実感。クリスマス礼拝150名。新プログラム絵ばなし、歌指導。

* 30年目 20年目後半から教勢減少が始まる。夏期学校教会で一泊。誕生日キャンディープレゼント。

* 40年目 映画会の立て看板県条令で禁止、チラシ、オウム事件で受け取り拒否、ハンド

ベル。

* 50年目 映画会に知的障害者施設「みんなの家チャオ」参加、夏期学校でカヌー体験。

3. 教会教会学校の現状（2012年度年報より）

※出席統計と会計は省略しました。

(1) 教師

小峯明牧師、渡辺亮（校長・奨励）、新 謙（会計・奨励・中高生）、春名誠（書記・奨励・幼稚科～1年）、阿部久子（幼稚科～1年）、鍵谷秀司（奨励・2～6年）、小峯真奈美（2～6年）、坪根悦子（2～6年）、廣瀬優（中高生）、渡邊恵（奨励・2～6年）、廣瀬輝代（休職中）、各兄弟。
奏楽者：小峯ひかる（4月～）、坪根彩香（4月～）、坪根悦子、松尾幸子、藤方羊（3月まで）、牧野かや子姉（6月まで）、各姉。

(2) 活動

- 教師会 毎月第4主日 午後1時～3時頃。
- 祈祷会 毎主日 礼拝開始前。
- 奨 励 『こども教理問答』（川瀬勝次編著、CS成長センター）問37～74。『わたしたちは神さまのものーはじめてのカテキズム』（アメリカ合衆国長老教会著）問1～25。

d. 分 級

幼稚科～1年：聖書紙芝居（5月まで）、『やさしい聖書 新約』（キヤスリン・F・ヴォス著、深江真智子訳、小峯書店、6月より）第1章～第16章。

2～6年：『成長』（CS成長センター）。

中高生：列王記上～列王記下（中高生）。

e. 主な出来事

1月8日 開校。

4月1日 進級式・祝会。

小学校入学1名、中学校入学3名。

4月8日 イースター礼拝。

5月26日 春の子ども映画会

生徒9名、教師7名、保護者・奉仕者3名、
「みんなのいえチャオ」14名、計33名参加。

5月27日 ペンテコステ礼拝。

7月15～16日 夏期学校

テーマ「イエスさまありがとう」。

場所「水郷バイブルキャンプ場」

生徒9名、教師6名、保護者・奉仕者7名、
計22名参加。

10月8日 秋の遠足。

場所「市川自然公園ありのみコース」。

生徒12名、教師7名、保護者・奉仕者4
名、合計23名参加。

10月21～27日 秋の伝道週間。

10月27日 秋の子ども映画会。

生徒19名、教師7名、保護者・奉仕者9
名、計35名参加。

12月23日 クリスマス礼拝・祝会。

生徒13名、教師9名、保護者・奉仕者13
名、計35名参加。

f. 2013年度計画

1月6日 開校

3月31日 イースター

4月7日 進級式

5月19日 ペンテコステ

5月19～25日 春の伝道週間

5月25日 春の映画会

6月16日 50周年記念式典

7月14日～15日 夏期学校

9月23日 秋の遠足

10月20～26日 秋の伝道週間

10月26日 秋の映画会

12月22日 クリスマス

4. 礼拝 9時～9時30分

奨励は牧師と男子の先生が週毎回り持ちで行

い教材は原則として教理問答を繰り返し使っています。

ウエストミンスター小教理問答を要約した『こども教理問答』、『キリスト教初歩教理問答』、『わたしたちは神様のもの』など、です。

礼拝後毎月その月の誕生日の生徒、先生に前
に出てきてもらって、「生まれる前から……」
や「ハッピーバースデー」を全員で賛美しプレ
ゼントを渡し、ひとことコメントをしてもらい
ます。

また毎月第一主の日は新しい讃美歌の練習日
にしています。

5. 分級 9時30分～10時

幼稚科～1年は、聖書紙芝居、『やさしい聖
書 新約』（キヤスリン・F・ヴォス著、など
をテキストとして、学びの後はゲーム、手遊び
で、教会学校は楽しいところ子どもたちが思
えるように工夫している。

2～6年は、『成長』（CS成長センター）を利
用し聖書の学びをし交わりを大切に。クリスマ
スの練習など中心となって活躍。

中高生は、現在は列王記上から列王記下。旧・
新約聖書を継続的に地道に忍耐強く学んでいま
す。

6. 主な行事の様子

○年2回春、秋の「こども映画会」近隣の小学
校で下校時案内のチケット（全員にプレゼン
ト引換券付）を300枚～400枚配布。信徒の
子どもさん以外の地域の子もたちを誘う、
今のところ唯一の機会なので、地域伝道の方
法として最重要に位置つけていますが、ご多
分に漏れず少子化塾通い、部活などに阻まれ
苦戦しています。

○秋の遠足はアスレチックで思う存分遊び、午
後なし狩りや、ぶどう狩りをたのしむ。なし、
ぶどうのお土産つきで教師、同伴者も満足。

○クリスマス 大人の礼拝、祝会后4時30分



秋の子ども映画会

～6時45分まで第一部礼拝二部祝会を行う。

第一部礼拝は全員で、ページェント方式でイエス様の誕生物語の衣装を身に着け壇上にあがって司会、ナレーションに導かれて讃美歌を織り交ぜながら厳粛な中に進められる。会堂の照明が消され暗闇に全員のキャンドルの光がやさしく灯る。

礼拝堂で、精勤者の表彰40回以上と30回以上合わせて10名前後表彰状とプレゼント。第二部祝会は、クラス毎の出し物、クリスマス賛美歌、ハンドベル、リコーダー、オルガンなどの演奏、合奏。奉仕者と教師による賛美、手品、ジャグリングの披露、腹話術の信ちゃん、クリスマスの夜にふさわしい本の朗読、盛りだくさんのプログラムです。

出席者全員にプレゼントが配られ感謝の祈りをもって終了。その後教師、奉仕者、で軽食をいただきながら反省と感謝の時を持つ。



クリスマス会

○夏期学校は、一泊して、礼拝後、楽しい夏休み体験。海沿いの施設で、ある時代は会堂にゴザ毛布を敷いての宿泊、婦人会のご奉仕による美味しい食事。千葉県下の「少年自然の家」でのホテル探し、カヌー体験、CRC所属で最近移管された「水郷バイブルキャンプ場」でテント体験、バーベキュー、生徒に良き思い出となって、心に刻まれる事を祈りつつの行事を実施。



夏期学校の様子 (1)



夏期学校の様子 (2)

○こひつじ会

船橋では、教会学校とは別に信徒の子どもさんの教育と訓練のために「こひつじ会」をもっています。子どもへの教育と伝道で、教会学校とその目指すところは同じあるいは重なりますので、この記事に加えて紹介します。

教会の設立1963年6月後4年目の2月に第一回「こひつじ会」が開かれ以来毎月1回の開催で今年の3月で通算460回を迎えまし

た。現在「こひつじ会」出身者が引き続き「こひつじ会」の先生、教会学校の教師、奏楽者、として奉仕しています。

「神から託されている子どもの教育を契約の子として、両親と教会が責任を感じ、教会として両親の教育の手伝いをする。そして信仰告白にまで導くこと」を目指しています。

現在「こひつじ会」卒の青少年が信仰告白をした者を含んで30名弱がリストアップされていて、彼らを導くことが教会の大きな課題、また希望となっています。

原因をあげれば親の高齢化、子どもの減少、近くの高根公団住民の減少、子どもたちの小学校からの塾通い、クラブ活動、自治会子ども向けの楽しいイベントの増加、など如何ともしがたい時代の流れの中にあることを感じます。

しかし主は忍耐強く種を蒔き続ける忠実な奉仕を喜んでくださることを信じて継続すること、子どもだけでなく教会の近隣への地域伝道の展開の中での視点を持つことなど、新しい道も探りつつ、宣教の主の御心に少しでも添えるように祈り願う私たちです。

7. おわりに

50年を振り返ると時代の変遷をはっきりと感ずるを得ません。

開始から20年間は面白いようにたくさんの子供が集まりました。1976年の出席を見ると平均出席人数は90余名、イースター礼拝には98名、秋の特別集会には100名、クリスマス礼拝には生徒150名、父兄30名などで多めに用意したプレゼントが足りなくなりそうでハラハラする場面が何度もありました。

しかし30年目に初めて増加が止まり、徐々に減少傾向が続き、伝道20周年の1983年には平均43.7名でした。10年後の1982年には12.4名となり以後40年目には16.5名を維持しましたが、50年目は牧師、教師の忍耐強い奉仕があったものの平均12.3名となっています。

保護者の皆様へ

♪教会学校からのお知らせ♪

例年になく寒い冬もようやく終わり、春らしい暖かさを感じられる日々となってまいりましたが、皆様お変わりございませんか？ 命が軽んじられるたくさんの事件が報道されています、いじめ、体罰、家庭の崩壊、心痛める社会です。この時代こそ悪に負けない子供たちを育成していくことが益々求められています。今の子供を取り巻く厳しい環境の中で親が守ると同時に社会が地域が子供たちを守るなければならない時代です。教会学校では聖書の教えを通して「神と人を愛する優しく強い子」に育つように願っております。保護者の皆様には、お子さんの教会学校出席に今までと変わらぬご協力をよろしくお願い致します。(2013年3月17日)

教会学校 毎週日曜日 朝9時～10時
礼拝 わかりやすい聖書のおはなしと讃美
分級 「幼稚園～小学校1年科」「小学校2～6年科」「中高生科」の3クラスです。

大人の礼拝 毎週日曜日 朝10時30分～12時
成人向けの礼拝もおこなっています。

これからの行事予定
イースター記念礼拝 3月31日(日) 両封の袋にて献金をお願いします。
遠征式 4月7日(日)
5月には春の映画会、夏休みには夏期学校も予定しています。



日本キリスト改革派 船橋高根教会
〒274-0065 船橋市高根台6-35-4
TEL 047-465-6337

小峯 明 牧師

教会学校のお知らせ

「聖霊の歌である賛美 —聖霊による化学反応を求めて—」

芦田高之（新浦安教会牧師）

この講演は、2012年11月24日に開催された中部中会日曜学校委員会主催の「教会学校教師研修会」のものであります。教師研修会は、毎年11月23日（勤労感謝の日）に開催してまいりましたが、今年は、講師が東関東中会第二回定期会開催日と重なった都合で24日(土)開催とさせていただきます。主題を、「礼拝式での子ども賛美」と致しましたので、どうしても芦田先生にお願いしたいという強い思いからです。当日の出席者は40名でした。

当委員会主催の研修会は、実践の学びと理論の学びを隔年で開催する方向性を定めております。しかし、先一昨年、一昨年と、「説教」についての実践的な学びを重ねました。子どもの教会の礼拝式の中心は、改めて申すまでもなく「説教」だからです。ただし、本来であれば、今回は、理論的な学びとすべきでした。しかし、これまでの学びの、ある帰結として、「賛美」の学びと実践を取り上げることと致しました。礼拝式をつくる「要素」には、聖書朗読と説教があります。その他、主の祈り、十戒、聖句の暗唱、カテキズムの暗唱もあるでしょう。しかし、子どもたちにとって「賛美」の位置と力は、おそらく特別な重みがあると思います（ちなみに、私どもの教会では、子どもカテキズムを暗唱した後、いつも、「カテキズムの歌」を歌います。カテキズムを要約した詞を「大きな栗の木の下で」のメロディーに乗せて歌います。最近、輪唱しています）。

子どもたちもまた、礼拝式全体の流れ（リタージ）の中で、知性（理性）・感情・意思を豊か

に働かせて神礼拝を捧げることによって、神の栄光のために生きる礼拝的な人間存在へと建てあげられて行きます。確かに、聖霊がそれを主導され、神のみがそれを実現して下さいます。しかし、教師である私どもはその道具として用いられますから、主なる神のご意志をよくわきまえ、また、そのためにふさわしい備え（研鑽）が求められてまいります。そこに私どもの教師研修会の目的があります。礼拝式がいつもいきいきと、そしてある楽しさや新鮮さをもって捧げられるためには、説教者だけではなく、司式者また奏楽者も祈りを中心としたふさわしい準備が求められるでしょう。このように、子どもの礼拝式は、教師と教会役員、契約の親と会員、そして子どもたちと共につくり、捧げられるものです。その意味で、本来、研修会は教会学校教師のみが出席する集いとしてはならないだろうと思います。

すばらしい本講演を通し、賛美についてあらためて学び、ふさわしい実践の道を、皆さまと共に学び、求めてまいりたく願います。

余談ですが、私は、先生の素直で飾らないお人柄に改めて感銘を受けました。また、ありのままに語られるお話に、びっくりさせられ、慰められも致しました。何にびっくりさせられたかは、記しません……。どうぞ、お読み下さい。何よりも教師会で話題にしてくだされば、望外の喜びです。なお、2013年度の研修会主題は、「カテキズム教育」を予定しています。

（中部中会日曜学校委員会 相馬伸郎）



研修会の様子



講師の芦田高之先生

はじめに

賛美について、しかも、日曜学校・教会学校の子どもたちの賛美についてのお話を依頼されて、何を話ししたらいいのか、本当に困っておりました。なぜ困っているかと言うと、いくつも理由があります。

このお話をすることで困っている理由、第一。私自身、一人の信仰者として、「賛美する」ということにおいて、まことに乏しさ貧しさ未熟さを常日頃から実感しているからです。信仰者ですし、牧師ですから、祈ることはします。でも祈りの中身は、お願いがほとんどです。主を賛美する、ほめたたえる、崇める……という点では、まことに申し訳ない限りです。また、信仰者ですし、牧師ですから、聖書を読む、聖書を学ぶ、聖書のお話の準備をする、そしてそういう中で感動する、ということはありません。

も、一個人として賛美する、ということがどれほどあるか。一日に一度も賛美歌なり Worship Song なりを歌わないこともあります。礼拝や祈祷会がある時は歌います。でも、個人的には賛美が口を衝いて出るか……と言うと、ふとロズさんでいるのは、テレビのコマーシャルの歌だったりして、自分でがっかりすりことがとても多いのです。とにかく、賛美において何と貧しいことか、未熟、乏しいことか。これが私です。

このお話をすることで困っている理由、その二。賛美について学んだことがない、ということです。神戸の神学校でも賛美についてちゃんと学んだ覚えがありません。2002年から2006年まで、ミシガン州グランドラピッツにある Calvin Theological Seminary という北米キリスト改革派の神学校で学びました。その時は礼拝についても学びましたが、賛美そのものについてのコースは取ったことがありません。神学生の聖歌隊 Choir に入って一緒に2~3年、歌ったということにおいては、ある意味実践的な賛美の学びはしたかもしれませんが、神学的に賛美を学んだことはありません。

このお話をすることで困っている理由、その三。私たちの教会の日曜学校、教会学校で、何か特別に子どもを賛美に導くために、子どもが賛美に満たされるためにしてはいない、ということです。私自身は牧師として、教会の通常の務め、それは説教を中心にした主の日の礼拝の準備、祈祷会の準備、その他教会における霊的な働きに時間と労力を注いでいます。その他に中会や大会の仕事が否応なく入ってきます。そうすると、子どもたちの礼拝の賛美にどれだけ心を尽くせるか、尽くしてきたか、というと、ごめんなさいと言うしかない。子どもたちに賛美を教える。子どもたちと共に喜んで、賛美して、歌う。このことは中会や大会の仕事と比べて優先順位を下にしていいことでしょうか。教派の牧師ですから、中会や大会の諸委員選考委員会から様々な委員会に配属されます。その時、

「わたしは自分の教会の子どもたちの礼拝のため、賛美のため、賛美して生きていけるように信仰教育に励みたいから、委員会A、委員会B、Cに入ることはできません」とは、言えないのです。でも、そう言わなくてもいいのか。そう言ってもいいくらい、実は「賛美を教える」ということは大事なことです。私たちの憲法に教会規程があり、その中に政治規準があります。そこに牧師の任務というのがあります。牧師および宣教教師の任務は、次のとおりであります……とありまして、(1) 祈ること、(2) 御言葉によって群れを養うこと、(3) 礼拝の賛美と祈禱を指導すること、(4) (5) (6) (7) と続きます。任務の中に「中会大会の委員会活動に忠実に参加すること」というのはありません。でも、「賛美を教え導くこと」、これは、憲法に定められているのです。その点では、私は、憲法違反とまでは行きませんが、この点においては、憲法を誓約した神の御前に、悔い改めなければならないと思っています。

まだ他にもありますが、ここまで懺悔して、後は皆さんといろいろとディスカッションして、学び合う時としたい……というのが、本音です。それもまた無責任ですので、以下、今回私が賛美について考えさせられたところ、少しだけ学んだ所。そういうところをお分ちして、後で一緒に共通の悩み、どうすればいいのか……ということを共有できれば、また、教えて頂ければ……と、思っています。

1. 歌うとは

(1) 歌うということ：喜びを伝える歌

まず、「歌う」ということをご一緒に考えてみたいのです。皆さん、最初に歌った歌って覚えておられますか？ あるいは、ご自分のお子さんが最初に歌うようになった歌って覚えていらっしゃるでしょうか？ 私は自分のことは覚えておりませんが、私の死んだ祖母が、よく覚えておりました。「たーちゃんは、小さい頃、植

木等の『スーダラ節』をよく歌ってた……」と。何と悲しいことでしょう。2~3歳の男の子が、1960年代の初頭、大人に教えられてスーダラ節を歌っていたとは。きっと、みんな大人が喜んだんでしょね。3歳前後の男の子がそんな歌を歌うのを聞いて。人が喜ぶと、こちらも嬉しくなるので、ますます歌う。歌うとまたみんなが喜んでくれるからこっちも嬉しくなってまた歌うという、ある種の悪循環ですね。でも、きっと、みんなが喜んでくれるから歌い続けたんだと思います。

歌って、やっぱり、嬉しいから歌うんだと思います。人が喜んでくれる。一緒に歌ってくれる。それが歌う方の喜びにもなる。だからまた歌う……と言うように、「歌う」という行為は、ひとつは「喜び」「楽しみ」が原動力になっているのだと思います。

(2) 歌うということ：悲しみを伝える歌

歌を歌う原動力は、喜びや楽しみだけではありません。嘆きや悲しみも歌う原動力となります。私はあるとき、教会で思うようにいかないことがありまして、日曜の夜、書斎に入って、You Tube で検索してある歌を聞いていたのです。娘と家内が突然入って来て、娘が言いました。「パパ、何聴いてんの。変な歌……ハハハ、受けるウ」と笑うんですね。私の時代はフォークソングがはやっていた時代ですので、私の悲しみもやもやをフォークソングで慰めようとしたのです。さびの所だけをご紹介します。「悲しくて、悲しくて、とてもやりきれない。このやるせない もやもやを誰かに告げようか。悲しくて、悲しくて、とてもやりきれない。この限りない空しさに 救いはあるだろうか。

こんな歌、歌っても自分で自分の傷をなめるようなもので、自己憐憫に終わってしまいます。それでも、歌の持つ力はやはりあるもので、気休めでも、自己憐憫でも、この歌を歌うと悲しみを共有してくれている人がいると思える。あ

る慰めは、その歌が歌謡曲であろうと、フォークソングであろうと、演歌であろうと、クラシックであろうと、得ることができる。これも確かな点です。

このように、歌と言うもの、あるいは音楽と言ってもいいかもしれません。歌、音楽には、喜びや悲しみ、空しさを伝えたり、そのことで喜びや悲しみを共有する本質があるということです。ですから、歌は喜びや悲しみを共有できる。歌は喜びや悲しみを神と人々に伝えるための、ものすごくよくできた手段、道具だということです。

2. 歌と賛美

(1) 罪と音楽・歌

このように、造り主は私たちに「歌う」という能力、賜物を与えてくださいました。そもそも、その歌うとか、音楽を奏でるというのは、もともと神様が与えてくださったものです。だから、神様に対して、この歌をもって、音楽をもって、神様に対する思いをささげる。その手段、道具として歌や楽器、音楽は与えられている。これが歌や音楽の本来の用途のはずです。

しかし、聖書を読むと、最初に音楽が出て来るのは、カインの末裔にさかのぼります。ユバルというカインの末裔、レメクの息子が「豎琴や笛を奏でる者すべての先祖となった」とあります。そして、その父親レメクは、歌ったかどうか分かりませんが、もしかしたら歌ったかもしれません。歌ったとしたらそれは「人殺しの歌」です。「カインのために復讐が七倍なら、レメクのためには七十七倍」。

歌は、音楽は、罪に堕ちた人間の手によって、罪ある世界での罪にまみれた喜び楽しみ悲しみ怒りを表現する道具になってしまった。ちょっと言いすぎかもしれませんが、聖書が言う音楽の起源は決して、神賛美ではないのです。

(2) 救いと歌

もちろん、歌や音楽が持つ本質的な役割は、神をたたえるためのものであるはずで、神によって救われ、神の民とされた者は、新しくされ、神に歌うものとなりました。

そのことはとりわけ詩編において、繰り返して歌われています。いくつか一緒に確認しましょう。

詩編7編18節「正しくいます主にわたしは感謝をささげ、いと高き神、主の御名をほめ歌います」。

詩編9編3節「いと高き神よ、わたしは喜び、誇り、御名をほめ歌おう」。

詩編30編5節「主の慈しみに生きる人々よ、主に賛美の歌をうたい、聖なる御名を唱え、感謝をささげよ」。

詩編47編2節「すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ」。

詩編47編7節「歌え、神に向かって歌え。歌え、我らの王に向かって歌え」。

詩編66編1, 2, 4「全地よ、神に向かって喜びの叫びをあげよ。御名の栄光をほめ歌え。栄光に賛美を添えよ。神に向かって歌え、『…全地はあなたに向かってひれ伏し、あなたをほめ歌い、御名をほめ歌います』と」。

詩編68編5節「神に向かって歌え、御名をほめ歌え」。

詩編100編1, 2, 4節「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。喜び祝い、主に仕え、喜び歌って御前に進み出よ。……感謝の歌をうたって主の門に進み、賛美の歌をうたって主の庭に入れ」。

詩編105編2節「主に向かって歌い、ほめ歌をうたい、驚くべき御業をことごとく歌え」。

詩編150編「……主を賛美せよ、……主を賛美せよ、……主を賛美せよ。ハレルヤ」。

ほんの一部分ですが、詩編の中から救われた民が賛美できるようになっているところを挙げ

てみました。「主に向かって歌おう」「主に向かって歌え」「御名をほめ歌え」「ほめ歌って、賛美を添えよ」「神に向かって喜び歌え」……と言うように、「神に向かって歌います……歌いましょう……歌いなさい……」と、繰り返し言われています。救われた民は、歌は主への喜び、感謝、御名をたたえるための道具に変えられます。

主の祈りで「御名をあげめさせ給え」という祈りがあります。ある英語の聖書では「あなたがどう御方か知らせてください」と訳しています。主なる神様がどう御方かを知らされる。すると、ほめたたえずにはおられなくなる。喜ばずにはおられなくなる。これが賛美するということです。

主によって救われた民は、「主の栄光」、「自分の小ささ、にもかかわらずこんな小さな自分に目を留めてくださる主の愛」、「赦し」、「救って下さった経験」……などを思い起こすと、ほめたたえずにはおられなくなる。そうして、心の中にある、神の偉大さに対する驚き、その神が私を、私たちを赦してくださる愛、偉大な方がこの小さな者に目を留めてくださることに対する有り難さ、神の民、神に子どもとされていることの感謝と喜び、でもなお、罪人である私たちの申し訳なさ、でもでもなお赦し続けてくださる神の寛大さ……こうした神への感情をどう表したらいいのか。もうそれは、言葉と心と心の感動とを、賛美という歌声で表さずにはおられない。これが賛美です。

さきほど、3歳前後のたーちゃんが「スーダラ節」を歌って、それを聴いた周りの大人たちと一緒に、おそらく3歳前後のたーちゃんも有頂天になって喜んで、何度もアンコールに答えて歌ったんだと思います。覚えていませんが……。それも喜びの表現です。

しかし、喜びの歌、賛美を神にささげるとき、数えきれないほどの神の民が、一緒になって神の民であることの喜び、神の民であることの光

栄、神の民としての救いの感謝、神のすごさに恐れと驚きを感じる。それが、賛美の持つ力です。

(2) 嘆きと歌

主への歌は、喜びや感謝だけではありません。歌そのものが持つ本質の中に、悲しみや嘆きを告白し、その思いを共有してもらう機能があると、申しました。詩編はまさにそうしたことも歌っています。たくさん嘆きの歌があります。

「主よ、いつまでですか。もうお忘れになったのですか。いつまで御顔を隠しておられるのですか……」と、「いつまでですか……」と嘆く歌がたくさんあります。

ですから、悲しいとき、昔の信仰者は、嘆きの詩編を歌いました。

2005年夏、私は世界の改革派教会の協議会に出席しました。それも、カルヴィン神学校、カルヴィン大学の聖歌隊の一員として。一週間ほどその会議、協議会は続きましたが、私たちのCalvin Seminary College Choirは毎朝の礼拝のWorship Leadersとして奉仕しました。いろんな賛美歌を取り入れつつ、全体の賛美を導いたのですが、ある朝の礼拝で、ジュネーブ詩編歌の42番「鹿の淵れ谷に あえぐがごとく」をわがCalvin聖歌隊が賛美しました。2節はTakaが日本語で独唱せよ、ということで日本語で独唱しました。「『なが神いずこ』と、責めらるるとき、昼も夜も涙、わが糧なりき。主の宮に入り、感謝の祝い、ささげし昔を、思いて涙す」これが二節です。礼拝の後、南アフリカ・オランダ改革派教会の一人の牧師がやって来て、言うのです。「君の歌は日本語だったから歌詞の意味は分からなかった。でも、自分たちの教会でも歌っているので、君が2節を歌っているのは分かったし、歌詞の中にある悲しみも伝わって来た」と言っていました。

2000年も3000年も神の民たちが、悲しみの時、悲しみの詩編歌を歌ってきているのです。

その歌を今も神の民として歌う時、言葉が違う民であっても、神の民として一緒に悲しみを共有して歌うことができる。もっと言うなら、過去何千年のあらゆる国の神の民たちと共に、自分の悲しみ嘆きを神の御前に共有できる。これもまた歌の持つ力です。

先ほど私が、ザ・フォーク・クルセダーズの「悲しくてやりきれない」を聴いて、ある種の慰めを得ると言いました。そういうことはあると思います。でも、詩編にある悲しみの歌を歌う時、神の御前に何千何万何億という神の民と共に、神の民としての悲しみ、神の民としての苦しみ嘆きを共有することができる。ここにも賛美が持つものすごい力があると思うのです。

3. 聖霊と賛美

賛美とは、神の民として神に対して、自らがまた、神の民と共に、神に対する喜びや畏れ、驚き、感謝、嘆きを、言葉や歌や音楽に乗せて届けるものです。

次に考えたいのは、なぜ私たちはそのような喜びや嘆きの賛美をささげることができるのか、ということです。

(1) 神御自身が歌の宝庫

まず、なぜ私たちは歌えるのか。これはどう考えても、神御自身が歌、音楽、メロディの源であられるからです。最高の音楽家であられる。最高の作詞家であられる。最高の作曲家であられる。その神に似せて私たちは造られたのです。だから、まことの作曲家、作詞家、音楽家であられる神に似せて造られた私たちもまた、歌を造り歌うことができるのです。神に造られた天の大軍勢・天の大聖歌隊もまた、神から賛美の能力が与えられ、罪に汚されぬその賛美の能力は、いかに天において発揮されています。

イザヤもその賛美を聴きました。「聖なる、聖なる、聖なる万軍の主。主の栄光は、地をすべて覆う」(イザヤ6章3節)。荒れ野の羊飼

たちもそれを聴きました。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ2章14節)。使徒ヨハネもパトモス島で聴きました。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方」(黙示録4章8節)。

またヨハネは言います。「またわたしは見た。そして、玉座と生き物と長老たちとの周りに、多くの天使の声を聞いた。その数は万の数万倍、千の数千倍であった。天使たちは大声でこう言った。『屠られた小羊は、力、富、知恵、威力、誉れ、栄光、そして賛美を受けるにふさわしい方です。……玉座に座っておられる方と小羊とに、賛美、誉れ、栄光、そして権力が、世々限りなくありますように』」(黙示録5章11～13節)。

このように天の大聖歌隊は、神様をたたえて大賛美をささげていることでしょう。壮大にして美しく汚れなく尊厳と栄光に満ちた賛美がそこで話されている。それは、神様御自身の中に満ち満ちている清く美しく荘厳なメロディを反映しているというか、神様の無限永遠の音楽性を照らし出していると言ったらいいでしょうか。

そんな神様に似せて造られているので、私たちもまた、歌が歌えるのです。それが、フォークソングであれ、演歌であれ、クラシックであれ、ロックであれです。

そして、神の民が神に向かって歌えるのも、神御自身が歌、音楽の塊のような御方だからです。聖書に直接そんなことは書いていませんが、聖書全体から私はそう確信しています。神様こそ、こんなに素晴らしい音楽はない、こんなに見事な歌はない、という、音楽・歌の塊のような方だと私は聖書全体から、そう信じています。

(2) 聖霊が神への歌を取り次いでくださる：喜びの歌

私たちが歌を歌えるのは、神のかたちに似せ

て造られているからだ、ということをお話ししました。次に、なぜ私たちは神に賛美をささげることができるようにされているのか、ということです。もちろん神御自身が歌の塊であられるから、私たちも賛美をささげられるのです。

でも、私は3歳のころ賛美は歌いませんでした。スーダラ節でした。学生時代も賛美は歌いませんでした。「悲しくてやりきれない」でした。

それが今、はなはだ貧しく乏しく未熟ですが、神に賛美の歌を、嘆きの歌を歌えるようにされました。どうしてでしょう……という問です。

第一に、私たちは神による救いを体験しました。神による救いを体験した者は、神のその憐れみ、偉大さ、恐ろしさ、慈しみに触れ、その経験に心が揺さぶられ、突き動かされます。そしてその心の喜び、恐れ、驚き、感謝、感動は賛美となって、心の中にある言葉とメロディが外に噴き出して来るのです。出エジプトを経験したモーセとミリアムはそれぞれ歌いました。「モーセとイスラエルの民は主を賛美してこの歌をうたった。『主に向かってわたしは歌おう。主は大いなる威光を現し、馬と乗り手を海に投げ込まれた。主はわたしの力、わたしの歌、主はわたしの救いとなってくださった。この方こそわたしの神。わたしは彼をたたえる。わたしの父の神、わたしは彼をあがめる……』」（出エジプト記15章1, 2節）。

今、私たちは出エジプトではなく、まことの出エジプト、主イエス・キリストによる救いを経験しています。その私たちは、主イエス・キリストによる救いの経験を思う時、心の中の言葉とメロディが外に噴き出して来るのです。

その救いのリアリティは、主が送ってくださる聖霊が、私たちの中に造り出してくださるのです。イエス様はおっしゃいました。「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなた方を導いて真理をことごとく悟らせる」（ヨハネ16章

12, 13節）。

この聖霊がお約束どおり与えられたら、キリストの弟子たちは、一緒に集まって、神を賛美していました。そしてその姿を見て多くの人々が救いに入れられて行きました。

ですから、神の聖霊が私たちにイエス・キリストを信じる信仰を与えてくださる。そして、私たちを罪の奴隷状態から救い出し、神との間柄を取り戻してくださる。そうして、私たちは、神の偉大さ、恐ろしさ、神の憐れみ、愛、忍耐、きよさに触れることができ、そんな神に対する恐れ、感動、感謝、喜び、自らの罪の自覚と共に赦されているありがたさ……、そういったことをたたえずにはおられなくされる。そんな心の動きが言葉とメロディに乗って神に届けられる。これが賛美です。

聖霊が私たちに神御自身とその御業とを思い起こさせてくださる。その時、私たちの魂の中に、私たちの生活の中に、化学変化、化学反応が起こるのです。神と神の御業とを歌わずにはおられないという化学変化、化学反応が私たちの魂の中に生じるのです。そして賛美となって溢れ出て来るのです。賛美は聖霊が造ってくださる魂の化学変化・化学反応の賜物です。

(3) 聖霊が神への歌を取り次いでくださる：悲しみの歌

聖霊は神への喜びの歌、賛美の歌だけでなく、私たちの嘆きの歌をも神に届けてくださいます。

パウロは言います。「同様に“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです」（ローマ8章26節）。

私たちの心の中にあるうめき、嘆き、悲しみを、聖霊は私たちの心に寄り添いつつ、知ってくださる。そしてその私たちの悲しみ、苦しみの「うめき」を天の父は届けてくださる、とい

うのです。

先ほども申しあげましたが、多くの詩編の信仰者たちは、神に率直に嘆きました。その嘆きの心の言葉、嘆きのうめき、悲しみの心の声。それは、聖霊が知っていてくださったのです。そして、聖霊が彼らのそのうめきを言葉に整えて彼らに嘆きの歌を歌わせたのです。父なる神に届けるためにです。

私たちが詩編にある嘆きの歌を、同じ主の民としてその歌を同じうめきをもって歌う時、その時、聖霊が私たちの心の中にある嘆きうめき悲しみを、言葉にして天の父に届けてくださいます。天の父に届けてくださる時、歌う私たちは、天の父が聞いていてくださるという手ごたえを実感することができます。そこで私たちは、フォークソングでは得られない、神からの慰めを受け取るのです。

また、その嘆きの歌に私たちの心を寄せて、聖霊によって神に歌う時、私たちは数えきれない神の民たちの、悲しみに共鳴できる。彼らと一緒に神の民としての悲しみ、苦しみ、嘆きを共有できる。そこで私たちは、悲しみ歌いつつ、聖霊が仲立ちとなってくださるので、慰めと力づけを頂けるのです。

4. 賛美は三位一体の構造

聖霊が私たちの中に賛美の言葉、賛美の心、化学変化・化学反応を造り出してくださいます。そして、私たちは賛美へと促されます。

聖霊が、キリストによる救い、罪の赦しを私たちに呼び起こしてくださいます。それで私たちは、キリストを歌いつつ、キリストを送ってくださった父なる神をほめ歌います。賛美歌の506番がそうですね。3節「父なる御神と 御子なるイエスとの 救いのみめぐみ、はかり知られず。御栄えあれや、御栄えあれや、御栄え、御栄え、御神にあれや」。これは、聖霊なる神様が、父が御子をお送りくださるほどに私たちの愛し、罪の赦しを実現してくださったことを

思い起こさせてくださる賛美歌です。

また、聖霊は神の偉大さ、摂理の深さをも、また造り主としての壮大さをも、私たちに思い起こさせてくださいます。そうして、神の偉大さをほめたたえずにはおられないようにと、私たちの心の中に霊的な化学変化・化学反応を起こして下さり、心の中のその言葉と感動をメロディにのせてあふれださせてくださいます。

また、聖霊は私たちの罪深さを嘆かせ、なおも忍耐強く待ち続け、受け入れ続けてくださる父なる神と、御子イエス・キリストの忍耐深さ、愛の大きさに思いを向けさせてくださいます。その時、私たちは、心の痛みと共に、罪の赦しの確かさと神の慈しみの深さを賛美にのせて神に届けさせて頂けます。

とにかく、賛美は聖霊抜きでは考えられません。聖霊が父を御子をたたえさせてくださる。言い換えると、聖霊によってのみ産み出される、神の民の神への心の叫び、心のいけにえです。

聖霊論的と言いますか、非常に三位一体論的な構造の中で賛美は生み出されます。父が、御子がほめたたえられるのですから三位一体論的です。が、何と云ってもそのことをさせてくださるのは、聖霊なる神様です。

5. どうすれば聖霊によって賛美が生み出されるのか

では、どうすれば、聖霊によって心の中に父を、御子を、また、その御業をほめたたえるような霊的な化学反応・化学変化が起こるのか。ここが最も私たちにとって大きな関心事となるかもしれません。

(1) 御言葉

まず何と云っても、聖書の言葉が聖霊の道具としてより有効に用いられることが第一に大切でしょう。聖書の言葉が聖霊によって解き明かされる。そうすると、私たちの心の中に、主をほめたたえる心、罪を嘆き悔い改める心、赦さ

れて神の子とされている確信、神の子として神に子らしく一生懸命清く正しく愛に満ちて生きていきたいという心が、化学反応のように湧きあがってきます。その化学反応が起きた心を適切な賛美歌が、言葉とメロディとなって注ぎだされて行きます。ですからまずは御言葉です。御言葉を解き明かす私たち説教者牧師の務めが問われて来ます。しかし、会衆も御言葉を瞑想する生活の中で、日々の営みの中で、心の中に化学反応が起きて来ます。信徒は皆、いかに聖霊によって化学反応が起こされか。そのために、日々の御言葉の摂取と瞑想が問われて来ます。

(2) 共に賛美する

聖霊に導かれる、聖霊に満たされる、聖霊が心に霊的な化学反応を起こして下さる。そうすると、私たちは賛美に導かれます。では、そのような化学反応が起こるまでは賛美はできないのか。

詩編では、「主の慈しみに生きる人々よ、主に賛美の歌をうたい、聖なる御名を唱え、感謝をささげよ」(30編5節)と、兄弟姉妹たちに賛美することを促しています。47編では「すべての民よ、手を打ちならせ。神に向かって喜び歌い、叫びをあげよ」と、賛美することを命じています。気持ちが乗ってきたなら賛美なさい、ではない。気持ちが乗ろうが乗るまいが、喜び歌い、叫びを上げよ、と命じています。

もちろん、そうは言われても、どうしても歌う気になれない、ということもあります。歌いつつ、一生懸命、心を込めようとしても白々しい思いに悩むこともあります。それでも、聖書は命じています。「歌え!」「ほめたたえよ!」「賛美せよ!」と。

なぜなら、私たちの状態がどんなに賛美する状態でないにしても、神様は、イエス様は、どんな時でも賛美せられるべきお方だからです。

だから聖書は、また、主は、私たちに、賛美する仲間と共に賛美するようにと励ましてくれ

ています。一緒に歌ってくれる人がいると、その人たちの心の中にもっている火が、こちらに移って来るのです。聖霊はそういうしかたで、聖なる火事 (Fire) を私たちの共同の賛美の中で起こして下さいます。

私は朝が苦手な朝、気持ちがいいと思ったことはもうすぐ55歳になりますが、50年くらい経験していません。申し訳ないことに日曜はかなり朝の気持ち悪さが大きい日です。大丈夫かなあ、説教できるかなあ、小会をちゃんと導けるかなあ、皆さんお休みしないでいらっしゃるかなあ、終わりまでこの一日全うできるかなあ……と、考えつつ、他の六日間よりも調子が悪いのが日曜の朝です。そんな私ですが、ある朝、日曜学校で「今日はだめだ」といつものように思いつつ、それでも子どもたちと賛美していると、心がどんどん軽くなるのを感じました。賛美をすることによって、しかも、歌う仲間と一緒に賛美することで、みんなの心の中にもっている聖霊の火が、私にも飛び火してきたのです。

ペンテコステの時、炎のような形で私たちのところに来てくださった聖霊は、今も共に賛美を歌う仲間たちの間で、炎のように化学変化の飛び火を、あっちにもこっちにも、造って下さいます。だから、賛美を歌う仲間と一緒に賛美をする。賛美の化学変化が起きているそのただ中に身を置く。その時、聖霊は私たちの中に御業をなして下さいます。

(3) 聖歌隊 (Worship Leaders) の役目

私たちの教会で月に一回、青年たちだけが賛美リーダーになって賛美夕礼拝を導いています。私はショート・メッセージと最後の派遣の祝福はしますが、後は会衆の一人として彼らの賛美リードに従って歌います。彼らがギターを弾きマイクで歌を歌う。その彼らの賛美リードに私はしばしば心燃やされて賛美へと促されます。

聖霊は、賛美リーダーとか聖歌隊を用いて、会衆全体に火をつけてくださいます。賛美リーダーとか聖歌隊は、会衆全体が賛美の火事、大火事になるようにと、聖霊がたててくださっている火付け役です。その一本のマッチで、会衆全体に化学変化が起こり、火事が起こるのです。

できれば、子どもの賛美チームを作りたいと思っています。そして、大人の礼拝である賛美を会衆で歌う場合、彼らを聖霊による火付け役として用いてみたいと思っています。上手く練習ができて、子どもたち自身の中に聖霊による化学変化が起こされ、心に火がついた状態で、賛美リーダー、賛美チームとして歌ったなら、きっと、会衆の中に大火事が起こると思います。

ということで、聖霊に導かれて賛美が燃やされるためには、聖歌隊とか賛美チームがとても有効に聖霊の器として用いられることということです。

6. 賛美と礼拝

(1) 賛美と奏楽者

聖歌隊も賛美リーダーもいない。となると、オルガン奏者が孤軍奮闘して、火付け役になる必要があると思います。上手に間違えないで弾く、というわけではありません。

「私についていらっしゃい！」という、無言の気迫のこもったリーダーシップを奏楽の中で発揮する、ということです。歌詞の意味をよく理解して、自らが聖霊による化学反応に浸りつつ、一人聖歌隊として、一人賛美チームとして、会衆を引っ張って行く。

そのとき、会衆の何人かが奏楽者のリードによって火がつけられる、化学反応が起こる。すると、その化学反応がまた別の人に飛び火する。そして、最後には会衆全体が一つのまとまった聖歌隊となって、天の大聖歌隊に加わって神に賛美をささげていることになるでしょう。

(2) 賛美と伝道

その時、初めて教会に来た方、求道中の方、しばらく信仰的にダウンしていた方々は、その会衆賛美によって、説教でも味わえない、また別の御国のリアリティを体感することになると思います。ですから、そういう本物の賛美は、伝道の道具手段として実に有効に用いられるということです。

ペンテコステの後の弟子たちは一緒に過ごしつつ、賛美もしていました。彼らは、「毎日ひたすら心一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」(使徒2章46, 47節)。

賛美だけではありませんが、信徒が集まる礼拝で賛美が聖霊によって火がつけられ、神にささげられているなら、きっと、その賛美によって多くの求道者が生まれ、求道者は神の国のリアリティを体感することでしょう。

(3) 指導者

そんな賛美へと導かれるために、理想的には賛美指導者が欲しい。賛美歌をバランスよく選曲し、聖歌隊をリードし、奏楽者をも適切に指導するような信仰的にも豊かな音楽主事が与えられると素晴らしい。米国の大きな教会では、信仰的にもリーダーシップを取れ、かつ、音楽家としても有能な方が音楽主事として教会の賛美を豊かにするためにかなりの報酬も受けつつ働いています。音楽賛美専門に導く音楽牧師がいる教会も珍しくありません。

でも、今の私たちの状況ではそれはまだ夢のまた夢です。できるところで最善をなして行くしかありません。奏楽者が一人でもいれば、奏楽者と牧師が、あるいはそこに長老や執事も加わって、お茶を飲みながら、教会の音楽、賛美全般について、定期的に話し合うことだけでも

ずいぶんと有益でしょう。そんな中で、「先生、賛美歌〇〇番が好きですねえ」と言われれば、牧師は、「あ、ちょっと賛美歌の選定が偏っているかな」と気付かされるきっかけにもなります。

「どうしたら、子どもも若者も大人も一緒に、聖霊に導かれる賛美をささげることができるでしょうね」、「そのためにはどんな賛美歌がいいでしょうね」、「どうすれば、子どもも、若者も聖霊による化学変化を頂きながら、大人と一緒に生き活きとした賛美をささげることができるでしょうねえ」。

そんな話題に花が咲いたら、きっと、聖霊はその会話をさらに一步前に進ませてくださると思います。

7. よい賛美の発掘、新規作成：

ささやかな努力

どうすれば、聖霊によってみんなが心一つにして、賛美をささげることができるのか。

(1) 分かる言葉で

ひとつはみんなが分かる言葉で、歌うことです。私たちの新浦安教会は、6曲から7曲、毎回の主日礼拝で賛美します。そのうち2~3曲は教団の古い讃美歌から。1曲はジュネーブ詩編歌から。1曲は讃美歌21から。2曲は比較的新しい歌を私と教会の奏楽者たちで翻訳したものです。

教団の古い讃美歌は歌いなれていて、文語調で格調はあります。でも、どうにも分からない言葉が多すぎます。だからなるべく分かる言葉で歌えるように、これはいいなあ、という曲は日本語に翻訳して使っています。

分かる言葉なら、讃美歌21はかなり分かりやすい言葉です。でも、全面的にそれに変わる踏ん切りは私にはついていません。

(2) 新しい歌

先ほども述べた比較的新しい曲の翻訳です。分かる言葉という点では、いいのですが、なかなか新しく翻訳して、それも、歌うにあたってふさわしい言葉に翻訳するのは難しいということです。はっきり言って時間がない。世界中にはたとえば、わずか、ここ50年の間に作られた曲の中でさえ、素晴らしい賛美がたくさんあります。なんとかそうした、今の私たちの音楽的感覚にも合う良質の賛美を発掘できたらいいと思います。ただそのためには時間がいります。大きな関心を払う必要があります。そして、私たちが歌えるように、ふさわしい翻訳をして行くには、時間だけでなく、そのための賜物も必要です。英語圏のものが多くですが、英語の賛美歌を日本語に訳すと、私の場合、二倍くらいの量になります。英語では1節だけでも、日本語にすると2節に分けて歌うということです。

今の子どもも大人も若者も心をひとつにしながらかえるような、良質な賛美の歌詞とそれにふさわしいこれまた良質のメロディを新たに造ることができるといいです。しかし、これは本当に難しいです。

たとえば、私の好みと私の妻の好みはそんなに違いません。でも、私の好みと私の子どもたちの好みは随分違います。両方が好むような素晴らしい賛美を見いだすことはとても難しいことです。

それでも、私たちは神の民です。神の民として分かる言葉で、思いをひとつにして、聖霊の助けを頂きつつ、同じ歌を神に向かってささげるための努力は必要です。

最後に

賛美は聖霊が造り出してくださるものである。これが、結論です。

では、聖霊が私たちの中に造り出してくださる聖霊の歌である賛美はどういうものか。力強く、大きな声なのか。何人かの人々は陶醉する

ような仕草で歌っているのが、それなのか。

それは分からないということです。

ある人は非常に力強く感情を込めて涙しながら歌っている。でも、神の目から見たらそれは賛美でなく、ただ陶醉しているだけかもしれません。逆に、ある人は、歌うこともせず、じっと表情も変えず、歌詞をただ聞いている人がいるかもしれません。でも神の目から見たら、その人の心は罪を嘆き、同時に罪の赦しにうちふるえ、そこまで愛してくださる神に感謝でいっぱい、ということがあられるかもしれません。

ですから、私たちは外見や音量から、またどんなに四部合唱が美しくても、そこからすぐさま、聖霊に満たされている賛美だと判定することはできません。

それでも、神が最も喜んで受け入れてくださるいけにえのひとつが賛美である。これは事実です。いろんな機会をとらえて、子どもも、大人も、若者も、教会全体で、この最良のささげ物が神にささげられて行くことに、更なる関心と労力を払うことの必要性はあると思います。

でもそれは、牧師一人ではできません。奏楽者一人ではできません。聖歌隊ができれば大丈夫、ということでもありません。みんなで、今一度、賛美とは何か、どうすれば神に喜ばれる賛美をささげられるのか。そういったことを、宣言作成や、教勢の進

展や、伝道の進展や、説教の向上などと同じくらい、いやそれ以上の関心と努力を払って、前進させていただけるようにと努める。それくらい意義があること。それが聖霊の歌である賛美を充実して行くことだと思います。

ご一緒に祈りましょう。

聖霊なる神よ。あなたは私たちが賛美の心、賛美の生活で満ちあふれ、その中で生き活きと神と共に、主イエスと共に生きることを願っておられます。そのあなたの願いに忠えて、まことの賛美を求めて歩ませてください。すべてのあなたの民が、すべてのあなたの教会が、この点において前に進んで行くことができますように。そして、私たちがまことに賛美をささげている姿を求道の友、新来会者が見て、天の御国を垣間見ることができるよう。また、私たちが賛美の生活をささげているのを世の人々が見て、あなたのもとへ一人二人と導かれて行きますように。そして、なにより、あなたの栄光をほめたたえるという、私たち人間に与えられている最高の特権により豊かにあずかることができるようにと、私たちに祝福してください。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。



新しい歌

木下裕也（名古屋教会牧師）

名古屋教会では契約の子供たちが中高生の年代になってきたので、讃美を工夫しようと思ったことがオリジナルの曲をつくる試みのきっかけになりました。今は日曜学校の礼拝で、ギター伴奏で歌っています。そのうちに大人たちも歌うようになりました。今年の伝道集会でも、讃美することにしています。2曲をご紹介します。皆さまにも歌っていただければ幸いです。今（教師研修会当日も紹介されましたが）、中部中会のオリジナルの曲が次々に生まれつつあります。それらをひとつにまとめることも計画されています。そうしたわざによっても、讃美することの喜びがさらに増し加わりますように。



名古屋教会での讃美の様子（1）



名古屋教会での讃美の様子（2）



あなたの歩きかたで

作詞・作曲：木下裕也

Guitar

あな た の あ る き か た で つ い て い こ う

し ゅ の あ と を み ち に ま よ わ ぬ よ う に

み ち び い て く だ さ る あ し た な ん し た ば か の い な し ひ が な い くり

な て は や い な み い つ た じ と え か も つ ん し づ を ひ け の た け つ て ら い う さ い に す べ に は し ゅ し ゅ

て む そ し す な ら ば え れ れ て お か い ら た れ れ が ば る と そ あ も の な に み た い ち だ け て は 一 の く だ た み さ し ち

る か を あ な た の あ る く は や さ で つ い て い こ う

し ゅ の あ と を し ゅ イ エ ス だ け を み つ め て

し た が っ て い こ う

イスラエル

作詞・作曲：木下裕也

Guitar

F Dm Bb

こあ わる がけ っな てか いっ たた わわ たた しっ をて しゅ は ま ま も さ つ て く だ さ っ
 ある る き も の は たす わ わ た た しっ をて しゅ は ま ま も さ つ て く だ さ っ
 ぶ る き も の は たす わ わ た た しっ をて しゅ は ま ま も さ つ て く だ さ っ

4 C7 F Dm

た た い ま わ た し は イ ス ラ エ ル しゅ
 た た い ま わ た し は イ ス ラ エ ル しゅ
 た た い ま わ た し は イ ス ラ エ ル しゅ

7 Bb C7 F F7 F

は い き て お ら れ る ひ と は か み の め ぐ
 は い き て お ら れ る ひ と は か み の め ぐ
 は い き て お ら れ る ひ と は か み の め ぐ

10 Dm Bb C7

み に い き る わ た し は そ の あ か し び と わ た
 で よ あ る こ わ た し は そ の あ か し び と わ た
 で よ あ る こ わ た し は そ の あ か し び と わ た

13 F Dm Bb Bb C7

し の な は イ ス ラ エ ル ハ レ ル ヤ か か ん し し ま
 し の な は イ ス ラ エ ル ハ レ ル ヤ か か ん し し ま
 し の な は イ ス ラ エ ル ハ レ ル ヤ か か ん し し ま

16 F

すすす



名古屋教会での讃美の様子 (3)

副読本のご案内

『主は羊飼―中高生のための教理入門―』

価 格 800円

著 者 木下裕也

(名古屋教会牧師・教会学校教案誌編集員・神戸改革派神学校講師)

ぜひお買い求めください。ご注文は教案誌編集部まで。

❶ 人生の目的―神礼拝

もうかなりのお年になってから教会に連れ始められた方と聖書の学びをしていただきたことです。そのときまたま一緒に、ウェストミンスター小教理問答の問1を読みました。その問いは「人のおもな目的は何であるか」です。

この問いを読まれて、その方はつぶやくようにおっしゃいました。一わたしはもう何十年も生きてきたのに、人生のほんとうの目的などということを考えたこともありませんでした、と。

人生の目的とは何か。このことをはっきり知っているのと、知らずにいるのとでは、やはり生きかたが大きくことになってくるのではないのでしょうか。

さまざまなことが人生の目的になり得ます。お金をもうけること、地位や名誉を得ること、仕事で成功をおさめること、熱烈な恋愛をすることなどです。これらのことは人生にある幸せをもたらすでしょう。

けれども一方で、そのどれもが不確かです。お金は一瞬にして失われることがあります。地位や名誉を得たとしても、たった一度のあやまちでそのすべてを棒にふることもあります。熱烈な恋もさめることがあります。とすれば、これらはいずれも人生の究極の目的とはなり得ないでしょう。

さらに、私たちの命そのものも不確かなのです。明日この地上に生きているという保証を、私たちはだれひとり持たないのです。

では、私たちはついに人生の確かさ、人生のほんとうの目的を見出すことはできないのでしょうか。

いいえ、私たちは人生の真の目的を知ることができます。ほんとうに確かで、生きがいのある命と人生を生きることができるのです。

もういちどウェストミンスター小教理問答の問1を見ましょう。

問 人のおもな目的は何であるか。

答 人のおもな目的は、神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

もうひとつ信仰問答を見ましょう。ジャン・カルヴァンの手になるジュネーブ教会信仰問答の問1はこうです。

問 人生の目的は何ですか。

答 神を知ることです。

人生の目的は神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜ぶことにあります。すなわち、神さまを礼拝することこそが人生の真の目的なのです。

人生の確かさは私たち自身の中にはありません。私たち自身何かを頼りにしているかぎり、私たちの人生は不確かです。

けれども神さまは確かなお方です。神さまこそ私たちの人生のゆるぎなき土台、岩、命のとりです。なぜなら神さまは天地の造り主であられ、私たちの命の与え手であられ、この世界のいとなみと私たちの人生の歩みのすべてをみ手のうちに握っておられるお方だからです。

『教会学校教案誌』発行のための 自由募金のお願い

教会のかしらなる主イエス・キリストの御名をあがめます。

中部中会日曜学校委員会（2007年4月中部中会第一回定期会で教育委員会から改組）は、日本キリスト改革派教会をはじめとする改革・長老主義諸教会の教会学校・日曜学校教育に資することを目的として、『教会学校教案誌』を発行しています。2001年4月に始まり、すでに13年目に入り、第50号まで発行して参りました。中部中会ではほとんどの教会により採用され、改革派教会全体でもおよそ70教会で採用されています。大会教育委員会もご支持を表明してくださっています。皆様のご支援に心からの感謝を申し上げます。

『教案誌』の発行は中部中会の事業として行われておりますが、中部中会日曜学校委員会では、あわせて皆様からの自由募金によってご支援いただきたいと願っています。子どもたちの信仰教育のために、ぜひ皆様からのお祈りと募金のご支援をいただきたく、よろしく願い申し上げます。教案誌を購入していただきやすくするために、教案誌の頒布価格を印刷・製本単価ぎりぎりにおさえています。『教案誌』をご購入くださることも発行のための支援となりますので、ご購入いただくことによってもご支援くださいますよう、お願いいたします。

目標金額 30万円／年

送金先 郵便振替 伊藤治郎

00890-2-148183

※通信欄に「教案誌のための自由募金」と明記してください。

聖書默想・説教展開例・分級展開例

7月7日 第六戒 殺してはならない 説教展開例

テキスト マタイによる福音書 5章21～26節
子どもカテキズム 問53, 54

(単元のねらい)

この戒めの範囲を正しく知り、自分たちのしていることが神さまの御前にあることを、子どもたちにも気付いてもらいたい。そして身近なこととして、人を馬鹿にしたり、からかったり、いじめたり、嫌ったり、憎んだりすることを反省し、また語る者も一緒になってへりくだって、人を愛する心が与えられ、共に生きることを求めて、神さまに祈りたい。

心の中まで知っておられる神さま

さて今日の十戒の学びは第六番目のお約束「殺してはならない」です。神さまは私たちに「あなたは殺してはなりません」と語りかけています。この「殺す」という言葉はなんだかとても怖いことだと思いませんか？ここにいらっしゃる皆さんは、この夏に蚊が飛んできて自分の体にとまって血を吸っていたら、その蚊を殺すということぐらいはしたことがあると思います。自分の体を守るために蚊を殺すとか、生きていくために牛や豚や鳥を殺して食料にする。そういった私たちが生きていくために家畜や虫を殺すことはいけないことでしょうか？神さまは、そういう意味での「殺す」ことは許しておられます。では、十戒で神さまが禁じておられる「殺してはいけません」ということは、何のことを言っているのでしょうか。十戒は10個のお約束であることはすでにお話ししてきました。そして第1戒から第4戒までが「神さまと私たちの関係」について、また第5戒から第10戒までが「私たちと他の人たちとの関係」について教えているのでしたね。ですから、今日の第6戒で「殺してはいけません」と言われているのは、「人を殺してはいけません」という教えなのです。

ここにいらっしゃる皆さんは、お家の人や学校のお友達を殺してしまって警察に捕まることなんかしたことはないと思います。それでは、神さまが「殺してはいけません」と教えていることは、自分とはあまり関係ないのでしょうか？なんか自分には当てはまらないように聞こえてきますよね！で

も、人が人を殺してしまうことは私たちの周りでも起きています。テレビや新聞などを見ると、毎日のように人を傷つけたり殺したりという事件がたくさん起こっています。みんなと同じぐらいのお友達が殺されてしまうという事件まで起こっています。それから、どこかの国で戦争が起きていることもニュースなどで伝えられています。人が人を殺すということが、今も世界のどこかで起きています。ですから、人が殺されてしまうということは、わたしたちの近くで起きていることなのです。人が殺されるというのはとても悲しいことです。家族が殺されたりお友達が殺されるといったことが起きると、たくさんの人たちが悲しみます。とつてもつらい気持ちになります。今日もどこかで、そのような悲しいことに直面している人がいるのですね。しかし、ここにいらっしゃるみんなは、そういう経験をしたことが無ければ「やっぱりこのお約束は自分にはあまり関係ないのではないかなあ」と思うかもしれません。「実際に人を殺してその人の命を奪ってしまうなんて私はそんな怖いことはできないし、またしたいとも思わない」そのように思うことでしょうか。もちろんそうですよね。でもこのお約束は、私たちが本当に人を殺して命を奪ってしまうことを禁じているだけではないのです。

例えば皆さんは、お友達とけんかをして「あの子いやだなあ」とか「あの子なんていなければいいのに」と思ったことはありませんか？学校で

人気のあるお友達のことを見て、「あの子だけ人気があって面白くない」なんて思ったことはありませんか？ お父さんやお母さんが他の兄弟ばかりかわいがると言っていていじわるしたことはありませんか？ またお家の人に叱られたり何度も注意されたときに「うるさいなあ、お父さんもお母さんもいなければいいのに」と心の中で考えたりしたことはありませんか？ 先生もそういった気持ちを持ったことがたくさんありました。でも、こういう気持ちを心の中で持つことも「人を殺すことなのだよ」とイエスさまが新約聖書の中で説明されています。このように言われました「しかしわたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者は誰でも裁きを受ける。兄弟に『ばか』と言う者は最高法院に引き渡され、『愚か者』と言う者は火の地獄に投げ込まれる」。つまり学校のお友達や兄弟やお家の人に対して、心の中で「いやだなあ」とか「憎たらしいなあ」とか「いなければいいのに」と思ったり言葉にしてしまうと、心の中でお友達やお家の人を殺しているのと同じになってしまうのです。

その他にも、みんなの周りでお友達をからかったり、いじめたりするようなことが起きていたら、それも人を殺すことと同じになります。なぜかというとお友達をからかったり、いじめたりすることは、その人の気持ちを傷つけ、その人の存在を踏みにじることになるからです。

ではなぜ神さまは、私たちがそうした心を持つことによって人を殺してしまうことがないようにと言われるのでしょうか？

そこで神さまが人をお造りになった時のことを思い出してみましょう。神さまはこの世界を「光りあれ」から初めて6日で造られ最後の7日目に休まれたのでしたよね。人間は6日目に造られました。そのとき神さまはこう言って人間を造られました。「我々にかたどり、我々に似せて人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう」。このように神さまは人間を神様のかたちに似せて造られました。ということは、みんなもみんなの周りにいる

お友達やお家の人にも神さまが命を与えられ、神さまのかたちに造られたわけです。ですから、私たちが神さまに似せて造られた周りの人々を殺してしまうことは、神さまを殺すことになってしまいます。また、私たちが心の中で「あの子いやだな」とか「あの子憎たらしいな」とか「あの子なんかいなければいいのに」と思うことは、神さまのことを「いやだな、憎たらしいな、いなければいいのに」と思うことと同じになり、私たちを愛してくださっている神さまをばかにし悲しませてしまいます。私たちが神さまを愛さない、周りの人々を愛さないということになると、私たちの周りで、心の殺人が起こり、神さまを深く悲しませ、つらいことや苦しいことがどんどん起こってくるのです。

神さまは、イエスさまの十字架を通して私たちが心から愛してくださっています。そして私たちが周りの人を愛することを願っています。みんなの周りに愛や希望や喜びがいっぱいあふれているように願っています。ですから私たちは、人を傷つけるような心の殺人から遠ざかり、自分の命も他人の命も大切にすべての人たちと愛し合いながら生きることができるよう、神さまにお祈りしてお願いしていきましょう。この一週間も神さまに喜ばれる生活をしていきましょう。

それではお祈りいたします。天のお父さま、今日も愛するお友達と先生たちと一緒に礼拝をすることができありがとうございます。神様はいつも私たちの命を守ってくださいます。ですから、私もお友達や兄弟と話したり遊んだりするときも、意地悪な思いや、よくばりな思いや、ねたむ気持ちを心に持たないようにお守りください。どうかイエスさまの愛の心を持たせてください。イエスさまが人々を愛したように、私たちも家族やお友達や町のすべての人々を愛することができますように。どんな人にも親切にすることができますように、正しいことをする勇気をお与えください。この祈りを、イエスさまのお名前によって、お祈りします。アーメン (草野 誠)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 5章22節

しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける。

〈ねらい〉

心の中で人を憎んだり、言葉で人を傷つけたりすることは、心の中で人を殺すことであると主イエスは教えておられます。命を傷つけることは命を造られた神様の御心に背くことです。

〈展開例〉**1. 人を殺したことはないと言えますか**

「あなたは人を殺したことがありますか」と聞かれたら、どう答えますか。「そんな恐ろしい罪を犯したことは一度もありません」と答えると思います。

しかし、たとえ実際に人を殺さなくても、「兄弟に腹を立てるもの」「兄弟に『ばか』と言ったり『愚か者』と言うもの」は、実は心の中で人殺しをしているんだよとイエス様はおっしゃっています。

2. 心に突き刺さる言葉のナイフ

最近、悲しいニュースが伝えられました。中学1年生の男の子が、クラスのほぼ全員から「うざい」「きもい」「死ね」と言われ続け、いじめられた結果、自殺してしまったそうです。

悪口や人をばかにする言葉は、心に突き刺さるナイフのようです。傷つけられた心の傷は、なかなか治りません。ずきずきといたみ続け、本当にその人の命を奪ってしまうこともあるのです。

**3. 命は神様のもの**

人をばかにしたり、悪口を言ったり、いなくなればいいと思ったりすることは、その人の存在を消そうとすることです。その人を造られ、愛しておられる神様を深く悲しませることです。私たち

は自分の命も、人の命も大切にしなければなりません。命はそれをお造りになった神様のものだからです。

4. 責任はだれにあるの？……考えてみよう

絵本「わたしのせいじゃない」

—せきにんについて—

文：レイフ・クリスチャンソン

絵：ディック・ステンペリ

(岩波書店)

一人の子どもが泣いています。いじめられたのでしょう。一人の子は「わたしのせいじゃないわ」と言います。別の子は「見ていないから知らない」別の子は「僕は何も出来なかった。見ていただけだった」別の子は「おおせいでやったのよ。わたしのせいじゃないわ」別の子は「ほくもたたいた、でもほんの少しだよ」別の子は「はじめたのはわたしじゃない」別の子は「その子が変わっているんだ」別の子は「泣いている男の子なんて最低よ」などと言います。いじめられて泣いている子の前で繰り返される、様々な言い訳。

自分もまたこの中の一人なのだと思います。みんなと同じことをしているから自分のせいではないと言い切れるのでしょうか。絵本にはその後に、貧困や戦争、環境破壊などの写真が続きます。これらの問題も「わたしのせいじゃない」と言い切れるだろうかと読者に問いかけてきます。問題に目を背け、無関心でいることの責任を一人一人に問いかける絵本です。

絵本を読んで、みんなで話し合ってみてください。

5. パステルアート

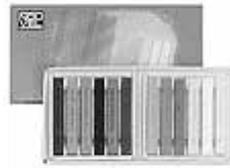
「いのち」をテーマにパステルアートを描いてみよう。

(描き方は次ページを参照してください)

《パステルアートの描き方》

【用意するもの】

- ・ 型紙（画用紙を切り抜いて作っておく。
その部分に色を塗ったり、逆に消しゴムを使って白抜きにしたりする）
- ・ ノーベル カラーパステル
（100円ショップにあるパステルでもよい）
- ・ 画用紙（15cm×15cm）
- ・ 一円玉（パステル削り用。色の数だけ用意）
- ・ 手拭き用の布、ぬれティッシュ
（色が混じるのを防ぐために手を拭きます。）
- ・ スプレーのフィキサチフ（粉落ちを防止する定着液）なくても大丈夫。
- ・ 消しゴム
- ・ コピー用紙（パステルを削った粉をのせる）
- ・ 完成作品を入れるセロハンの袋かアートフレーム
- ・ 綿棒（ぼかしに利用）、脱脂綿（パステルをのばす）鉛筆、色鉛筆 など



【描き方】

- ・ 画用紙のふち周りにセロテープを貼っておく。
- ・ コピー用紙の上で、自好きな色のパステルを1円玉で削って粉にする。
- ・ その粉を脱脂綿か指でのばして画用紙に好きな形に描く。型紙をのせてその上から描いてもよい。色を変えるときは、色が混じらないようにその都度、指を拭く。
- ・ 白抜きにしたい部分は消しゴムで消す。
- ・ 画用紙の周りに貼ってあるセロテープをはがしたら完成。
- ・ 完成したらフィキサチフをスプレーしてアートフレームか袋に入れる。



（参考）日本パステルシャインアート協会 <http://www.jpssaa.net/>
本「世界でいちばん簡単な絵の描き方」（PHP エル新書）

7月14日 第七戒 姦淫してはならない 教理説教のための聖書黙想

テキスト マルコによる福音書 10章1～12節
子どもカテキズム 問55, 56
参照教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問70～72

問55 第七戒は何ですか。

答 「姦淫してはならない」、です。

問56 第七戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまが、私たちに

結婚の祝福を与えてくださいました。

ですから、男の人と女の人との関係を、

清く保たなければいけません。

神さまは、結婚によって、

赤ちゃんを与えてくださいます。

私たちは、そのときまで、性の関係を持ちません。

〈子どもカテキズムの解説〉

○神の創造

神の創造を考えると、第七戒が決して禁欲的な側面だけを持つのではなく、神が夫婦に与えられた祝福を守り、それを豊かにするための戒めであることが分かります。親心に満ちた、愛情深い戒めです。

神は、人を男と女に創造しました。結婚によって、男女「二人は一体」（創世記2:24）となるように意図されて創造されたのです。二人の関係は、「父母を離れて」と言われるように、両親でさえも介入することが許されない親密な関係です。「神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない」（マタイ19:6）ほどに神聖な結びつきとなります。夫は、キリストが教会を愛することに譬えられるほどに、妻を愛するように命じられます。キリストが御自身の命を与えるほどに教会を愛されたのと同じように、また自分の体のように、妻を愛することが命じられています（エフェソ5:25-28）。

このような愛の関係は、他の人との間ではあり得ない喜びと平安を与えてくれます。それは、二人の人格（魂）が一体となるような関係です。

この世界で生きている私たちの肉体と魂は、切り離すことができません。それゆえ、夫婦という

親密な関係の中で初めて、二人が肉体的にも一体となる性的な関係が許され、また喜びとなります。そして、この愛の関係に囲まれて、子どもが生まれます。子どもは、このような親密な夫婦の愛の中でこそ、十分な愛情を受けて育つことができるのです。

○禁じられること

したがって、このように大切な夫婦の関係に傷をつける可能性のあること、愛の関係に障害を引き起こすような事柄は、避けられなければなりません。

その最たるものは「姦淫」です。この罪が犯されれば、夫婦の愛の関係を回復することは極めて困難となります。より耳慣れた言葉で言うなら、「不倫」も典型的な「姦淫」です。

私たちが恵みの契約に入れられることによって、キリストの体として一体とされるのと同じように、夫婦は主の御前で誓約する契約関係を通して一体となります（マラキ2:14）。それゆえ、結婚前に性的な関係を持つことは、許されていません。実際のところ、結婚前に性的な関係を持つことは、将来の結婚相手と真実に一体になる上で、様々な障害をもたらします。相手に対する誠実さがあれば、結婚前の性的関係を避けなければなりません。

美しい女性を美しいと思うこと、ハンサムな男性をハンサムだと思うことは、神の創造を喜ぶことでしょう。そのこと自体は健全で罪ではありません。主イエスが言われたのは「みだらな思いで見ることが「姦淫」だということです（マタイ5:28）。そのため、いわゆる「セクハラ」は、「姦淫」に含まれることになるでしょう。（以上は、2009.7、8、9月号に掲載した「カテキズム研究」に手を加えたものです。）

〈聖書テキストの解説と黙想〉

【KEY1 聖書本文を語る】

[STEP1] 聖書本文を読む。

マルコ10:1～12を繰り返し読みます。

[STEP2] この個所のテーマは何か？

神が夫婦を一体とされたので、離縁すべきではありません。

[STEP3] それをどのように展開しているか？

ファリサイ人が離縁することの可否を尋ね、イエスが答えられました。神が人を男と女に創造され、夫婦が一体とされたのだから、人が離してはなりません。離縁して、他の異性と結婚することは姦通の罪です。

【KEY2 神の福音を語る】

[STEP1] この個所で神はご自身について何を表されたか？

神は人間を男女に造られ、結婚した夫婦を一体とされました。それゆえ、意図に反して離縁し、姦通の罪を犯すことを神は喜ばれません。

[STEP2] 前後の章は、神について何と言っているか？

この個所の前後では、イエスの教えが記されています。特に、「子供」（9:37）、「小さな者」（9:42）、「子供たち」（10:15）といった弱い立場の者へ向けられた主の視線が際立ちます。この文脈を考えるなら、離縁の禁止は、弱い立場に置かれていた女性たちを守る意図があることを読み取ることができます。

[STEP3] 聖書全体を通しての神の働きに、この個所はどのように関係しているか？

天地創造の初めから、神は夫婦が一体となり、離されないことを意図されました。しかし、罪の現実ゆえに、離縁は起こってしまいます。キリストの救いを受けた者は、新しくされ、最も近くにいる隣人である配偶者を愛し、一体となることを通して、創造の完成を指し示します。

【KEY3 子ども達の信仰と生活のために語る】

[STEP1] この個所に登場する当時の人々の必要は何だったか？

女性を軽んじ、離縁することは当然の権利と考えられていたと思われます。それは、律法に示された主の本来の意図を無視することでした。

[STEP2] 私たちの教会の子ども達に似たような必要があるか？

女性の性が商業化されている様子を子ども達は見ています。離婚することが特別なことではなく、結婚関係のないところで性的関係を持つことが当然視される社会の中で、子ども達は生きています。子ども達の中には、離婚・再婚した家庭で育った子もあり、深い傷を負っている場合もあるでしょう。

[STEP3] この聖書箇所「その時」から、私たちの教会の「今」へ橋をかける。

姦淫を禁じることは、夫婦が一体となるという神の創造の恵みを守ることになります。結婚関係外の性関係は、夫婦の一体性を破壊してしまい離婚の正当な理由ともなります。

性的関係に伴う人格的な関わりが見失われ、結婚関係を軽視することによる傷が無視されている社会の中で、性の本来の姿を回復し、性を祝福として取り戻す必要があります。その祝福にあずかるための戒め（第七戒）を、神の意図された創造の祝福へ導く道案内として、しっかりと保ち続けましょう。

（テモテ指導者訓練「聖書的説教」モジュールを参考に項目を立てました。）（大西良嗣）

7月14日 第七戒 姦淫してはならない 説教展開例

テキスト マルコによる福音書 10章1～12節
子どもカテキズム 問55, 56

【単元のねらい】

教会の中で、性について教えることがほとんどありません。しかし、性のことをタブー視して教えないければ、子ども達は学校での性教育やポルノなどを通して性を知ることになります。学校の性教育も、結婚前の性行為を禁じるようには教えません。分級の中で、それぞれの年齢に適した性教育がなされることを期待します。

「説教展開例」では、結婚の祝福に焦点を当て、その祝福を守るために与えられた戒めとして第七戒を教えます。

結婚の祝福を守るために

【結婚の祝福】

みんなは、将来、だれと結婚したいですか？
クラスに好きな男の子や女の子がいるかな？

さっき読んだ『子どもカテキズム』には、「神さまが、私たちに結婚の祝福を与えてくださいました」と書かれていました。神様は、この世界を造られた時、人間を男と女に造られました。それは、一人の男の人と、一人の女の人が結婚して、一つの体ようになる、一体になるためでした。

二人の人が、一つの体ようになるって、どういことだろうね？ お父さんとお母さんが、合体して、大きなロボットになること？ そんなこと、あるわけないね。

二人が一体になるということは、二人がお互いに愛し合って、ずっと一緒に生きていくことだね。神様は、人間がそういうふうにあい合って生きていくように、人間を男と女に造られたんだ。

けれども、人間は神様に背いて罪を犯すようになりました。神様が命じられたように、人を愛することができなくなってしまいました。そのために、結婚した二人も、あい合って一緒に生きていくことができなくなって、離婚してしまう人たちが出てきました。

さっき読んだ聖書の中で、ファリサイ派の人たちがイエス様に質問をしていました。「離婚をす

ることは、神様の律法に合っていますか？」「モーセは、離縁状を書いて離婚することを許しました。だから、離婚してもよいのではないですか？」イエス様は答えられました。「そうではない。人間がどうしても離婚をしてしまうので、離婚された人が困らないように、離縁状を書かせるようにしたのだ」。そのころは、特に、離婚させられた女の方は、生活に困ったそうです。他の人ともう一度、結婚するためにも、本当に離婚しているかどうかを確かめるための離縁状を書かせたんですね。

けれども、神様は最初から、そうなることを願われたわけではありませんでした。イエス様は言われます。「神様は、世界を造られた時から、人間を男と女にお造りになった。男の人と女の方が結ばれて、一体（一つの体）になるためだ。だから、神様が結び合わせてくださった二人を別れさせてはいけません。」

【姦淫の禁止】

さっき読んだ『子どもカテキズム』には、十戒の第七戒は、何だっけ書いてあった？

「姦淫してはならない」ですね。

「姦淫」って、どういうこと？

「姦淫」というのは、結婚して夫婦になっていない二人が、赤ちゃんが生まれるようなことをす

ることです。そうすると、結婚していなくても、本当に赤ちゃんが生まれてしまうこともあります。結婚していない女の人に赤ちゃんが生まれてしまうと、その赤ちゃんが育っていくのに、とっても困ります。結婚していないのに、赤ちゃんが生まれるようなことをしてはいけないというのが、第七戒が命じていることです。

赤ちゃんが生まれるようなことというのは、とても大切なことです。結婚した男の人と女の人が、愛し合うために大切です。結婚した二人は一体となります。それは、愛し合うことによって心が一体となるということもありますが、体も一体になります。赤ちゃんが生まれるようなことというのは、体が一体になることです。それは、結婚して、神様が一体としてくださった二人にだけ許されています。

もし、他の人と、赤ちゃんの生まれるようなことをしてしまうと、せっかく神様が一体としてくださった二人は、一体でなくなってしまう。

もう、前のように、お互いに愛し合うことができなくなるでしょう。

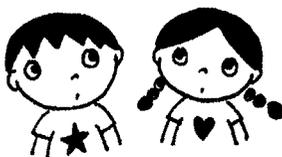
ですから、「姦淫してはならない」という戒めは、とても大切です。結婚した二人が、一体であり続けるために、必ず守らなければならない戒めです。

神様は、男の人と女の人が結婚して、一体となるように、人間を造られました。人間は、罪を犯して、愛し合うことができなくなったために、結婚した二人が一体であり続けることが難しくなっています。「姦淫」の罪は、二人が一体であることができないようにする最大の罪です。とても悲しいことですが、今の世の中では、「姦淫」の罪がとても多く犯されています。

イエス様を信じて、神様の子どもとされた私たちは、結婚前にも、結婚してからも、「姦淫」の罪を犯さないようにしましょう。そして、結婚したならば、二人がお互いに愛し合って、心も体も一体になる祝福を受けましょう。 (大西良嗣)

[今週の暗唱聖句] 創世記 2章24節

こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。



〈ねらい〉

神様が定められた結婚における性は、きよく祝福されたものである。子どもたちが性について正しく知ることができるように導きたい。

〈展開例〉

1. 「一体となる」ってどういうこと？

イエス様は結婚についてこう言われました。「人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」

別々の道を歩んできた二人は、結婚によって一つとなり、共に人生を歩むようになります。お互いに相手を受け入れ、自分を与え、仕え合うのです。

結婚とは、一人の男性と一人の女性が「私たちは生涯、愛し合い、人生を共に歩みます」と、神様と人々の前に約束することです。人生を共に歩むパートナーとして、お互いに相手を自分の体のように愛するのです。

神様はこの二人の愛や信頼を確認し合うため、またその交わりを楽しむために「性」という素晴らしい贈り物をくださいました。

2. 姦淫って何？

姦淫とは夫や妻以外の人と性的な関係を持つことです。浮気や不倫ともいいます。

浮気はスリルがあって刺激的だと感じるかもしれませんが、しかしそこに本当の幸せはありません。夫や妻以外の人と一体になることは、夫婦の一体の関係を壊すことです。その結果、家庭を壊し家族を傷つけてしまいます。

3. 結婚する前にHをすることは罪？

「二人が愛し合っていれば、Hしたっていいんじゃないの？」と思う人がいるかもしれません。でも、聖書ははっきりとそのことを禁じています。性は「生涯をかけてこの人だけを愛します」という誠実な約束（契約）の上に与えられる神様の祝福です。ですから恋人同士であっても結婚関係以外の性的な交わりを神様は姦淫としてごらんにな

ります。その時を待つことができず、自分の考えや欲望を優先しようとする時、二人の間にいてくださる神様との関係は壊れ、神様の祝福を失うことになってしまいます。

性は結婚した二人が愛し合い、交わるために神様がくださったきよく美しいものです。結婚によって神様は夫婦の肉体的な交わりをも祝福してくださり、体と心が一つとなる深い喜びを与えてくださいます。

4. 罪を犯さないために

私たちの周りには間違った性的な情報がたくさんあふれています。大人になっても異性と付き合った経験がない人は遅れているなどと思われています。でも結婚する準備ができていないのにお付き合いを始めることは、とても危険なことです。私たちは弱いので、頭の中でわかっていても体が反応してブレーキがきかなくなってしまうからです。

罪を犯さないための一番よい方法は、神様が用意しておられる一番よい時がくるまで、恋愛ごっこをしないことです。誘惑から守られるように祈りつつ、自分の体と心をきよく守ってください。

5. カップル探しゲーム

トランプ大に切った紙の裏にカップルの名前を書く（1枚に一人ずつ。カップルは同じ色のペンで書くとよい）。

アダムとエバ アブラハムとサラ イサクとリベカ モーセとツイボラ ヨセフとマリア ザカリアとエリサベト ロミオとジュリエット イチローと弓子夫人 ミッキーとミニー 白雪姫と王子様 美女と野獣 サザエさんとマスおさん さくらともぞうとさくらこたけ 三浦友和と山口百恵 ジョン・レノンとオノ・ヨーコ 名倉潤と渡辺満里奈 木村拓哉と工藤静香 のび太としずかちゃん 親指姫と花の国の王子様 ウィリアム王子とキャサリン（ケイト） 新島襄と八重 教会の先生と奥様の名前など。

神経衰弱のルールでカップルを探す。

7月21日 第八戒 盗んではならない 教理説教のための聖書黙想

テキスト 創世記 1章26～29節

子どもカテキズム 問57, 58

参照教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問73～75

『主は羊飼いや中高生のための教理入門』37（第八戒）

問57 第八戒は何ですか。

答 「盗んではならない」、です。

問58 第八戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 私たちの持っているものすべては、

神さまから与えられたものです。

人の体やもの、時間を盗んではならない

ということはもちろん、

自分自身のお金、持ち物、時間をも

大切に用いなければならない、

ということです。

私たちは、自分自身を神さまにおささげし、

十分の一献金をささげて、

神さまに栄光をお返しします。

〈聖書テキストの解説〉

第八戒を学ぶ前に、創世記1章のテキストから、①神が天地万物の創造者であり、天地万物の支配者であり、天地万物の所有者であること、②私が手にしている良きものは全て神から与えられていること、③それを感謝して良く用いる責任があること、この三点を覚えたい。

①創世記1章1～25節では、神が天地万物を創造されたことが教えられている。唯一まことの神は、思慮深いご計画とことばによって、天と地とその中に満ちている全てのものをお造りになった。全ては神が造られたものであるから、その所有権は本来神に属する。

②天地万物を造り、すべての環境を整えられた神は、最後に人を造り、人に地を治めることを委ねられた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」(創世記1:26)。人は、神の像(かたち)として、良きものとして創造された。残念ながら、アダ

ムが罪を犯した後、墮落後の人間は、造られた時のままの状態ではないが、それでも神の像としての良きものが全く失われたわけではなく、人間性としての良きものが残されている。

さらに神は「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる」(創世記1:29)と言われて、造られた植物を食べものとして人に与えられた。従って、今私たちが手にしているもの、私のもの、と思っているものは神の愛と配慮の中で私たちに委ねられ、与えられているものである。

③私の体、私の能力、私の才能、私の人生、私の家族、私の友達、私のお金、……今、数え切れないほど多くの良きものが、神の配慮の中で私に与えられている。神が私に、今、必要なこれらのものを与えてくださっていることを感謝したい。また、同時にそれらを神の御心に従って治め、私と隣人のためによく用いる責任があることを覚えたい。

具体的に第八戒を学ぶ前提として、ここまで

のことを創世記第1章のテキストから子どもたちと一緒に確認しておきたい。

〈子どもカテキズムの解説〉

①十戒とは

「十戒」は神がご自身の民に与えられた言葉であり、神の民は「十戒」を守ることで神との関係も、隣人との関係も、平和で良好な状態で生きることができる。神の律法に従って生きるとは、神の民が幸いに生きる道である（詩編19編8～11には神の律法に生きる民の幸いが記されている）。

②第八戒の位置

十戒の前半（第一戒～第四戒）は神との関係について、後半（第五戒～第十戒）は人との関係について教えられており、第八戒「盗んではならない」は、十戒の後半部分にある。従って、隣人との関係で教えられているところであるが、しかしその大前提として、「私自身を含む全ての究極的な所有者は神である」ということの実理解が必要。

③第八戒が求めること、禁じること

全てのものの究極的な所有者は神であるが、神はそれを人に委ねられたので、人はそれらを所有し管理する権利と義務がある。

第八戒が求めていることは、委ねられ、与えられているものを正しく用いること。具体的には、勤勉な労働によって自分の生活を正しく維持し、向上させること。それらを無駄に用いないことなどである。また、神は正しい方法で得た富を自分のために用いることを禁じておられないが、同時に、隣人の必要に配慮することも求めておられる。特に貧しい者や弱い立場にある者たちが、必要なものを手にすることができるよう、配慮することを求めておられる。

一方で第八戒が禁じていることは、他人を犠牲にして自分の富を得ようとする。盗み、詐欺、不正な報酬を受けること……などである。

④神の愛の配慮を信じる

神は私たちの必要をよく知っておられて、ご自身の愛の配慮の中で、それぞれの人に必要なもの

を必要な分だけ、ふさわしいものをふさわしい分だけ与えてくださる。この、神の愛の配慮を信じるなら、私は隣人を羨む必要がないし、今与えられているもので満足することができるはず。隣人のものを盗むという行為は、神の愛を疑うことであり、隣人との関係と共に、神との関係もゆがめる結果になる。

〈子どもたちに対して〉

今、子どもたちの周囲には、多くのものが満ち溢れている。子どもたちは、その日必要なものに事欠いて困る、という経験をほとんど持っていない。店に行けばなんでも手に入るし、お金を払えばなんでも買えると思っている。そんな日常の中では、神が全てを支配しておられ、神が与え、神がお取りになるということは実感しにくいはずであるし、神や、家族に感謝する気持ちも持ちにくい状況である。

しかし実際は、本当に大切なもの、私や家族の命、健康、時間……などは、私の思い通りに自由になるものではなく、神のみ手の中にある。その辺のことを手掛かりにして、良きものは全て神が与えてくださっていて、感謝して用いるべきであることを教えたい。

その上で、第八戒を教えて、神の愛の配慮を信頼すること、満足すること、与えられているものを良く用いることなどを考えたい。私たちに与えられているものは神から一時委ねられているものなので、自分だけの所有物として、自分のためだけに利己的に用いてはならない。ましてや、神が他の人に与えておられるものを盗んだり、奪ったりすることは、神から盗むことと等しい行為であるから、神との平和の関係が大きく損なわれてしまふし、同時に隣人との信頼関係を損なうことにもなり、隣人との平和な関係も崩れることになる。

私たちは、神の愛の中で、神が教えておられる十戒に従って生きること、神と隣人、両方と平和な関係の中で幸いに生きることができる。

（木村恭子）

7月21日 第八戒 盗んではならない 説教展開例

テキスト 創世記 1章26～29節
子どもカテキズム 問57, 58

(単元のねらい)

神が天地万物の創造者、支配者、所有者であることを知る。さらに、私が手にしている良きものは全て神から与えられていること、感謝して良く用いる責任があることを覚える。

その上で、第八戒「盗んではならない」を教えて、神と隣人と共に幸いに生きる道を探る。

すべては神様のもの

先日教会でこんな話を聞きました。突然お孫さんからこんな電話があったそうです。「もしもし、おばあちゃん？ ボクだよ。きのう会社のお金をなくしちゃったんだ。すぐ弁償しないと会社をクビになっちゃうから、100万円銀行に振り込んで!!」この方電話が本当に自分の孫だと思って、お金を工面して何とか孫を助けようと思ったそうです。これって、振り込め詐欺ですよ。新聞やTVニュースではよく報道されていますけど、本当に私たちの身近で起こっているんですね。

今日のお話しは、第八戒「盗んではならない」です。

「盗む」とは、自分のものではないものを悪い方法で自分のものにすることです。さきほどの振り込め詐欺などは大きな犯罪ですが、もっと小さな「盗み」もあります。お金を払わないで店で売っているものを持って帰ったら、盗んだことになります。お友だちのお金や持ちものを黙って自分のものにしてしまえば、それも盗みです。みんなが自分の欲しいものを力づくで、あるいは悪い方法で自分のものにしたらどうなるでしょう。いつも人に盗まれるのではないかと心配していなければなりませんよね。

このようなことが国と国との間で起こったらどうでしょうか。争いが大きくなれば戦争になることだってありますよね。

第八戒「盗んではならない」は、私たち人類が平和に仲良く暮らすために神さまが教えてくだ

さった神さまの知恵なのです。

ですが聖書は、第八戒「盗んではならない」にもっと積極的な意味があることを教えてくれています。今日は第八戒「盗んではならない」の積極的な意味についてもお話しします。

みなさんは今まで、十戒のことをいろいろ学んできましたよね。モーセが神さまから石の板に書かれた十戒をいただいた時、二枚の板に分けて書かれていました。それが二枚に分けられていたのには、大切な意味があります。一枚目の板には第一戒から第四戒までが書かれていて、神さまへの愛について教えられています。二枚目の板は第五戒から第十戒が書かれていて、人への愛について教えられています。人は、十戒の教えを守ること、神さまとも、人とも争わず、平和に幸いに生きることができるのです。私たちも十戒をよく学んで、十戒に現わされている神さまのお考えに従って生きること、幸せに生きることが出来ます。

第八戒「盗んではならない」は、十戒の後半部分、二枚目の板に書かれています。ですから人への愛について教えられているのです。ですが、その前にもう一つ大切なことがあります。それを聖書から見ましょう。

旧約聖書の創世記1章1節に「初めに、神は天地を創造された」とあります。創世記1章を読んでいくと、神さまは光と闇、空と海、植物、太陽

や月、星、そして動物、鳥、魚など全てお造りになったと書かれています。神さまは天地万物を造り全てを良く整えられた後、最後に人をお造りになりました。

このようにして地球が誕生し、生物が誕生し、人も誕生したのです。神さまは、最後に造られた人を祝福して言われました。

1章28節「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生きものをすべて支配せよ」。神さまは、人に地上の全ての支配をまかせられたのです。地球上の全てのものを人間が治めるように、よく用いるようにと委ねられたのです。ですから、私たちが今手にしているものは、もともと全て神さまのもので、神さまから一時お預かりしているものです。

このことは、今日の箇所、第八戒「盗んではならない」を考える時に知っておくことが大切です。

また新約聖書の中にこんな話があります。ある金持ちの人の畑で作物がた〜くさんとれました。そこでその人は大きな倉を建てて作物を全部その倉に蓄えました。これからは苦勞して働かないで、のんびり食ったり、飲んだりして楽しく暮らしていけると思ったんですね。ところが、神さまはおっしゃいました。「愚かなものよ、今夜、お前の命は取り上げられる」と。このように、どんなにたくさんお金があっても、自分の命は買うことはできません。人の命、健康な体、時間、才能、能力……など、私たちににとって大切なものは、お金で買えないものが多いのです。天地創造の時だけではなく今も、お金を出しても買えない大事なものを含めて、私が生きて行くために必要なもの、勉強に必要なもの、遊ぶのに必要なものを与えて下さっているのは、実は神さまなのです。

ですから、私たちは今いただいているものを当たり前と思わないで、まずは神さまに感謝しましょう。そして、それをよく使うことを考えましょう。

おいしいお菓子は、一人でこっそり食べるより、お友だちと一緒に食べた方がおいしいですよ。それと同じで、私がいただいている良いものは分け合ったり、それを使って助け合ったりすると、私もお友だちも、周りの人もうれしい気持ちになります。自分だけが幸せになるためではなく、自分もお友だちも、みんなが幸せになれるように、神さまにいただいているものをよく使っていきるといいですね。

人のものをうらやましく思ったり、盗んだりするのはなく、神さまに愛されていることに感謝し、神さまからいただいているものを感謝して、自分のために、またお友だちのために、それらをよく用いること、それが第八戒で神さまが私たちに求めておられることです。

そしてそれこそが、私たちが神さまとも人とも、仲良く、楽しく生きる道なのです。

第八戒「盗んではならない」は、神さまからそれぞれがいただいている良いものをお互いの為によく用いて行くことで幸いに生きる道を私たちに教えてくれているのです。

そうそう、初めにお話ししたおばあちゃんは、お金を振り込む前に自分の娘さん(孫のお母さん)に電話をしたそうです。そしてその電話が自分の孫ではないことがわかったので、お金を振り込まなかったそうです。被害にあって悲しい思いをしないですんで本当に良かったですね。(木村恭子)

[今週の暗唱聖句] 創世記 1章26節

神は言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。

そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

〈ねらい〉

たとえ人のものを盗んだことがなくても、気づかずに、盗みを行っている場合がある。神様が与えてくださっているものを分かち合わないことも盗むことであることを教えたい。

〈展開例〉

1. 人のものを盗んだことはないと言えますか

あなたは人の物を盗んだことがありますか？万引きや強盗をしたことがなくても、次のようなことに思いあたるかもしれません。

①借りた物を返さない

人から物を借りて、返さないままのものはありませんか。ちょっと借りるだけだから、すぐに返すからと持って行って、そのまま返すのを忘れていれば、それも結局は盗むことになります。

②人の作ったものをコピーして使う

作品である絵や音楽などには「知的財産」として著作権があります。お友達に借りたCDや本を無断でコピーやダビングすることも盗むことです。

③約束の時間に遅れる

約束した時間通りに来ない人は、相手の大切な時間を盗んでいることになります。

2. どうして盗んではいけないのか

何か大切な物を盗まれた経験がありますか？盗まれた人は悔しさや怒りがこみ上げてくることでしょう。とても不愉快な気持ちです。

お金や大切にしていた物、作品や時間など、盗まれたものが何であっても持ち主を傷つけます。盗んだことがばれてしまったら、その人との信頼関係は壊れてしまいます。

それでも盗んでしまうのは、人間の中にどうしても自分のものにしたいという自己中心の思い(罪)があるからです。神様がその人に恵みを与えておられることを喜ばない心、うらやむ心があるからです。

3. 私のものは私だけのもの？

自分の洋服、自分のおもちゃ、自分のノート、自分のお金……自分の物であることがわかるように持ち物には名前を書きます。あなたの物はあなたの物です。みんなの物ではありません。でも私たちに与えられているものは、すべて神様からいただいたものです。それを用いて神様の働きをするためにあずけられているものです。

もし、自分の楽しみだけのためにそれらを用いるならば、神様のものを盗んでいることになります。

神様から与えられたものを生かし、神様のために用いるにはどうしたらいいのかを考え、祈ることが大切です。

4. 恵みを分かち合うために

カッパドキアのバシレイオスの説教の中に次のような文章があるそうです。

「あなたの家で食べられることのないパン、それは飢えている人たちのものです。あなたのベッドの下で白カビが生えている靴、それは履物を持たない人たちのものです。物入れの中にしまいこまれた衣服、それは裸でいる人たちのものです。金庫の中でさび付いている金銭、それは貧しい人たちのものです。」

私たちが自分のものだと思い込んでいるものが、本当はそうではない場合もあるのです。

○世界の飢餓について知ろう！

数字から飢餓について考えましょう。

①世界の人口は？ ②世界で飢餓で苦しんでいる人の数は？ ③何秒に一人が飢餓で死亡？ ④ボリビアで500円で買えるパンの数は？ ⑤日本の年間食品廃棄物量は何トン？

答え…①70億 ②10億 ③6秒 ④180個 ⑤2000万トン(「日本国際飢餓対策機構」のHPより)

○私たちに何ができるか話し合おう。

(上記HPの「今日からできること」を参照)

7月28日 第九戒 偽証してはならない 教理説教のための聖書黙想

テキスト	サムエル記上 17章12～30節
子どもカテキズム	問59, 60
参照教理問答	ウェストミンスター小教理問答 問76～問78 ハイデルベルク信仰問答 問112 ジュネーヴ教会信仰問答 問208～問212

問59 第九戒は何ですか。

答 「隣人に関して偽証してはならない」、です。

問60 第九戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、真実な愛をもって
私たちを愛してくださいました。
ですから、私たちも、
うそをついたり、うわさ話をして
人をさばいてはいけない、
ということです。
私たちは隣人に誠実を尽くします。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

取り上げた聖書箇所は、有名な「ダビデとゴリアト」の物語の一部分です。「偽証」とはどういう言い方のことなのか、ウェストミンスター小教理問答（以下ウ小教理）がここを引照聖句として挙げており、それを教えてくれているからです。

ウ小教理は、28節の長兄エリアブがダビデに言ったセリフを「偽証」と見えています。「長兄エリアブは、ダビデが兵と話しているのを聞き、ダビデに腹を立てて言った。『何をしにここへ来たのか。荒野にいるあの少しばかりの羊を、誰に任せてきたのか。お前の思い上がり野心はわたしが知っている。お前がやって来たのは、戦いを見るためだろう。』」（17章28節）

ここにあるのは、「うそ」や「うわさ話」ではありません。しかし、エリアブは、愛とは正反対の悪感情から、正しい事を見極めることをせず、ダビデを悪く判断し、断罪しています。ダビデはこのとき、「戦いを見るため」に来たわけではありませんでした。父親に頼まれて、3人の兄たちの安否を確かめ、パンなどを届けるために出かけてきたのです。羊の群れも、ちゃんと番人に任せてから来ました。エリアブに「誰に任せてきたのか」

と責められるのは心外だったと思います。

エリアブはなぜ、ダビデを愛せなくなり、ダビデについて、正しい見方ができなくなってしまったのでしょうか。前章16章に、ダビデがサムエルに油を注がれる記事があります。エリアブも、サムエルの目を引くほど魅力的な人でした（6節）。

しかし、自分は選ばれず、自分の目の前で、弟ダビデが油を注がれました（13節）。このことによって、おそらくは、ねたみ・悔しさがエリアブの心を渦巻いたろうと思われます。兄たちのねたみの例は、カインとアベルに始まり、ヤコブの子ヨセフと10人の兄たちの例もあります。

イエス・キリストの放蕩息子のたとえで、「兄」は、先に主を信じた者たちを指していることを想うとき、私たち（先に教会に導かれ、信仰を与えられた者）の方が、第九戒に違反して、「偽証」しやすいことに気づくべきです。具体的に言えば、これから救われるべき人（未信者・未陪餐会員）について、「神さま、私よりもあとに来たこの人の罪を赦し、私よりも愛して、祝福されるのですか。この人は、まだ聖書のことをよくわかっていないし、祈れないし、本当はこんな悪いことをす

る人なのです」などと、自分の優位性を主張し、「偽証」しかねないのです。

神は私たちの心を見られるお方です（サム上16章7節）。悪感情から解放され、相手を正しく見るができるように、「偽証」をしないように、私たちの心をきよめ、整えてくださるよう祈りましょう。神さまは既に、私たちの心を清めて整える方法・道をイエス・キリストによって開いてくださいました。私たちの罪を赦すために、イエス・キリストが十字架の苦しみを耐え忍んでくださったことを覚えるとき、私たちもまた人を赦せるものへと変えられるはずなのです。自分の心を清めていかないなら、それは神の愛を無にすることであり、神を偽り者とするようになります。

ウェストミンスター小教理問答は、他にも第九戒の真意を教えるためにいくつかの聖句を挙げていますが、引照聖句によって教えられている第九戒の真意をさらに詳しく知りたい場合には、西部中会機関紙『リフォルマダ』No. 58（2009年12月号）の拙文をお読みいただきたく思います。

〈子どもカテキズムの解説〉

はじめに、神が、私たちを愛してくださったことを確認しています。「真実の愛をもって」とは「イエス・キリストによって」ということです。イエス・キリストを世にお遣わしく下さり、十字架と復活によって、私たちの罪のあがないを成し遂げてくださった神の愛を指しています。このように神の愛をいただいたのだから、私たちは隣人に対しても愛の心を向け、誠実を尽くすのです、という論法になっています。

「うそ」「うわさ話」という言葉に引きずられて、「うそをついてはいけない」「うわさ話をしてはいけない」という勧めになる恐れがありますが、「うそ」や「うわさ話」によって相手を陥れること、相手にとって悪い結果になるように「うそ」を言ったり、「うわさ話」をしたりすることが禁じられていますので、相手に不利になるような物言いをしないということに力点を置いて、注意深く、勧めの言葉を選ぶ必要があります。「悪口」「告げ口」のほうが、子どもたちにとってはわかりやすいかもしれません。

〈子どもたちへ～第九戒を守ることへの促し〉

もし、イエス・キリストを信じて教会に来ているのに、なお「悪口」を言う生活をしているなら、それは、神さまのことを「偽証」することにつながります。そのことをよく説いているヨハネの手紙一全体をよく読んでみましょう。

「わたしたちが、神との交わりを持っていると言いながら、闇の中を歩むなら、それはうそをうっているものであり、真理を行ってはいません。（中略）自分に罪がないと言うなら、自らを欺いており、真理はわたしたちの内にありません。自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。罪を犯したことがないと言うなら、それは、神を偽り者とするのであり、神の言葉はわたしたちの内にありません。わたしの子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。この方こそ、わたしたちの罪、いや、わたしたちの罪ばかりでなく、全世界の罪を償ういけにえです。わたしたちは、神の掟を守るなら、それによって、神を知ることが分かります。『神を知っている』と言いながら、神の掟を守らない者は、偽り者で、その人の内には真理はありません。しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています」（ヨハネ一1章6節～2章5節）。

『『光の中にいる』と言いながら、兄弟を憎む者は、今もなお闇の中にいます』（同2章9節）。

「わたしたちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛することのない者は、死にとどまったままです。兄弟を憎む者は皆、人殺しです。（中略）イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。（中略）子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって、誠実に愛し合おう」（同3章14～18節）。

（赤石めぐみ）

7月28日 第九戒 偽証してはならない 説教展開例

テキスト サムエル記上 17章12～30節
子どもカテキズム 問59, 60

〔単元のねらい〕

「偽証」とは、どういう言い方のことなのかを、旧約聖書にある具体例から学ぶ。

それによって、子どもたちも犯しやすい罪であることに気づいてほしい。

その上で、第九戒で命じられているように「偽証しない」ためにはどうしたらよいかを考える。

「罪」（神に代わって善悪を判断する罪）があるために、曲がった心で人を判断し、偽証につながる。罪の問題を解決するために、イエス・キリストの十字架を思い起こす必要がある。

曲がった心で人を判断しない

今日は十戒の第九戒を学びます。第九戒は「あなたは隣人について偽証してはならない」です。「偽証」って、何をすることだか、わかりますか？漢字を見ると、「偽りの証言をする」と書きます。「偽りの証言」とは、「うそを言うこと」です。うそにもいろいろありますが、特に、他の人について正しくないことを言うこと、それを言ったら、その人にとって不利になるようなことを言うことを「偽証」と言います。皆さんの言葉で言い換えると、「友だちの悪口を言うこと」が、それにあたるかもしれません。

具体的なお話が旧約聖書の中に出てきますので、見てみましょう。サムエル記上17章は、ダビデとゴリアトの戦いのお話ですが、今日はダビデの武勇伝の方は置いておいて、ダビデがゴリアトと戦う前になされた、ダビデとお兄さんのエリアブとの、ちょっとしたやり取りの方に注目してみたいと思います。

イスラエルはペリシテ軍と戦うために兵を集めて、陣を張って、戦いに備えていました。その戦いに、ダビデのお兄さん3人も、兵士として出ていました。そのころ、ダビデは、サウル王に仕えるために王宮に行ったり、お父さんの羊の世話をするために家に戻ったり、という、行ったり来たり的生活をしていました。お父さんの羊の世話をするために家に戻っていた時に、お父さんに頼まれて、お兄さんたちの様子を見に行くことになり

ました。ダビデは次の朝早く起きると、羊の群れは番人に任せて、お兄さんに渡すようにお父さんに頼まれたものを持って、兵士たちが集まっているところに出かけて行きました。

イスラエルの兵士たちがいるところに着いて、お父さんから預かってきたものを届け、お兄さんたちの様子を聞きに行ったときに、ダビデは、ゴリアトの挑戦的な言葉をじかに聞きました。ゴリアトはこう言っていました。「今日、わたしはイスラエルの戦列に挑戦する。相手を一人出せ。一騎打ちだ」。

兵士たちは皆、こう聞いて恐れおののいていたのですが、ダビデはゴリアトの言葉を聞いて、「生ける神の戦列に挑戦するとは、一体何者ですか」と言いました。エリアブお兄さんは、ダビデがこう言ったのを聞いて、ダビデは出しゃばっている、と思いました。それでエリアブは腹を立てて、ダビデをとっめめたのでした。「何をしにここへ来たのか。荒れ野にいるあの少しばかりの羊を、誰に任せてきたのか」。放ってきたんじゃないのか？と言わんばかりです。ダビデは、羊の群れは番人にちゃんと任せてから来たのでした。お兄さんにこんなふうにとっめられる筋合いはありません。お兄さんは続けます。「おまえの思い上がりで野心はわたしが知っている。おまえがやって来たのは、戦いを見るためだろう」。ダビデは思い上がりしていたのですか？ もっとえらくなろうと

いう野心を持って、戦いで手柄を立てるためにここに来たのですか？ そうではありません。お父さんに頼まれて、お兄さんたちの無事を確認しに来ただけです。このときエリアブお兄さんは、ダビデについて正しいことを言いませんでした。これが「偽証」です。

どうしてエリアブお兄さんは、ダビデをこのようにとちめて、ダビデについて、正しいことを言わなかったのでしょうか。

エリアブは背が高く、容姿も優れていました。8人兄弟の一番上のお兄さんで、頼もしい人であったと思われます。しかし、自分の目の前で、「次にイスラエルの王となるのはダビデである」という意味の儀式を見てしまったので、「なぜわたしではなく、末の弟のダビデが？」という思いを強く持つようになってしまったのでしょう。嫉妬心とは恐ろしいものです。ねたみの心があると、その人のことをまっすぐに、正しく見ることができなくなってしまいます。曲がった心でその人を判断してしまうようになります。

第九戒では「隣人について偽証してはならない」と言われていますが、「隣人」には、いちばん身近な兄弟、姉妹のことも含まれます。皆さんは、自分の兄弟、姉妹について、エリアブお兄さんのように「偽証」していませんか？ 思い当たることがあるのではないかと思います。第九戒は、それをしてはならない、と禁じているのです。そう考えると、守るのが難しい戒めですね。

偽証しないために、つまり、曲がった心で人を判断しないためには、曲がった心をまっすぐに直していただく必要があります。心がまっすぐにならない限り、私たちはすぐに「偽証」します。

私たちの心が曲がってしまうのは、私たちに罪があるからです。私たち人間の心には、アダムが食べてしまった「善悪を知る木の実」の毒が強く残っているので、本当は神さまがお決めになるはずのことについて、自分でよいか悪いかを判断してしまって、その人のことや、その出来事のこと

を赦せなくなって、そうして、心が曲がってしまうのです。神さまにお任せすればよいのに、自分で判断するから、苦しいのです。

神さまは、すべての人の罪を赦すことをお決めになっています。そのために、イエス・キリストをこの世にお遣わしくされました。イエスさまは、本当は「あなたたちの方が悪い」と言って反論することもできたのに、黙って屈辱に耐え、十字架にかけられ、十字架の上で「自分が何をしているのかわかっていないのですから、彼らを赦してください」と、神さまに祈ってくださいました。それは、当時生きていた人たちのためだけでなく、私たちのためでもありました。

こうして罪を赦していただいたのなら、私たちは、「善悪を知る木の実」の毒から自由になって、人や物事を自分で判断することをやめられるはずですが、「罪を赦していただいた」と言いながら、自分で判断し続けるなら、それこそ「うそ」です。私たちは自分自身を偽っていることになります。また、神さまをも偽り者としてしまうことになります。「悔しい」「言い返してやりたい」と思っても、そこで、十字架のイエス様の姿を思い出しましょう。イエスさまはあのとき、悔しくて、言い返しませんでした。そうして、十字架の苦しみを耐えてくださいました。

十字架のイエスさまをいつも思い出して、心をまっすぐにしていただきましょう。そうすれば、曲がった心で人を判断することをやめられます。心がそのようにまっすぐに整えられているなら、口から「偽証」が出ることはありません。

次のイスラエルの王さまに、エリアブではなくダビデが選ばれたとき、神さまはサムエルに、「人は目に映ることを見るが、主は心によって見る」とおっしゃいました。「偽証」しないように、まず、神さまがご覧になる私たちの心のほうを、まっすぐに整えましょう。イエスさまがその道を聞いてくださいましたから、それができるように祈りつつ、毎日歩んでいきましょう。（赤石めぐみ）

[今週の暗唱聖句] 出エジプト記 20章16節

隣人に関して偽証してはならない。

〈ねらい〉

人はなぜ嘘をつくの、この戒めが求めていることは何なのかを考え、どうすれば真実に生きることができるのかを指し示したい。

〈展開例〉

1. なぜ人は嘘をつくのだろう

人はどんなときに嘘をつくと思いますか？
(どんな嘘をついたことがあるか聞いてみる)
その時、どうして嘘をついてしまったのかな？
本当のことを言ったら叱られるんじゃないかと自分を守るためにつく嘘、友達と話を合わせるためにつく嘘。自慢したくてつく嘘もあります。また、悪意のある嘘もあります。お金をだまし取ったり、作り話によって人を陥れるためにつく嘘です。

2. 「隣人に関して偽証してはならない」とは？

偽証とは嘘の証言をすることです。裁判で嘘の証言をすることだけでなく、家族や友達に対して嘘をつくことも偽証することです。「隣人に関して」とあるように、特に隣人に関する嘘をついてはならないことを教えています。嘘によって誰かの名誉を傷つけてはいけないということです。友達の悪口やうわさ話によって隣人を傷つけることも、偽証していることとなります。

3. なぜ嘘をついてはいけないの？

真実な神様は偽りを憎まれます。「偽りを言うくちびるは主に憎まれ、真実を行う者は彼に喜ばれる。」(箴言12章22節 / 口語訳)

嘘は神様を悲しませるだけでなく、人を傷つけ、人間関係を壊します。嘘をつかれた人は、裏切られたという思いになります。真実をよく確かめないですうわさ話や悪口も、人と人の信頼関係を壊します。聖書の中に「人のよしあしを言う者の言葉は、おいしい食物のようで、腹の奥にしみこむ」(口語訳箴言18章8節)とあるように、私たちは人の悪口が大好きです。自分が言われたらす

ごく嫌な気持ちにするのに、平気で人のことを悪く言うのです。人を引き下げることによって、自分の方が上であると安心したいからです。

嘘は言われた人を傷つけるだけでなく、嘘を言った自分自身の人格をも傷つけ、人からの信用を失わせます。

4. どのように真実を語るのか

では、本当のことなら何を言ってもいいのでしょうか。いいえ、たとえ本当のことであっても、人を攻撃するために真実を語ってはいけません。

聖書は愛に根ざして真理を語る事が大切だと教えています(エフェソ4章15節)。その人のことを思い、愛をもって真実を語ることを神様は求めておられます。

5. 罪をゆるされた者として

神様は私たちに対して「あなたの罪は十字架によってゆるされているんだよ」と宣言してくださっています。このことを信じる人は、自分の罪や弱さを隠さなくてもよくなります。神様によってゆるされた者として、自分の弱さを受け止めることができるようになります。隣人に対して愛をもって真実を語るようになります。「わたしは真理である」と語られたイエス様に従う人に変えられるのです。

○イソップ物語「うそをつく子ども(オオカミがきた)」

絵本があったら読んでみましょう。

「イソップ物語」オオカミ少年 You Tubeの動く絵本

(<http://www.youtube.com/watch?v=He0jZu4xXJI>)

○クイズ「嘘つきはだれだ」

Aさんがこんな問題を出した。「嘘つきが一人いる。さて誰でしょう。 B『Eが嘘つき』 C『Eが嘘つき』 D『Eが嘘つき』 E『わたしは嘘つき』」さて、誰が嘘つきでしょう？

(答えはAさん)

8月4日 第十戒 むさぼってはならない 教理説教のための聖書黙想

テキスト	ルカによる福音書 12章13～21節
子どもカテキズム	問61, 62
参照教理問答	ウェストミンスター小教理問答 問79～81 ハイデルベルク信仰問答 問113 ジュネーヴ教会信仰問答 問213～215

問61 第十戒は何ですか。

答 「隣人の家を欲してはならない」、です。

問62 第十戒で神さまが願っておられることは、何ですか。

答 神さまは、私たちに必要なものを与えてくださいます。

しかし、人は、少しでも多くのものを自分のものにしようと欲しがります。

むさぼりの心こそ、偶像礼拝です。

それを考え、実行してはいけない、ということです。

むしろ、神さまは、私たちの心を人の幸せを願うように造り変えてくださいました。

ですから、私たちは神さまから与えられたものに満足し、感謝し、

人に与えることを喜びとするのです。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

この箇所には、貪欲に対する警告が記されています。群衆の一人が遺産分割についての相談を主イエスに持ちかけました。「先生」と呼びかけています。これはユダヤ教のラビに対する呼びかけの言葉です。昔も今も、宗教上のことでなくても宗教的な指導者に相談することがあります。彼は、主イエスのことをラビの一人と思って相談を持ちかけたのでしょう。自分の取り分に不満があり、もっと多く相続する方法はないかと考えていたものと思われます。主イエスは、そこに貪欲の罪があることを見抜いて、彼の求めをしりぞけました。そして、「どんな貪欲にも注意を払い、用心なさい」(15)と言って、たとえを語られたのです。

ある金持ちの畑が豊作でした。彼は、豊かな収穫に対応するために、今ある倉を壊して、もっと大きな倉を建てて、そこに穀物や財産をしまい込もうと考えました。これは、一方では、堅実で実際的な対応だと言えるでしょう。収穫は年ごとに違いがありますから、豊作の年に蓄えて、不作の年のために備えることが必要です。経済的な合理性から考えるならば、彼の行為は当然なのであり、責められるべきではないでしょう。

しかし、彼の言葉に彼の愚かさがあらわれています。一つには、穀物や財産など、物質的、経済的なものが人生を支えるものであると考えています。それが満たされれば、人生に不安は何もないかのようです。二つには、豊かな収穫をただ自分のものとしてしまい込み、自分を楽ませるためにのみ用いようとしています。彼が考えていることは自分のことばかりであり、人と分かち合う喜びに生きようとしていません。

主イエスは、人生とは、物質的、経済的に満たされさえすればよいのか、自分が安心し、楽しむことができればそれでよいのか、と問いかけておられます。それが本当に豊かな人生であると言えるのか。そして、その問いかけを通して、主イエスは、彼の心に貪欲の罪があることを指摘しておられます。わたしたちは、その貪欲の罪から離れなければなりません。たとえ自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならないならば、真実には命を失うことになりかねないのです(20, 21)。

さて、この13節から21節は、22節から34節との結びつきの中で正しく理解されます。神の前に豊かになることについて、22節から34節で明らかにされるからです。「神の前に豊かになる」とは、

言い換えるならば、尽きることのない富を天に積むことです(33)。そして、それは神の国を求めることにほかなりません(31)。

何を食うようか何を着ようかと思ひ悩む姿は、「愚かな金持ち」の姿の裏返しです。豊作であるならば大きな倉を建て、そこに穀物や財産をみなしまいこむ。それで人生は安心なのであると考えている。それは、何を食うようか何を着ようかと思ひ悩むことと一つのことにはほかなりません。

主イエスは、その思ひ悩みや偽りの安心から離れて、空の鳥を養い、野の花を美しく装ってくださる、真実の父に依り頼むことへと、わたしたちを招いています。神の国を求めるならば、すべての必要なものは加えて与えられます。この恵みと憐れみ豊かな御父を信頼し、すべてをこの御父に祈り求める。そこに、真実に豊かな人生が広がります。与えられているものに満ち足りて、感謝して生きることができます。また、与えられたものを分かち合い、周りの人々と手を取り合って共に生きる生き方へと変えられます。主なる神は、その真実の豊かさを与えてくださるのです。

〈子どもカテキズムの解説と黙想〉

新共同訳聖書では、第十戒は「隣人の家を欲してはならない」(出エジプト20:17)です。「欲してはならない」「一切欲してはならない」と翻訳されていますが、これはもっと強い意味の言葉で、「むさぼってはならない」と翻訳されることの多い言葉です。「むさぼる」とは、ただ「欲する」「欲しがると」いうことではなく、必要以上に欲しがることであり、貪欲ということなのです。

わたしたちはさまざまなものを欲します。わたしたちの欲望はブラックホールのように、あらゆるものをのみこもうとして際限がありません。それは、わたしたちの心にぼっかりと穴が開いているからです。そのため、むなしさを感じます。わたしたちは、そのむなしさから逃れるために、さまざまなもので心を満たそうとします。しかし、それは、生けるまことの神によって満たしていただかなければ、満たされないものです。生けるまことの神を知って、神を信頼し、神の愛と配慮の中で満ち足りる。そのことのほか、わたしたちがむなしさから解放放たれる道はありません。

使徒パウロは、「貪欲は偶像礼拝にほかならない」と言いました(コロサイ3:5)。むさぼって貪欲に生きるときに、富や財産を神とすること、自分が神になることが起こるからです。あの愚かな金持ちも、すべてを自分のものとしてしまひ込み、「食べたり飲んだりして楽しめ」とつぶやいたとき、自分自身が神になっていたのです。こうして、貪欲は偶像礼拝にほかなりません。

貪欲を離れ、神の御前に豊かになるとは、自分の富も財産も賜物も、また命さえも、決して自分のものではない、神から与えられたものであることを知って、与えられているものを喜ぶことです。満ち足りることを知り、神を信頼することです。また、神はわたしたちを一人で生きる者とはなさらず、共に生きるものとして造り、はぐくんでくださっています。ですから、与えられている恵みや賜物を分かち合い、悲しみを共に悲しみ、喜びを共に喜ぶ。そのように生きるところに、神の御前に豊かに生きる道があります。主なる神がわたしたちを支え、養ってくださっている。神の御手に信頼することが許されている。その真理を知って、永遠の命に備えることが大切なのです。

欲望のとりことなり、むさぼりに駆り立てられるとき、人は神の御顔を見失い、隣人の顔も見えなくなってしまいます。神への愛に生きることも、隣人を愛する愛に生きることもできなくなります。こうして、偶像礼拝を禁じる第一戒とむさぼりを禁じる第十戒は、密接に関わりあっています。第十戒は第一戒と対になっています。第十戒は、神を神とすることと人を愛することの結びつきを明らかにして、わたしたちを神と人を愛する一つの愛に立たせようとしているのです。

〈子どもたちに対して〉

子どもたちも、むさぼりの罪と決して無縁ではありません。いや、子どもは素直に欲しい欲しいとねだるのであり、それは子どもの成長にとって欠かせないものでさえあると思います。ですから、欲しがることそのものを禁じる、禁欲主義的なことにならないよう、注意したいと願っています。欲しい欲しいと願う心が、愛と配慮に富む御父への祈りとなり、互いに分かち合う心を持つことができるようにと願います。(望月 信)

8月4日 第十戒 むさぼってはならない 説教展開例

テキスト ルカによる福音書 12章13～21節
子どもカテキズム 問61, 62

〔単元のねらい〕

十戒の学びの締めくくりとなる第十戒を取り扱う。むさぼりの罪、自分を神とする偶像礼拝から離れるよう教えるだけでなく、愛と配慮に富む神に信頼して、すべてを神に祈り求めることへと導きたい。また、禁欲的になるのではなく、恵みを分かち合うことに喜びがあることを指し示したい。

神さまの恵みを分かち合おう

十戒の一つひとつ学んできました。今日は、いよいよ第十戒です。こういう文章でした。「隣人の家を欲してはならない」。「隣人の家」とは、具体的な家、建物のことではありません。皆さんであれば、鉛筆や消しゴム、ノートのような勉強に必要なもの、本やおもちゃやゲーム、おいしい食べ物や飲み物、着る服や履く靴など、いろいろと考えることができます。それは、わたしたちの生活に必要なものすべてです。それを「欲してはならない」。ですから、「隣人の家を欲してはならない」、これは言い換えると、「人のものを欲しがってはいけません」ということです。

皆さんには、いろいろと欲しいものがあります。もちろん、人のものを奪い取ってまで欲しいと考える人は、皆さんの中にはいないと思います。「欲しいものはお父さんお母さんに言うよ」というお友だちが多いでしょう。けれども、「黙ってちょっと借りて使っちゃえ!」「借りてるだけ、借りてるだけ!」って思ったお友だちはいるかもしれません。先生も、昔、友だちから消しゴムを借りて使っていて、いつの間にか自分のもののようにしてしまっていたことがありました。あとで、そのお友だちから、とても大切な消しゴムだったと聞いて、「ごめんなさい」って謝りました。

わたしたちの心の中には、欲しい欲しいという心があります。その「欲しい」と思う気持ちは、決して悪いことではありません。けれども、その「欲しい」と思う気持ちがわたしたちを間違ったことに向かわせてしまうことがあるのです。

今日は、イエスさまのたとえ話を学びましょう。あるお金持ちのお話です。大きな畑を持っていて、その年、お天気に恵まれたのでしょうね。雨がよく降り、太陽もよく照って、とてもたくさん収穫がありました。そのお金持ちの人は、大喜びです。けれども、すぐに心配になって言いました。「どうしよう。作物をしまっておく場所がない」。お金持ちで、大きな畑を持っていたのですから、作物をしまっておくために、それなりに大きな倉があったでしょう。けれども、この年の収穫はとてとてもたくさんで、お金持ちの大きな倉にもしまっておくことができない。それほどたくさん収穫だったのですね。皆さんは、そんなにたくさん収穫があったら、どうするでしょうか。このお金持ちの人は、「そうだ。もっと大きな倉を建てよう」。そう考えて、これまでよりもっと大きな倉を建てて、そこにすべてをしまい込もうとしました。そして、自分の心の中でこんなふうにつぶやいていました。「こんなにたくさん収穫があるとは、この先何年もの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しもう」。

皆さんは、このお話を聞いてどう思いましたか。「そうだそうだ、大きな大きな倉を建てればよい」と思いますか。大きな倉を建てて、しまい込めば、確かに何年もの蓄えになるように思いますね。ところが、イエスさまはおっしゃいました。「愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いったいだれのものになるのか」。イエスさまは、このお金持ちは愚かである

と言います。そして、「今夜、お前の命は取り上げられる」とおっしゃいます。すなわち、たとえどれほどの蓄えがあっても、わたしたちは自分の命がどれだけなのか、本当には自分の命のことでさえ分からないのです。イエスさまは、「命を与えてくださる神さまのことに思いを向けなくて、食べ物飲み物、お金や財産のことばかり考えていて、それでよいのか」とおっしゃっています。

皆さんも、考えてみましょう。たくさんの食べ物飲み物があって、蓄えがあって、ですから、お金もあるのです。けれども、それで本当にわたしたちは幸せになれるのでしょうか。わたしたちの命を支えるのはお金や食べ物なのでしょうか。もちろん、お金も食べ物も必要です。けれども、それらを与えてくださるお方がおられるのではないのでしょうか。畑が豊作だった。それも、雨が降り、太陽が照って、すべてを造って支配しておられる神さまの恵みなのではないのでしょうか。

もう一つ、このお金持ちは自分一人で働いたのでしょうか。大きな畑があって、ですから、そこで働いている大勢の人がいたと思います。畑を耕したり、収穫した、たくさんの人がいて、だから、たくさん収穫することができました。この人は、大きな倉を建てて、それを全部しまい込んで、働いていた人たちにもっとたくさん分けてあげないのでしょうか。自分が食べたり飲んだりすることしか考えないのでしょうか。

そう考えると、イエスさまがおっしゃることが分かるのではないのでしょうか。このお金持ちは、財産はいっぱいあるかもしれませんが。けれども、本当はちっとも豊かではないのです。自分のことばかりを考えて、そこでは、自分が神さまになっていたのです。自分さえ良ければよい。それは自分が神さまになってしまうことです。イエスさまは、「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい」とおっしゃいました。貪欲とは、「あれが欲しい」「これが欲しい」と、欲しい気持ちでいっぱいになってしまうことです。「欲しい欲しい」と思っていると、自分が神さまになってしまう。聖書は、それは罪なのだと言います。ですから、「むさぼ

てはならない」「欲してはならない」と、第十戒で教えられるのです。欲しい欲しいという気持ちばかりになると、自分中心になって、自分が神さまになってしまう。ですから、第一戒を守れないことにもなってしまいます。これは、たいへん大きな罪なのです。

そして、貪欲は罪であるだけでなく、とても悲しく、寂しいことですね。「たとえ話のお金持ちの人も、みんな楽しく過ごせたらよいのに」と思いませんか。「むさぼる」とは、自分のことだけを考えてしまうことなのです。そこでは、とても寂しく、悲しいことになっています。悲しむ人が生まれてしまって、人の悲しみの上で自分が楽しもうとして、それは本当に楽しいでしょうか。本当は、すべてのものが神さまから与えられたもの、神さまの恵みです。ですから、何かが欲しいときには神さまにお祈りしましょう。そして、与えられたものは、自分だけでなく、兄弟やお友だちと一緒に分かち合いましょ。そうして、神さまと人を愛する愛に生きること、それがこの第十戒で教えられていることなのです。

皆さんは、「不思議なポケット」という歌を知っているでしょう。「ポケットの中にはビスケットがひとつ／ポケットをたたくとビスケットはふたつ／もひとつたたくとビスケットはみつ／たたいてみるたびビスケットはふえる／そんなふしぎなポケットがほしい／そんなふしぎなポケットがほしい」。とても不思議なポケットです。こんなポケットが欲しいなあと思いませんか。先生は欲しいです。実は、神さまは、このポケットをわたしたちにくださるのです。一緒にお友だちと遊んでいて、ビスケットが一枚あるとしますね。そのときに、たたいて二つに割ればよいのです。そうすると、わたしも食べるができるけれど、お友だちにも分けることができます。もちろん、大きさは小さくなるけれども、一緒に食べて、二人が笑顔になることができます。そうやって、自分のものとして欲しがるのはなく、分かち合うこと、そこに神さまに喜ばれる生き方があるので。 (望月 信)

[今週の暗唱聖句] 出エジプト記 20章17節

隣人の家を欲してはならない。

〈ねらい〉

むさぼりとは何か、なぜむさぼってはならないのかを共に考える。むさぼりから解放される唯一の方法は神によって満たされることであることを教えたい。

〈展開例〉

1. むさぼってはならないってどういう意味？

辞典で「むさぼる」の意味を調べると「飽きることなくほしがる」と書いてあります。第十戒は「隣人の家をむさぼってはならない」とあります。つまり、他の人のものを、自分のものにしようと欲張ってはならないということです。

2. どうしてむさぼってはいけないの？

他の人が持っているものを見て、いいなあというらやんだり、ほしがったりすることは、それほど悪いことではないように思うかもしれません。

でも聖書は、このむさぼりの罪は、いろいろな罪を犯す根のようなものであると教えます。ヤコブの手紙1章14～15節に「欲望ははらんで罪を生み、罪が熟して死を生み出します」とあるように、自分のものにしたいという欲望が大きくなると、嘘や盗みや姦淫などの罪を生み出すようになります。聖書の中にはこのような例がたくさん出てきます（嘘をついてナボトのぶどう畑を奪い取ったアハブ王・姦淫と殺人の罪を犯したダビデ王・嘘をついてナアマンから金品をせしめたゲハジなど）。

人が最初に罪を犯したのも、むさぼりが原因でした。それを食べて神のように賢くなりたい、神様のものを自分のものにしたいという欲望が罪を犯させたのです。

3. なぜむさぼってしまうのだろう

テレビや雑誌のコマーシャルは毎日、私たちにささやきかけます。「さあ、ここにあなたを幸せにするものがありますよ。もっと新しいもの、もっときれいなもの、もっと素晴らしいものが……これらを手に入ればあなたはもっと幸せになれる

すよ」と。

しかし、それらを手に入れても、それが私たちの心を満たしてくれるわけではありません。手に入れたとたん、さらにもっと良いものが欲しくなるのです。むさぼることをやめることができないのは、心が満たされていないからです。

4. どうすればむさぼりから解放されるのか

むさぼってはならないと教えられれば、むさぼることをやめられるのでしょうか。いいえ、戒めは私たちにむさぼる心があることを教えてくれますが、むさぼりの思いから解放してくれるわけではありません。

むさぼることをやめるためには、神様を信じて心が満たされることが必要です。この世のものは、人の心にあいた穴を埋めることはできないからです。

イエス様が私たちの心に住んでくださるとき、私たちの心は満たされます。そうすれば神様が与えてくださるもので満足できるようになります。他の人に与えられているよきものを祝福し、共に喜び、大切にすることができるようになるのです。

5. コースターを作るう

コルクのコースターに油性ペンやアクリル絵の具でイクトウスの絵を描く

Ι Η Σ Ο Τ Σ (イエス)

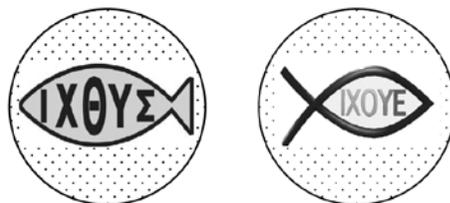
Χ Ρ Ι Σ Τ Ο Σ (キリスト)

Θ Ε Ο Τ (神の)

Τ Ι Ο Σ (子)

Σ Ω Τ Η Ρ (救世主)

ギリシャ語の頭文字を並べるとイクトウス（魚の意味）になる。



テキスト ルカによる福音書 22章47～53節
子どものための平和カテキズム
参照教理問答 ウェストミンスター大教理問答 問122

子どものための平和カテキズム

問 私たちが平和に生きるために、神様はどのような道をそなえてくださるのですか。

答 すべての争いは、まず人の心にやどります。

ですから、まず人々の心に平和の砦（とりで）が築かれなければなりません。

神は、キリストによって、敵対する者たちの間に、まことの平和をもたらし、

キリストの平和のなかへ、すべての人を招いておられます。

信仰によって、神様とのあいだに、まことの和解（平和）を得た私たちは、

隣人とのあいだにも、平和のまじわりをつくるよう召されます。

その平和が、国と国、民族と民族、

たがいにことなつた人々のあいだにも、広げられるよう、祈りもとめます。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

主イエスは、ユダヤ人たちによって逮捕された。支配者・被支配者の関係では、被支配者であり、戦いにおいては敗北者の姿がここにある。しかし主イエスは、この逮捕に対して、反抗されることをまったく行わない。なぜならば、支配者・被支配者、力による争いにおいては、真の平和、主が求めておられる神の国の完成はないからである。神の救いに生き、神の子として歩もうとする時、世的な論理から解放されなければ、真のキリスト者としての歩みを行っていくことはできない。

一方、主イエスの周りにいた弟子たちは、なおも世的な論理に生きている。49節での「主よ、剣で切りつけましょうか」との問いかけ然り、50節の「ある者が大祭司の手下に打ちかかって、その右の耳を切り落とした」こと然りである。武力で抵抗することは、武力による反発を呼び起こすだけなのである。

しかし主イエスは、この手下の耳をいやされた。そして主イエスは逮捕され、十字架に架けられて、死を遂げられた。主イエスは甦られ、死に勝利されることにより、世における力に勝る平和が御自身の内にあることをお示しくださった。

そして、主イエスの御業は、「隣人を自分のように愛しなさい」と語られる律法の第二の掟にお

いて、私たちに実践することを求めている。

つまり、私たちキリスト者は、世的な論理から解放され、主イエスがお示しくださった神の国の論理、信仰的に生きることが求められている。だからこそ、どのような時にも、武器を手取るのではなく、神の武具を身に着け、平和の使者となることが求められている（参照：エフェソ6:10～18）。この論理は、国と国との間の平和を考えるだけではなく、私たちが隣人（友だち）との間においても、実践していくことが求められている。子どもたちの間では、いじめや様々な虐げが待ち受けている。そうした中であっても、キリスト者として、主を証しし、神の民として歩み続けることが、喜びであり、祝福であることを示していただきたい。

〈子どものための平和カテキズムの解説〉

このカテキズムは、当初から子どもカテキズムに含まれていたものではなく、第18号（2005年）に最初に紹介された。そのため、小冊子としての「子どもカテキズム」を用いているならば、紹介されていないので、注意していただきたい。

私たち人間は、原罪を持って生まれ、日々主の御前に罪を犯し続けている。「争う」・「戦争」は、

まさに人間が肉的に、世的に生きている証拠である。ここに勝者が生まれ、もう一方は敗者となる。

しかしキリスト者は、神が求めておられる神の国の平和を築き上げるために、生きなければならない。この時、私たちキリスト者は、武器を収め、敵対する者と和解し、平和を築き上げる努力を行わなければならない。それは勝者・敗者の関係ではなく、互いに愛し合う隣人として、神の愛を実践する関係である。

〈子どもたちに対して〉

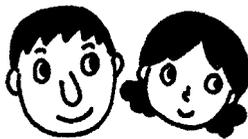
子どもたちにとって、「戦争を行わず平和を」といっても、漠然とした頭の中だけのものになってしまう可能性がある。戦争の恐ろしさを語っても、自分は何をすれば良いのか、答えが見つからない。しかし、子どもたちにとって、学校でのいじめの問題は、常に自らに降りかかる恐れがある問題でもある。友だち同士で、仲良くして、平和

を築いていくことが第一歩である。

そしてこの時、いじめを受ける弱い者の立場を、常に念頭に置かなければならない。キリストは、病者、弱い者、罪人と、常に社会的弱者と呼ばれる人たちに寄り添ってくださった。サマリア人への譬えでも、死にそうな者に寄り添うサマリア人こそが、隣人であることをお語りくださった（ルカ10章）。だからこそ、友だちをいじめないことはもちろんのこと、いじめられているお友だちがいれば、寄り添い、いじめがなくなるように行動することなども、神さまが求めておられる平和を実現することの第一歩であると、紹介することができるのではない。

その上で、私たちキリスト者一人ひとりが、神の平和を実現するために行動する時、戦争の問題に対しても考えることができ、また行動することができることを紹介していただきたい。

(辻 幸宏)



テキスト ルカによる福音書 22章47～53節
子どものための平和カテキズム

〔単元のねらい〕

8月には、広島原爆の日（6日）、長崎原爆の日（9日）、敗戦の日（15日）を迎えます。すでに第二次世界大戦が終わって68年もの間、日本において戦争は行われていません。神の大きな恵みが与えられています。しかし戦争がどれほど恐ろしいものであり、人間の罪の故にもたらされた愚かなものであるかは、繰り返し伝えていかなければなりません。

しかし一方で、戦争の問題は、子どもたちにとっては抽象的なこととなるため、キリスト者として何が求められているかということ、その第一歩としていじめの問題から考えていくことにします。身近なところから平和を実現することで、神さまが求めておられる平和の実現に子どもたちも参加できることを示していただきたい。

戦争って何？ 平和って何？

8月になると毎年、平和について学びます。それは8月6日に原子爆弾が広島に落とされ、9日には長崎で落とされ、多くの人たちが死んだからです。そして、日本は戦争に敗れ、8月15日に戦争が終わりました。今からもう68年も前のことです。先生も戦争を知らないのですが、みんなのおじいさん・おばあさんでも戦争を知らないかも知れませんね。第二次世界大戦では、日本人だけでも300万人以上の人たちが死んだと言われているのです。世界中では、何千万人です。

もうずっと前のことであり、それ以来、日本では戦争が行われていないのです。これは神さまが日本に恵みをお与えくださっているからです。

しかし、世界に目を向けますと、今でもパレスチナなどでシリアやイスラエルとの戦争が行われ、人と人が殺し合っているのです。これは本当に悲しいことです。

戦争を起こさない平和を続けるためには、努力しなければなりません。

でも、みんなにとって、戦争なんか関係ない、自分が何をすれば良いの？ と思うかもしれません。難しいから何もなくてよいではありません。

イエスさまは、ユダヤ人によって逮捕され、十字架に架けられていきますね。戦いや戦争であれば、自分が助かるために、逮捕される前に、武器を取って、敵を殺さなければなりません。だから、イエスさまのお弟子さんの一人は、「主よ、剣で切りつけましょうか」と語り、他の弟子が、大祭司の手下に打ちかかり、右の耳を切り落としてしまいます。イエスさまが負けてはダメだから、逮捕されてはならないからと、弟子たちは一生懸命だったのです。

しかし、イエスさまは戦うことはされません。むしろ、大祭司の手下の耳に触って癒やされた上で、逮捕されていくのです。イエスさまは戦いに負けたのでしょうか？ イエスさまは何もできなかったのでしょうか？ 決してそうではありません。イエスさまは、十字架に架けられて死にますが、三日目に甦ってくださいました。イエスさまは生き返ってくださったのです。このことは、人間にとって最も敵対している「死」に対して勝利してくださったのであり、イエスさまを信じる人は、死んでも甦って、天国での永遠の生命が与えられることをお示しくださったのです。

だからこそ、イエスさまは、目の前にいる敵であるユダヤ人と戦っておられたのではなく、ユダ

ヤ人たちも平和になるように、救われ、永遠の生命が与えられるように、サタンに対して、死に対して勝利してくださったのです。

だからね、クリスチャンは誰とも武器をとって戦うことは求められていません。今日の暗唱聖句でも、イエスさまは語っていますね。「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と。迫害する者のために呪いの祈りをするではありません。罪の悔い改めと祝福を祈るのです。イエスさまは自分を逮捕し、十字架に架けたユダヤ人のために祈りされたのです。平和とは、このように、武器をとらずに、互いに受け入れ合い、赦し合い、祈り合うことです。

みんなにとって、もっと身近な問題で考えたら分かるかと思います。皆さんの学校でいじめはありませんか？ もし「お友だちをいじめている」という人がいるならば、すぐにやめてください。神さまの命令です。自分もいじめられるのが怖いから……というお友だちもいるでしょう。

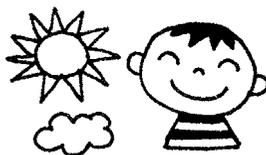
神さまがみんなに求めている平和にすることとは、お友だちとけんかをしない、いじめをしない、いじめられているお友だちがいるならば一緒にいて、いじめがなくなるようにすることです。イエスさまは、お弟子さんによって耳を切り取られた敵である大祭司の手下ですら、愛していただき、傷を癒やしてくださったのです。そして、イエスさまは、いつでも貧しい人たち、病人たち、罪人とされ人々から嫌われていた人たちと一緒にいていただき、救いをお与えくださいました。それと同じように、苦しんでいる人たち、悲しんでいる人たちと一緒にいること、受け入れ合うこと、このことをイエスさまは求めておられるのであって、「隣人を自分のように愛する」こととなります。

だから、みんなにとって戦争をしない、平和を創るといった時、何か訳の分からない難しいことかとも思ってしまうでしょうが、お友だちと仲良くすること、けんかしないこと、いじめをなくすこと、こうしたことによって、神さまが求める平和を実現しているのですね。 (辻 幸宏)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 5章44節

わたしは言うておく。

敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。



〈ねらい〉

戦後の悲惨さについて知り、どのようにして戦争が始まっていくのかを考える。

〈展開例〉

1. 戦争について知ろう

第二次世界大戦の死者の数はどれくらいだったと思いますか。世界じゅうで約5000万人もの人が亡くなったと言われています。

戦争はゲームではありません。本当に人が殺され、家は焼かれ、めちゃくちゃにされます。普通なら決して許されないようなことが、戦争では堂々に行われます。戦争がどんなに悲惨なものであるか、本や資料を見ながら話し合みましょう。

2. 戦後の日本

戦争に負けた日本は、再び戦争をしないことを宣言する憲法を作りました。私たちの国には外国との間のもめごとを、戦争という手段によって解決しないことを決めた素晴らしい憲法があります。(憲法第9条を読んでみる)

3. 戦争はどうやって始まるのか

戦争はどのようにして始まっていくのでしょうか。国は国民が戦争に協力してくれないと困るので、政府を支持するように国民を教育します。戦争に反対するような人は政府のじゃまになるので、そんなことが言えないような決まりを作るようになります。

かつて日本人は国によって、天皇を神としてあげ、天皇の国のために戦うように教育されました。協力しない人は刑務所に入れられました。

「戦争のつくりかた」という絵本が出ています。HPからダウンロードしてイラスト入りの絵本を作ることができます(次ページを参照。<http://>

smile.hippy.jp/ehon/index.htm りぼん・ぷろじえくとHPより転載です)。

この絵本から、戦争というものは、知らないうちに少しずつ始まっていき、気がつくともう反対できなくなることがわかります。過ちを繰り返さないために、過去の戦争について調べたり、平和について考えることが大切です。

〈参考図書〉

「戦争で死んだ兵士のこと」

物語は池のほとりで一人の兵士が死んでいる場面から始まります。そこからその兵士が生きてきた時間を一緒にさかのぼっていきます。その兵士が誕生したページでは、彼が本当に祝福されて生まれてきたんだという事が伝わります。戦争さえなければ、死ななかったかもしれないのに……。一人の人間の尊さを教えてくれる絵本です。(メディアファクトリー、小学生低学年～)

「今、考えよう！日本国憲法 戦争はなくせないの？」

「戦争をなくすには……日本国憲法の立場」など戦争や平和についての疑問を憲法の平和主義の精神と合わせて考えます。(あかね書房、小学生高学年～)

「シリーズ憲法9条 3巻『世界の中の9条』」

軍事力によらずに平和を実現していこうという世界の動きの中での日本国憲法9条の役割を学べる本です。(汐文社、小学生高学年～)

「ポプラディア情報館『アジア・太平洋戦争』」

日本がアジアの人たちにどんなに酷いことをしたかを写真や図で教えてくれる本です。(ポプラ社、小学生高学年～)

「戦争はなぜ起こるか」

戦争の原因について様々な角度から考えるのに良い本です。(ポプラ社、小学生高学年～)



絵本「戦争のつくりかた」

あなたは戦争がどういうものか知っていますか？

おじいさんやおばあさんから、むかしのことを聞いたことがあるかもしれません。学校の先生が、戦争の話をしてくれたかもしれません。話に聞いたことはなくてもテレビで戦争している国を見たことなら、あるでしょう。

わたしたちの国は、60年近く前に「戦争しない」と決めました。だからあなたは、戦争のためになにかをしたことはありません。でも、国のしくみやきまりをすこしずつ変えていけば、戦争しないと決めた国も、戦争できる国になります。そのあいだには、たとえばこんなことが起こります。私たちの国を守るだけだった自衛隊が、武器を持ってよその国にでかけるようになります。世界の平和を守るため、戦争で困っている人びとを助けるためと言って。せめられそうだと思ったら先にこっちからせめる、とも言うようになります。



戦争のことは、ほんの何人かの政府の人達で決めていい、というきまりを作ります。ほかの人には、「戦争することにしたよ」と言います。時間がなければ、あとで。

政府が戦争するとか、戦争するかもしれないと決めると、テレビや新聞やラジオは、政府が発表したとおりのことを言うようになります。政府につごうのわるいことは言わない、という決まりも作ります。みんなで、ふだんから、戦争のときのための練習をします。なんかへんだな、と思っても、「どうして？」と聞けません。聞けるような感じじゃありません。学校では、いい国民はなにをしなければならぬか、をおそわります。どんな国やどんな人が悪者か、もおそわります。

町のあちこちに、カメラがつけられます。いい国民ではない人を見つけるために。わたしたちも、おたがいを見張ります。いい国民ではない人がまわりにはいないかと。だれかのことを、いい国民ではない人も、と思ったら、おまわりさんに知らせます。おまわりさんは、いい国民ではないかもしれない人をつかまえます。

戦争が起こったり、起こりそうなときは、お店の品物や、あなたの家や土地を軍隊が自由に使える、というきまりを作ります。いろんな人が軍隊の仕事を手伝う、というきまりも。たとえば、飛行機のパイロット、お医者さん、看護師さん、トラックの運転手さん、ガソリンスタンドの人、建設会社の人などで。

戦争には、お金がたくさんかかります。そこで政府は、税金をふやしたり、私たちの暮らしのために使うはずのお金をへらしたり、私たちからも借りたりして、お金を集めます。みかたの国が戦争をするときには、お金をあげたりもします。

私たちの国の憲法は、「戦争しない」と決めています。憲法は、政府がやるべきこと、やってはいけないことを私たちが決めた、国のおおもとのきまりです。戦争したい人たちには、つごうのわるい決まりです。そこで、「私たちの国は、戦争に参加できる」と憲法を書きかえます。

さあこれで私たちの国は戦争できる国になりました。政府が戦争すると決めたらあなたは国のために命を捨てることができます。政府が「これは国際貢献だ」と言えば、そのために命を捨てることができます。戦争で人を殺すこともできます。



おとうさんやおかあさんや、学校の友だちや先生や、近所の人たちが戦争のために死んでも、悲しむことはありません。政府はほめてくれます。国や「国際貢献」のためにいいことをしたのですから。

人のいのちが世の中で一番たいせつだと、今までおそわってきたのは間違いになりました。一番たいせつなのは、「国」になったのです。

もしもあなたが、「そんなのはいやだ」と思ったら、お願いがあります。ここに書いてあることがひとつでもおこっていると気づいたら、おとなたちに、「たいへんだよ、なんとかしようよ」と言ってください。おとなは、「いそがしい」とか言って、こういうことになかなか気づこうとしませんから。わたしたちは未来をつくりだすことができます。戦争しない方法をえらびとることも。

8月18日 神のおきてを喜ぶ生活 教理説教のための聖書黙想

テキスト	マルコ福音書 10章17～27節
子どもカテキズム	問63
参考教理問答	ウェストミンスター小教理問答 問39～41, 82～85 ウェストミンスター大教理問答 問97, 155

問63 あなたは、この十戒を喜んで生きるのですか。

答 はい。聖霊なる神さまの助けの中で、御言葉を喜んで守り、生きます。

〈主題教理と説教奉仕を展望する〉

この単元において指定されている主題教理は、子どもカテキズム問63である。「十戒を生きる」という少々難解な倫理課題への同意を要求する設問に対して、「御言葉を守り生きる」という内容理解と実践意志とを応答させる。その理解と実践が一貫して「喜び」という動機のもとに行われ得るのは、「聖霊」への信仰とその「助け」への信頼があってこそである、との神学がある。

たった一つの間答で、これだけの信仰と倫理に関する論理を内包しているだけに、とても一度の児童説教で語り尽くせるものではないことを、初めから弁えておかなければならない。その上で、教会学校の礼拝に集う子どもたちの信仰と倫理を支え励ますために、どこまでも聖書の教理として提供しなければならない。

主題教理が、聖書の教理全体においてどのような位置にあるのか、その位置においてどのような意義を持っているのか、どのような機能を果たしてきたのか。説教者は理解を深めねばならない。その上で、主題教理を物語るために、最も相応しい聖書箇所を選ばねばならない。

子どもたちが週日置かれている家庭や幼稚園や小中学校において、どのような倫理を求められているのかを知る必要があるかもしれない。何か特定の倫理課題に注目し、それを聖書の教理に照らして、どのような問題を有するのかを考える必要に迫られるかもしれない。

説教者は奉仕の重荷を軽くしていただけるよう主イエスに祈らざるを得なくなるだろう。産みの苦しみを覚悟する奉仕者にこそ、一つの生ける神の言葉が生み出された時の喜びが約束される。

〈ウ小教理を規準にして考察する〉

主題教理は、聖書の教理全体において、どのような位置にあるのか。その位置において、どのような意義を持っているのか、どのような機能を果たしてきたのか。幸いにして、私たちの教会には信仰規準としてウェストミンスター信条が与えられている。この特典を活用しない手はない。

ウ小教理は、問39で「神が人間に求めておられる義務」を「啓示された神の御心への従順」と告白させ、問40で「従順の規範」を「道徳律法」と認識させ、問41で「道徳律法の要約」を「十戒」と確認させる。これを前提として、十戒の解説を終えた後、問82で「これらの神の戒めを、誰か完全に守ることができるか」を問い、「墮落後の人間は誰もできない」と答えさせる。

このように「十戒」は、神の契約の民だけに与えられたものではなく、人類普遍に対する神のご意志であるという位置づけがなされる。墮落後の人間が完全には守れない事実は、十戒が人間の義の試金石としての意義を持ち、全人類を有罪と判定する機能を果たしてきたことを示す。

十戒を生きる人間はすべて、十戒によって自分の義を試され、有罪であると暴かれることから免れられない。問84が認識させるように「すべての罪」が「神の怒りと呪いに値する」のならば、十戒を生きることは「悲しみ」でこそあれ「喜び」とはなり得ない。問85が告白させるように「神の怒りと呪いを免れるために」「キリストへの信仰と命に至る悔い改め」が要求され、それに応答する者に初めて、十戒を喜んで生きる可能性が出て来るのである。この可能性について、考察をさらに深めねばならない。

〈ウ大教理を規準にして省察する〉

キリストへの信仰と命に至る悔い改め、すなわち神の救いの恵みに与かった者には、十戒を喜んで生きる可能性がどのようにして開かれるのか。ウ大教理は、道德律法の効用について、すべての人に対する一般の効用だけでなく、再生していない人々とは区別された再生している人々にとっての特別の効用を告白させる。

問97が詳述するように、「再生し、キリストを信じている者たちは、行いの契約としての道德律法から救い出されており、そのため道德律法によって義とされることも、罪に定められることもないが、彼らには、道德律法の特別の効用がある。すなわち、彼らの代わりに、また彼らの幸いのために、キリストが道德律法を成就し、道德律法の呪いを受けてくださったことに対して、彼らがどれほど多くをキリストに負っているかを彼らに示し、それによって彼らを一層の感謝へと駆り立て、彼らの従順の規範としての道德律法に自分自身を服従させるよう一層心がけて感謝の念を表すようにさせるのである。」

このように「キリスト信者」にとって十戒は、神の恵みに対する感謝の規範という新しい効用を果たすようになる。神の怒りと呪いを免れさせていただけだけでなく、神の赦しと和らぎに与らせていただいた者が、喜びと感謝に溢れて、自発的に献身をなすことができるように、道德律法はその道筋を示してくれるのである。

このような十戒の福音的理解と感謝の生活とを可能ととしてくださるのが、聖霊である。問155が詳述するように、「神の霊は、御言葉の朗読、特に御言葉の説教を有効な手段とし、罪人の目を開き、罪を自覚させ、へりくだらせ、彼らを自分の殻から引き出してキリストのもとに引き寄せ、彼らをキリストのかたちに造りかえ、キリストの御心に従わせ、彼らをさまざまな誘惑と腐敗に対して強くし、彼らを恵みのうちに造り上げ、信仰を通して彼らの心を清さと慰めにおいてゆるぎなくして救いに至らせる。」

十戒を喜んで生きることができる者は、聖霊によって十戒をキリストの御言葉として聴くことができる耳を与えられ、キリストの恵みとして生き

ることができる心を与えられた者である。

〈主題教理を物語るための聖書箇所を選び出す〉

道德律法によって、キリスト信者は日々神の御心を知って生活し、全生活が感謝の生活へと導かれる（ローマ6:13, 12:1以下）。律法が説かれるとき、聖霊は信者が律法に従う生活を喜んで行うための原動力となる（フィリピ2:13）。生活の全領域で、聖化の恵みと善き生活が実現するために、人間生活に関する包括的な教養である律法の知識は不可欠である。神は旧いイスラエルを律法によって導いたように、新しいイスラエルをキリストによる律法の福音的理解と聖霊の力によって導かれる。詩編1編、19編、119編は、このような役割を果たす律法の麗しさを知っていたイスラエルの律法賛美の歌である。

洗礼を受けていない一般家庭の子どもや、信仰告白していない契約の子らに説教するのだから、十戒を生きることの悲しみを全く知らせずして、十戒を喜んで生きることを勧めても無意味である。主イエスは、十戒を子供の時から守ってきた人を見つめ、慈しみをこめて言われた。「あなたに欠けているものが一つある…わたしに従いなさい」（マルコ10:21）と。当時のユダヤ社会では誰もが尊敬するような模範的なユダヤ人は、悲しみながら主の元から立ち去った。いったい誰が救われるのだろうか、と不安をもちます弟子たちに向かって、主はこう語られた。「人間にできることではないが、神にはできる」（マルコ10:27）と。この福音の先に主の十字架が立てられ、十字架の元に十戒を喜んで生きる道が開かれたのである。

〈聖書箇所〉

マルコによる福音書10章17～27節

〈単元目標〉

十戒を生きることの悲しみを知らぬ人が、喜びを味わうことのできる真実を物語る。

〈子どもたちに求められる日常的倫理とは〉

説教者それぞれが向き合う子どもたちの現実をしっかりと見つめよう。倫理規範の希薄な日本社会において、子どもたちは根拠不明のさまざまな掟に縛られていることだろう。信仰に基づく倫理が子どもたちを救い、守るに違いない。（二宮 創）

テキスト マルコによる福音書 10章17～27節
子どもカテキズム 問63

(単元のねらい)

主題教理である子どもカテキズム問63は、「十戒を生きる」という倫理課題への同意を要求する設問に対して、「御言葉を守り生きる」という内容理解と実践意志とを応答させる。十戒を生きる人はみな、自分の義を試されて有罪を暴かれる悲しみを免れない。しかし、十戒を主イエスの御言葉として聴き、キリストの恵みとして生きる者は、喜びと感謝に満ち溢れる。この展開例は、児童説教の実例ではない。これを素材として、説教奉仕者それぞれに料理していただくためのものである。

愛の十戒を生きる喜び

主イエスと弟子たちは、北のガリラヤ地方から南のユダヤ地方へ、都エルサレムへと上る旅に出ようとしていました。そこに、一人の男が近寄って来ました。この人は、たくさんの財産を持っていた人物で、都の議員（あるいは会堂の役員）だったようです。この時の彼は、自分の名前や身分を隠してやってきて、尊敬する聖書学者に教を乞う青年でした。走り寄ってひざまづき、どこか切羽詰った雰囲気、こう尋ねます。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか」。権力や財力をもってしても、永遠の命を自分のものにすることはできない。ただ善い行いを積み上げることによって、それを得ることができる。そう弁えている彼こそユダヤ人、信心深い求道者でありました。

外国によって家も土地も国も奪われた先祖から、子へ孫へと言い伝えられる預言がありました。「(神の国が訪れる) その時、大天使長ミカエルが立つ。その時まで、苦難が続く。しかしその時には救われるであろう。多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入り、ある者は永久に続く恥と憎悪的となる」(ダニエル12:1, 2)。永遠の命を受け継ぐこと。これが、ユダヤ人の人生最大にして最後の願いでした。

ユダヤ人の社会に身を置かれた神のひとり子イエスは、予想通りの一般的な答えをなさいます。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひと

りのほかに、善い者はだれもいない。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟を、あなたは知っているはずだ」。そうです。ユダヤ人なら誰でも知っている道德律法、すなわち十戒を守れば永遠の命が得られる、そう主は仰せになりました。

すると男が答えます。「先生、そういうことはみな、子どもの時から守ってきました」。恐らく彼は、父親からこう教え諭されて、育ったのでしょう。「わが子よ、生きている限り、いつも主を覚えなさい。罪を犯したり、主の戒めを破ったりしてはならない。命のある限り、正義を行いなさい。真理を行うならば、人はその行いのゆえに栄えるのだ。お前の財産の内から喜んで施しをせよ。貧しい人に顔を背けてはならない。そうすれば、神もお前から御顔を背けることはなさない。豊かなら豊かなり、少ないなら少ないなりに施すことを忘れるな。そうすることで、お前は窮乏の日に備え、自分のために善い宝を積むことになる。施しによって、人は死から救われて、暗黒の世界に行かずに済むのだ」。青年はこの先祖伝来の知恵(トビト記)を聞いて育ち、信心深い求道者として善に励み、一般の市民に期待される標準的な施し以上に励んだでしょう。彼は人々から尊敬される模範的な善人だったに違いありません。

そのような彼が求めていたのは、永遠の命の保証そして担保でした。神の国が訪れる前に、人の

世にある内に、自分は確かに永遠の命を相続できるという保証が欲しい、その担保として十分な善を積んでおきたい。彼の思いと言葉と行いにウソはありません。しかし彼は満たされませんでした。施しという担保を積んでも、永遠の命の保証は得られませんでした。善い行いを積みば積むほど、自分の罪と汚れを深く知らされ、永遠の命からますます遠ざかるような気がするのです。「まだ何か欠けているのでしょうか」「何が劣っているのでしょうか」という謙虚な思いと、切実な叫びが伝わってきます。

主は彼を見つめて「慈しんだ」とあります。彼を神の子どもとして何としても生み出そう・育て上げようと思われたのです。そのために最善を尽くそうと心に決められたのです。主は彼の生まれ育ちを見つめ、その思いと言葉と行いを慈しんで言われます。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」。

この御言葉を聞いた瞬間、青年は「気を落とした」とあります。悲しみながら立ち去ったのです。いったい何が、彼をそうさせたのでしょうか。「貧しい人々に施して天に富を積む」ことでしょうか。いいえ、施しの業ならば、生まれ育ちのなかで励んできたこと、彼にはむしろ喜びであったに違いありません。彼が悲しんだのは、「持ち物を売り払え」という勧めでした。与えられた財産の中から施すことなら、これまでずっと励んできた。しかし、財産を放棄して施せなど聞いたことがない。彼にとっては途方もない勧めだったでしょう。更に重荷と感じたのは、「わたしイエスに従え」という招きでした。永遠の命を得るために、善という宝を積むことなら、一生涯をかけて励んでゆきたいと思う。しかし、イエスの弟子になることなど考えたこともない。都の議員の地位を捨てるなど思いも寄らない。そんな招きに、青年は気落ちしたのです。

主がこの御言葉を語られたのは、裕福な青年を

追い払うためでしょうか。信心深い求道者に恥をかかせるためでしょうか。模範的な善人を見下げるためでしょうか。いいえ逆です。どこまでも善人を慈しむためです。求道者を救うためです。青年を待つためです。彼の正直な告白「まだ何か足りない！ 私は本当は貧しい！ このままでは安心して死んでゆけない！」そんな切実な魂の叫びに、主は耳を傾けられました。彼がどんなに善を積んでも手に入れることができなかった永遠の命の保証を、主は彼のために手に入れようと心に決めておられたのです。この人の死の代わりに、ご自分の命を差し出そうと覚悟しておられたのです。

「わたしの親しい友よ、あなたはこれまで、先祖の言い伝えに従い、自分のために善い宝を積んできた。あなたの施しは紛れもなく、隣人を自分のように愛する業であった。しかし、あなたに欠けているものがある。それは、あなたが求めているものだ。すなわち完全になること、永遠の命を相続するための保証を得ることだ。さあ、あなたの全財産を売り払いなさい。そして考えなさい。施しの元手がなくなったら、いったいどんな宝を天に積むのか。あなたの人生を神に捧げなさい。あなたの命を隣人に与えなさい。このような完全な愛こそ、永遠の命の担保となるのだ。そして悟りなさい。人間にはできないが、神にはできる。このアブラハム・イサク・ヤコブの信仰に立ち返りなさい。そして、わたしイエスに従いなさい。あなたが求めているものを、受難のキリストが与えよう。永遠の命を得る確かな保証と十分な担保、それは、人間の善ではなく神の義である。人の施しの業ではなく神の恵みの業である。わたしがあなたに差し出す完全な愛、これを信じて受け入れることこそ、完全になることなのだ」。

十戒を生きる人は、悲しみを免れません。しかし十戒を、主イエスの御言葉として聴き、キリストの恵みとして生きる人は、神を愛し人を愛する豊かな喜びを味わうようになるのです。

(二宮 創)

[今週の暗唱聖句] 詩編 119編14節

どのような財宝よりも、
あなたの定めに従う道を喜びとしますように。

〈ねらい〉

永遠の命は善い行いによる義ではなく、恵みによる義、信仰による義によって与えられる。救いの喜びに生きるものは神のおきてを喜んで守るものへと変えられる。

〈展開例〉**1. お話を振り返ろう**

- この青年は何を得たいと思ってイエス様のところに来ましたか。→ _____ の _____
- 神様のおきてを守るように言われた青年は何と答えましたか。→「先生、そういうことはみな、子供の時から _____。」
- イエス様は、持ち物を全て売り払って貧しい人々にほどこしなさいと言われました。青年はそれを聞いてどうしましたか。→悲しみながら _____。

2. お話の意味を考えよう

「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え」という掟にたいして青年は「そういうことはみな、子供の時から守ってきました」と自信を持って言いました。彼は善い行いをする事によって永遠の命を得られると思っていました。

するとイエス様は青年に、持っている物を売り払い、貧しい人々に施すようにおっしゃいました。なぜ、こんなことをおっしゃったのでしょうか。青年はそんなことはとてもできないと思いました。

イエス様は、善い行いによって永遠の命を得ようとするならば、善い行いを完全に行わなければならないんだよ、そして人間にはそんなことはできないんだよ教えたかったのです。イエス様はこの青年を救いの中に招こうとされたのです。

人間がどんなにたくさんの善い行いを積み上げても、それによって永遠の命を得ることはできません。自分で善い行いをしているつもりでも、神様の目からするならば、汚れた不完全な行いだからです。

そんな青年をイエス様はいつくしんで、わたしに従いなさいとおっしゃいました。「人間は自分の力で救いを勝ち取ることはできない。しかし神にはできる。わたしはそのために来たのだ。だからあなたはわたしに従って永遠の命を得なさい」と青年を救いへと招かれたのです。

もし青年がこう答えたらどうだったでしょう。「そんなことは不可能です。自分の生活も守りたいし、自分にはとてもできません。でも、どうかイエス様、こんな私を助けてください」。

そうすることのできない自分をなげき、イエス様に助けを求めたなら、永遠の生命を与えてくださるイエス様のもとを立ち去ることはなかったでしょう。

イエス様は私たちを救うために、神様のおきてを完全に守ってくださったのですから。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネによる福音書17章3節)

3. カプセル釣りで遊ぼう

【用意するもの】 ガチャガチャのカプセル一人5個ほど・たこひも・棒・モール・メモ用紙・ペン・S字フック・お菓子(カプセルに入るような小さいもの)

・聖書クイズをあらかじめ用意しておく(または子どもたちに聖書クイズを書いてもらう)例: イエス様がお生まれになった町の名前は? 新約聖書は何巻ある?

・カプセルのふたの穴にモールを通して輪にする。カプセルの中に聖書クイズを書いた紙とお菓子を入れふたをする。棒にたこひもとS字フックをつけて釣竿を作る。釣竿でカプセルをモールにひっかけて釣り、釣った人は中のクイズに答える。答えられたらお菓子がもらえる。(簡単に釣れすぎる場合は目隠しをして釣る。周りの人が誘導する。カプセルがない場合は紙袋にモールの輪をつけてカプセルの代わりにしてもよい)。

8月25日 十戒の完成者キリスト 教理説教のための聖書黙想

テキスト	ヨハネの手紙一 1章5～10節
子どもカテキズム	問64
参照教理問答	ウェストミンスター小教理問答 問82 ウェストミンスター大教理問答 問149

問64 神さまの戒めを完全に守れる人はいますか。

答 真の人であられるイエスさまのほか、だれもいません。

私たちは、毎日 思いと言葉と行いによって破っています。

私たちは、完全に神さまに背いている罪人なのです。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

キリスト者のことを「赦された罪人」と言います。確かに罪人である現実、未信者の方々と変わりません。しかし、キリストの恵みの故に、信仰によって義とされ、罪赦され、神の子とされています。

ただの罪人は、闇の中にいます。神への反抗は、光の内におられる神との交わりを失うことだからです。しかし、赦された罪人は、光の中を歩みます。この光は、私どもの闇を照らし、あぶり出します。したがって、光の中を歩む人は、自分の罪を認め、嘆き、悲しみます。ただし、この光は、不思議な光です。確かに罪の思いと行いとをあぶり出しますが、罪を犯した人を光の中から締め出すことは決してないからです。むしろ、この光の中で歩むとき、この上ない喜びと安心、楽しさと感謝、賛美と元気が与えられるのです。それは、主イエスが十字架で罪の行いと罪そのものをことごとく償い、贖って、消し去ってくださったからです。ですから、自分の罪を、この暖かな光の中で、告白することができます。

そこで大切な点は、神の光とは、神の民の交わりの内に注がれているということです。つまり、悔い改めと信仰の道、光の道とは、教会員相互の交わり、聖徒の交わりなしには、具体的には成り立たないということです。ここに、神の民の特権と使命とがあります。主と共に生きる歩みは、教会共同体を形成する歩みとなるのです。

ヨハネの手紙は、何度も、「新しい掟」として、兄弟を愛しなさいと命令します。十戒の心とは、

神と隣人への愛にほかなりません。十戒とその完成者イエスさまのもとに生きる者は、愛に生きる共同体へと招かれます。教会は、神と人々の前でも、またお互いに対しても、偽善的になることから守られます。赦された罪人であることを、隠すことなどできないからです。あるがままで赦された者として、お互いを受け入れ合い、愛し合うのです。そのとき、光の中を歩むということが、決して観念的なことではなく現実のことであることが体験できます。キリストとの交わり、キリストにある者たちとの交わりのすばらしさに支えられながら、聖化の歩みを全うすることができるのです。

〈子どもカテキズムの解説〉

ウェストミンスター大教理問答は問149で、同小教理問答は問82で、「だれか、神の戒めを完全に守ることができるか」と問います。そして、生まれながらの人間は、誰も十戒を完全に守ることができず、むしろ、日ごとに思いと言葉と行いにおいて破っていると告白します。子どもカテキズムもまた、これらをそのまま受け継いでいます。しかし、違いがあります。それは、「完全には守れない」という告白を強調して「完全に神さまに背いている」つまり、「完全に守れていない」罪人であると告白します。もちろん、十戒をどの程度まで守れているかという「軽重」の差はあります。たとえば、小教理問答では、問83で扱っています。「ある罪は、それ自体で、またいくつかの加重によって、他の罪よりも神の目には重罪で

す」。信仰の歩みとは、聖化の歩みですし、十戒を實踐する成長の度合いではかることもできません。しかしながら神は、この掟を完全に守ることを要求します。その意味では、たとどこまで聖化の歩みを深めることができた人であっても、「完全に神さまに背いている罪人」という自覚を克服したり、捨て去ることはできません。むしろ、主イエスとの交わりが深まれば深まるほど、自分の罪深さに気づかされ、深い、悔い改めへと導かれるのが、信仰生活なのです。テモテへの手紙一1章15節において、使徒パウロは、「わたしは、その罪人の中で最たる者です」と告白しています。自分の罪深さの自覚と主イエスに似せられる聖化の実りとは、言わば、反比例するものです。そのことを知っているからこそ、問答は、自分の罪深さに正面から向き合い、真実に罪人であることを告白できるのです。そしてこの告白の中には、救い主イエスさまへの感謝と賛美がすでに隠された形で込められています。

子どもカテキズムは、冒頭で、唯一の例外を宣言します。人間の中でまさに、唯お一人、イエスさまだけは、完全に十戒を守られたのです。だからこそ、真の神であり、真の人でもあられます。そして、父なる神は、私どもに、このイエスさまを救い主としてお与えくださいました。ローマの信徒への手紙第5章19節～21節にこうあります。「一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたように、一人の従順によって多くの人が正しい者とされるのです。律法が入り込んで来たのは、罪が増し加わるためでありました。しかし、罪が増したところには、恵みはなおいっそう満ちあふれました。こうして、罪が死によって支配していたように、恵みも義によって支配しつつ、わたしたちの主イエス・キリストを通して永遠の命に導くのです」。キリスト者は、罪人であることを聖霊によって示され、それを認め、悔い改めることができた者にほかなりません。そして、まことに驚くべき恵み、イエス・キリストを与えられ、救いの恵みを受けた者にほかなりません。

十戒の唯一の完成者は、イエスさまお一人です。このイエスさまによって、十戒を与えられた選びの民の罪の歴史は、新たにされ、罪なき歴史として父なる神に受け入れられます。新しい神の民で

ある教会もまた、十戒を破り、御名の栄光をそなってきたのですが、神は、主イエスによって、私どもをも、十戒に忠実に生きる民として受け入れてくださいます。

真の人となられたキリストが、私どもの信仰の戦いの、言わばチャンピオンとなってくださいました。私どもに代わって、律法を完全に守って生きるといふ人間の生涯を生き抜いてくださり、完全に守り抜いて、勝利されたからです。主イエスは、この獲得された勝利を、ただご自身を信じるだけで、誰にも分かち与えてくださいます。ですから、十戒を唱えるとき、私どもは、罪の敗北者としてうなだれてしまうことはありません。心を高く挙げ、主イエスを仰ぎ、賛美と感謝を捧げることができるのです。そのとき、十戒は蜜のように甘くなります。

〈子どもたちに対して〉

十戒の学びを通して、天のお父さまの愛の御心、親心について教えて来ました。子どもたちが、十戒の中で神と人との心を聞き、神と人を愛しながら育って行って欲しいと願います。十戒を唱えることによって、神の愛と恵みの大きさを繰り返して思い起こしてもらいたいのです。しかし、成長するにつれ罪の自覚が増します。神の御顔の前で、素朴に信仰を生きていた幼子が、御顔を恐れ、隠れるようにもなります。人としては、順調に育っている証拠です。しかし同時に、十戒や教会から離れて行く危険性も生じます。

子どもたちが、この十戒を通してこそ、主イエスにより頼む幸いを知って欲しいと願います。自分が十戒を破るだけではなく、破り続けている、みじめな者でしかなくても、いえ、そのような者だからこそ、主イエスの恵みはさらに強く、広く、深く、徹底したものであることを伝えたいのです。罪を告白することの大切さを教えましょう。そして、罪を告白することは、告白できる信仰の仲間、先輩、教師、牧師が必要であることも覚えさせましょう。つまり、罪の悔い改めには、共に生きる信仰の仲間が必要だということです。契約の親はもとより、教師自身の大きな責任が、罪の告白を聴いて、赦しを届けることにあることを、ここでこそ、強く覚えたいと思います。（相馬伸郎）

テキスト ヨハネの手紙一 1章5～10節
子どもカテキズム 問64

(単元のねらい)

十戒の一つひとつの掟は、私たちの罪深さを暴きます。律法に違反している自分を見つめることは、神の怒りとどのろいの下にある自分を見つめることにはかなりませんか、誰にとっても苦しく、恐るべきことです。しかし同時に、十戒は、新しい神の民にとって、エジプトからの救出の奇跡とは比較にならないほどの驚くべき愛と恵みを示しています。私どもは、私どもの代表となって十戒を生き抜き、私どもに代わって完成してくださった主イエスが与えられて、死と滅びと罪の縄目から救い出されているからです。十戒を通して、主イエスをいよいよ鮮やかに仰ぎ見る信仰へと共に前進したいと思います。

十戒のチャンピオン、イエスさま

子どもの礼拝式でも、大人の礼拝式でも毎週、十戒を唱えています。子どもの教会では、十戒の一つひとつの掟をていねいに学んできました。今日は、その最後です。

イスラエルの人々は、真の神さまを信じないエジプトの国で、奴隷としての生活を強いられていました。神さまは、彼らの苦しみと神さまに祈り叫ぶ声を受けとめてくださいました。時が来て、神さまは、奇跡を何度も起こし、ついに、海を真っ二つに分けて、その中をイスラエルの人々だけを通らせるというものすごい奇跡を起こして救い出してくださいました。そして、イスラエルの人々が神さまの恵みを忘れないで、神さまと共に、仲間とともに神さまの民の幸福の中を生きて行くことができるようにと、十戒を与えてくださったのでした。それは、昔のお話だけではありません。天のお父さまは、僕たち私たちをも心から愛し、大切にしてくださいるので、教会は、今日も十戒を大切に生きているのです。天のお父さまは、本当に、僕たち私たちのことを心配してくださり、大切にしてください、いつもいっしょにいさせようと願ってくださるのです。十戒には、天のお父さまの親心が、にじみ出ているのです。

さてしかし、一つひとつの神さまの掟、戒めを

学んで、はっきり分かってきたことがあると思います。それは、先生をはじめ、誰もが、この掟を守れていないということです。どの一つの戒めも、神さまが願っておられる標準にはるかに届きません。僕たち私たちは、本当に惨めな罪人だということが分かるのです。当然、罪人は、神さまの怒りと裁きを受けるしかないのです。そうすると、落ち込んでしまいます。十戒を唱えるのも、もしかすると教会で神さまを礼拝し、御言葉を聴くのもつらくなってきてしまうかもしれません。

さて、大切な点は、そこです。そんな気持ちのまままで終わってしまうのは、正しく十戒を学んだことになるのでしょうか。天のお父さまは、ただ単に、僕たち私たちが、罪人で、ダメな人間だと分からせるために十戒を与えてくださったわけではありません。

教会の歴史の中でこれ以上にないような大きな働きをした指導者に使徒パウロがいます。パウロ先生は、自分のことを罪人の中の罪人、「罪人のチャンピオン」だと言っています。パウロ先生は、イエスさまを信じていないときに、そのように思ったわけではありません。イエスさまに救われて、イエスさまを信じて、イエスさまのためにびっくりするような大きな働きをしているときに、そう言ったのです。いったい、どうしてでしょうか。

光を浴びたからです。神さまからの光です。この光を注がれた人は、自分の心の暗闇の中まで照らし出されてしまいます。これまで、気づかなかったのですが、ドロドロに汚れた思いがいっぱいであることを知らされます。

神さまは光であって、光の中におられます。だったら、暗闇の中にいた人は、そこにいるのがつらくなって、逃げ出してしまいたくなるのでしょうか。違います。何故なら、この光は、とても暖かい光だからです。この暖かい光の中で、素直に、裸になることができるのです。自分の罪を告白して赦してもらうこと、そして光の中で生きる方が、楽になって行くのです。

おまわりさんやこわい先生に、自分が陰でとても悪いことをしたことを、正直に言えるでしょうか。僕たち私たちの心には、お父さんにもお母さんにも、兄弟にも友達にも、誰にも言えない悪い心、汚い心があると思います。でも、神さまの前なら、天のお父さまの前なら言えます。天のお父さまの右には、救い主のイエスさまがいてくださるので、まったく安心です。

そもそも、神さまの光を浴びる前は、自分が罪深い人間だとは、気づけませんでした。たとい、少しは気づいていても、謝ることはできませんでした。光を浴びたから、自分の心が汚れていることに気づけたのです。つまり、もうその時点で、僕たち私たちは、しっかりと光の中に入っているのです。神さまとの交わりの中に、つまり、天国の中に入り始めているわけです。

確かに、教会で、聖書を読んで、お話を聴いて、礼拝するとき、実は、自分の心の中が汚れていることをどんどん知らされて行きます。聖い神さまに近づいているからこそ、自分の汚れに敏感になれるのです。ところが同時に、僕たち私たちは、どんどん、きれいな神さまの子どもに成長しているのです。自分自身では、よく分かりません。

ですから、自分の罪を隠さないで、神さまに告白すればよいのです。イエスさまが救い主としていっしょにいてくださるからです。イエスさまは、

僕たち私たちの代わりに十戒を守られました。イエスさまは十戒のチャンピオンです。僕たち私たちは十戒の中の一つの戒めも守れていません。けれども、イエスさまが、十字架で代わりに天のお父さまの怒りを受けてくださったおかげで、イエスさまを信じればまったく赦されるのです。イエスさまは、僕たち私たちの信仰のチャンピオンになってくださったからです。

昔、先生は、十戒を唱えるのが、好きではありませんでした。だんだん、好きになってきました。それは、一つひとつの戒めを、先生の代わりにイエスさまが守ってくださったことを知ったからです。つまり、イエスさまを信じていれば、十戒を破っているありのままの僕たち私たちでも、光の中で生きることができるのです。すでに、神さまの子どもとされているからです。

最後に、そのために、とても大切なことがあります。自分の罪を認めることと、具体的な罪があればその罪を告白することです。誰に告げるのでしょうか。もちろん神さまに、です。しかし、聖書は言います。光の中で生きること、神さまと共に生きることは、同じ神さまの子どもたちとも共に生きることなのです。つまり、自分の罪を先生や他の教会の友達に聴いてもらうことがとても大切なのです。先生は、そのために皆さんの信仰の先生なのです。どんなことでも、いっしょにお祈りしたいと心から願っています。今朝は、ぜひ、分級で、いっしょに自分の罪について祈りましょう。先生にも、祈ってもらってください。

それは、何のためにするのかと言うと、イエスさまの十字架の救いの御業をますます信じるためです。体験するためです。そうすると、どんなにすばらしいことが起こるのでしょうか。十戒を喜んで生きようと思うのです。神さまをもっと愛し、そして隣人、お友達に優しくし、大切にしたい思いが湧いてきます。これからも十戒を大切に唱え、心を込めて守る心を、神さまに祈り求めましょう。

(相馬伸郎)

[今週の暗唱聖句] ヨハネの手紙一 1章9節

自分の罪を公に言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、罪を赦し、あらゆる不義からわたしたちを清めてくださいます。

〈ねらい〉

神様はなぜ、守ることのできない十戒を与えられたのでしょうか。十戒を完全に守ることができる人はいるのでしょうか。

〈展開例〉

1. 十戒は鏡のようなもの

先週は、罪に汚れた私たち人間には、この十戒を守ることはできないことを学びました。

それでは、どうして神様は守ることができない十戒を私たちに与えられたのでしょうか。

それは私たちに自分の本当の姿をわからせるためです。十戒は自分の姿を映し出す鏡のようなものです。この鏡がなかったら自分がどんなにみじめで汚れた者であるか、気づくことができません。光がすべてのものを明らかにするように、十戒に照らされるとき、私たちは初めて神様の規準から遠く離れていることに気づかされます。

2. 私たちには決して越えられないハードル

「殺してはならない」という戒めに対して人々は、実際に人を殺さなければこの戒めを守っていると思っていました。しかし、兄弟にばか者と言うなら、それは人を殺すことと同じなのだといエス様は言われました。

「姦淫してはならない」という戒めに対して人々は、実際に姦淫しなければこの戒めを守っていると思っていました。しかし、いやらしい思いで女の人を見るなら、それは心の中で姦淫を犯したのと同じなのだといエス様は言われました。

イエス様の言葉は人の心をえぐり出します。自分はなんというみじめな人間なのだろうと打ちのめされます。このレベルで戒めを守ることもなどともできない……と

聞いている人たちも、「ああ、自分にはとても守

ることはできない」と思ったに違いありません。その上、イエス様は「あなた方の天の父が完全であられるように、あなた方も完全な者になりなさい」（マタイ5章48節）とダメ押しされるのですから、越えられそうもない高いハードルを見上げて、ただため息をつくしかありません。



3. 十戒の完成者イエス様

いったい誰がこのハードルを越えて救われることができるのでしょうか。しかし、人にはできないことも、神にはできます。人間には誰もこのハードルを越えることはできませんが、罪のない神の御子、イエス様はただ一人、十戒を完全に守られたのです。

イエス様は自分がお手本を示して、さあ、あなたたちも同じようにとんでごらんとおっしゃっているわけではありません。イエス様が越えることによって与えられた救いを受け取りなさいと言われるのです。

イエス様が完成してくださった義をプレゼントとしていただくとき、神様は私たちを、十戒をすべて守ったもののように正しい者と認めてくださるのです。

さあ、あなたもぜひこのすばらしい救いをイエス様から受け取ってください。

4. 工作とワーク

(次ページ参照)

《工作とワーク》

《工作》十戒のカードを作ろう

(材料) 画用紙、ペン、鉛筆、定規、ハサミ、マスキングテープまたはテープリボン

(作り方) ・画用紙をA4ぐらいの大きさに切って二つ折りにする。

ふちをマスキングテープやテープリボンで飾る（糊のついていないリボンの場合は両面テープで貼る）。マスキングテープの場合はふちを包むようにして半分に折って貼る。

- ・テープで縁取りデコレーションができれば、表紙に十戒と書く。
- ・中を開けて、鉛筆で薄く線を5本ずつひいておく。（真っ直ぐに書けるように）
- ・左に一〜五戒を、右に六〜十戒を書く。



《ワーク》十戒のどの戒めを破ることになるでしょう。線で結びましょう。

買い物をしてもらったおつりが100円多かったが、だまっていた。

お父さんとけんかをして、くそおやじと言ってしまった。

仏像にお参りをした。

日曜日に教会へ行かないで、遊園地に遊びに行った。

神様よりも勉強や仕事の方が大事

友達にばかじゃないのと言った。

友達からの電話に出たくなかったので、今いないと言ってもらった。

エッチな本をこっそり見て楽しんでいる。

テレビのお笑いで神様の名前を繰り返し使っていた。

新しい携帯電話を持ってるけど、友達の持っているのも欲しい。

安息日をおぼえてこれを聖とせよ。

あなたは、ぬすんではならない。

あなたは、隣人の家をむさぼってはならない。

あなたは、姦淫してはならない。

あなたは、自分のためにきざんだ像をつくってはならない。

あなたは、殺してはならない。

あなたの父と母をうやまえ。

あなたの神、主の名をみだりにとなえてはならない。

あなたは、わたしのほかになにものもを神としてはならない。

あなたは、隣人について偽証してはならない。

9月1日 教会に生きる(一) 教理説教のための聖書黙想

テキスト	エフェソの信徒への手紙 4章12,13節
子どもカテキズム	問65
参照教理問答	ウェストミンスター小教理問答 問29~32 ハイデルベルク信仰問答 問54,55

問65 神さまの戒めを守ることができない罪人が、
どうして十戒を喜んで生きることができるのですか。

答 聖霊なる神さまが、私たちが造り変えて
主イエス・キリストと一つに結び合わせ、
キリストの体なる教会として
建て上げてくださいます。
私たちには、教会において、
罪から救い出され、
十戒を喜んで生きる道が与えられています。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

教会はキリストの体です。今回の聖書テキストを聖書の文脈で読んでみましょう。第4章では、まず、教会は主イエス・キリストにあって一つであることが教えられています。「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます」(4:4~6)。それゆえに教会は一致を保つように努める必要があります(3)。

以上のように、教会は主イエス・キリストにあって一体ですが、その一体において実は多様でもあるのです。つまり、教会に属する一人ひとりに、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられているのです(7)。教会員が10人おれば、少なくとも10の賜物が与えられており、その意味多様ということです。父なる神からの賜物に関しては、まさに「十人十色」です。

それで、主イエスは、私たちの罪の赦しと永遠の命のために、十字架で死なれ、三日目に復活なさり、天の王座に昇られたのですが、それは、教会員一人ひとりに賜物をお与えになるためでもありました。「そして、ある人を使徒、ある人を預

言者、ある人を福音宣教師、ある人を牧者、教師とされたのです」(11)。「使徒」、「預言者」は期間限定の教会の職務です。そして、「福音宣教師」、「牧者、教師」は、今日の教会にも通じる働き人です。

教会の働き人が主イエスによって教会に与えられたのは、教会員一人ひとりが、主イエスから与えられた賜物を十二分に用いて、キリストの体である教会を一致協力して造り上げて行くためなのです。教会員一人ひとりが自分の賜物が何であるかを弁えるために、また、その人の賜物を引き出すために奉仕をするのが、教会の働き人です。さらに賜物豊かな教会員たちが一致協力して奉仕できるように調整役に徹するのも、教会の働き人なのです(12)。

キリストの体なる教会が最終的に目指すべきは、頭であるキリストです(15)。それで、教会の働き人は、教会員たちがその最終目標をしっかりと目指せるように奉仕をするのです。「ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」(13)。

以上のような教会の成長プロセスにおいて、14節、15節に示されていることは、教会の働き人

が愛に根ざして真理を語ることの大切さです。つまり、魂への配慮、牧会的な配慮をしながら、聖書の御言葉を語ることで教会員に奉仕をすることの大切さです。そのように愛に根ざした教会形成の働きを通じて、主イエスが御自分の体なる教会を造り上げてくださるのです。そのような愛に根ざした教会形成の働きは、教会員たちにも及んで、賜物豊かな教会員たちも、互いに競うことなく、互いに助け合い、仕え合いながら、教会を造り上げてゆくことになるのです(16)。

〈子どもカテキズムの解説〉

『子どもカテキズム』は、今回の問65から、第三部の三「教会に生きる道」に入ります。第三部の二は「感謝に生きる道」でした。父なる神が主イエス・キリストを通して聖霊によって救ってくださることに対する感謝を表す基準としての十戒が取り扱われました。その十戒は、罪人には守ることができないのですが、問65は、十戒を喜んで生きることでできる道が、父なる神によって既に与えられていることへと子どもたちの思いを向けるのです。

神の十戒を守ることができない罪人が、それを喜んで守ることができるようになるのは、まず何よりも、聖霊のお働きがあるからです。それは、教理的には、「聖化」のお働きですが、十戒を喜んでしかも完璧に守ることがおできになる主イエスに似た者へと生涯かけて造り変えてくださるお働きです。それで、聖霊は、そのお働きをまず何よりも、私たちを主イエスと結び付けてくださることで実行なさいます。

ところで、聖霊によって主イエスに結び付けられるとは、主イエスの体である教会の一員とされるということにほかなりません。ですから、聖霊は、私たちが主イエスに結び付けて、教会の一員とすることによって、聖化のお働きを実行なさるのです。この意味で聖化は、教会と無関係には起こりません。私たちが、教会の一員として、特に教会生活をする中で起こるものなのです。その際、聖霊が聖化のお働きを実行なさるのに用いられるのが十戒です。そうしますと、私たちは、教会生活において十戒を喜んで守ってこそ、主イエスに

似た者へと造り変えられてゆくのです。

そのあたりのことが、問65の後半において語られております。「私たちには、教会において、罪から救い出され、十戒を喜んで生きる道が与えられています」。

ところで、十戒の要約は、神を愛し、人に仕えることです。今回の聖書テキストを含むエフェソの信徒への手紙第4章は、まさにそのようにして教会を造り上げてゆく道筋を示してくれております。教会は、主イエス・キリストにあって一つですが、同時に賜物という点で多様です。そのように多様な賜物を有する教会の一人ひとりが一致協力して教会形成をしてゆくためには、互いに愛し合い、仕え合ってゆくことが必要です。「一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」(エフェソ4:2, 3)。お互いが競争し合い、いがみ合ったり、ねたま合ったりしては、分裂あるのみで、悪魔の思うつぼです。

神は、私たち罪人が聖化されるばかりでなく、聖化されつつある私たちが一致協力して教会を造り上げることで神の国が進展してゆくためにも、十戒に生きる道をお与えくださいました。ですから、十戒に生きる道には喜びが伴うのです。

〈子どもたちに対して〉

日曜学校に属する子どもたちには、教会を造り上げるなんていう自覚はないでしょう。しかし、今、日曜学校に通っている子どもたちは、やがて成長すると、各個教会・伝道所を担ってゆく、大切な子どもたちです。そんな子どもたちが、弱肉強食が当然の社会に生きています。競争し合い、いがみ合い、ねたま合うのが当然の社会に生きているのです。そんな世の中であって、神を愛し、人に仕えることを最も重んじる日曜学校(こどもの教会)の存在は、とても大切です。礼拝や分級で、お休みのお友だちのためにお祈りするだけでも、人を思いやることのできる人間形成という聖霊のお働きに仕えることが許されるのです。

(長谷川潤)

テキスト エフェソの信徒への手紙 4章12,13節
子どもカテキズム 問65

(単元のねらい)

『子どもカテキズム』第三部の三は教会論である。日曜学校に通う子どもたちに教会論を教えることには難しさが伴うかも知れないが、日曜学校の礼拝も、教会の礼拝であることに変わりはない。御言葉に聴くことで、聖霊によって、主イエス・キリストに似た人に造り変えられることにこそ喜びがある。この喜びを子どもの教会の礼拝生活を通して子どもと一緒におぼえたい。

十戒を喜んで守ろう!

愛する子どもたち、おはようございます。

長い長い夏休みが終わって、明日から、二学期ですね。みんな、夏休みの宿題、終わりましたか？ まだっていうお友だちは、今日一日、がんばってね。だけど、まだっていうお友だちも、今日の日曜日をまず、子どもの教会で、神様を礼拝することから始めてくれました。神様を礼拝する、神様を愛することは、いちばん大事なことです。そういういちばん大事なことを守ることができるようにしてくださった神様に感謝しようね。

さて、ずっと、神様の戒め、十戒を学んで来ました。それで、『子どもカテキズム』の問63で、聖霊のお助けをいただくなれば、十戒を喜んで守れること、だけど、問64で、イエス様のほかは、誰も、十戒を完全に守ることができないことを教えられましたね。たとえば、夏休みの宿題が全然できていないかも知れません。そんなわけで、子どもの教会に来ているところではないかも知れません。「サボっちゃえ！」という悪魔の声が聞こえたかも知ね。けれども、こうやって子どもの教会に来て、みんなと一緒に神様を礼拝しています。これは、私たち、ぼくたちが、神様の戒めを守れたのでなくて、聖霊なる神様が、戒めを守ることができるように助けてくださったんだね。

今回から、『子どもカテキズム』も、新しいところに入って、第三部の三「教会に生きる道」というところを一緒に学びましょう。

さあ、みんなは、日曜学校の礼拝で、神様の御

言葉を聴いています。この日曜学校は、子どもの教会です。日曜学校の先生は、子どもの教会の牧師先生でもあります。それで、子どもの教会の礼拝で、ずっと、何人かの牧師先生から、神様の御言葉、特に十戒を聴いてきましたが、実は、その十戒を聴くことで、みんなに、とても素晴らしいことが起こっているのです。どういう素晴らしいことが起こっているかと言うとね、みんなの目には見えないんだけど、何と、聖霊なる神様が働きになって、十戒を喜んで守る人に造り変えてくださるといことが起こっているの。さっき、問64で、イエス様のほかは、誰も、十戒を完全に守ることができないことを教えられましたね、と言いました。そうなのです。イエス様だけが、十戒を完全に、しかも、喜んで守ることができるの。実は、聖霊なる神様は、私たちが十戒を聴くことで、完全に守ることはできませんが、そのイエス様のように十戒を喜んで守る人に造り変えてくださるの。

どのようにしてかと言うとね。今、イエス様は、十字架の死から復活なさって、天国の王座におられますが、そのイエス様に聖霊なる神様が私たち、ぼくたちを結び付けてくださることで、イエス様に似た、新しい人に造り変えてくださるのです。

ちょっとみんな、これを見て！ このコップの中に入っているのは真っ白い牛乳、そして、こっちのコップに入っているのは真っ黒いコーヒーです。

それで、この牛乳のコップの中に、どんどんどんどん、このコーヒーを入れて行くと、どうなるかな？そう、コーヒー牛乳ができますが、最初、真っ白い牛乳だったのが、どんどん色が汚くなって行ったね。実は、私たち罪人も、こんなコーヒー牛乳の色みたいなのだ。ところが、イエス様だけは、今でも、真っ白い牛乳！ そのイエス様が、御自分に結び付けられた人から、その中に混じっているコーヒーだけを吸い取って、真っ白い色にしてくださいませ。こんなことは、人間にはできませんが、イエス様にはできるんです。イエス様は、御自分に結び付けられた人から、罪と汚れを取り除いてくださいませ。この罪と汚れが、十戒を完全に、そして、喜んで守れないことの一の原因なの。その原因をイエス様を取り除いてくださいませ。そのようにして、イエス様に結び付けられた人は、十戒を喜んで守れる人に造り変えられてゆくのです。

その時、聖霊なる神様が、私たち、ぼくたちを造り変えるのに用いられる手段が、十戒なわけ。だから、十戒は、ちょっと見、大変そうに思うけれども、本当は、これをちゃんと聴いて、守るならば、私たち、ぼくたちにとって、本当に役に立つものなのです。イエス様のように、十戒を喜んで守れる人に造り変えるための手段だからね。

さて、もう、十戒の要約は、よく知っていると思います。神様を愛すること、そして、人に仕えることだね。イエス様の御言葉に聴きましょう。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』。これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい』。律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている」(マタイ22:37~40)。

実は、子どもの教会というところは、十戒を喜

んで守ることができるように、神様がお与えくださったところです。それで、この世の中で、神様をいちばん愛せるのが、子どもの教会の礼拝なのです。神様の御言葉を聴くことができる、この礼拝が、私たち、ぼくたちが、神様をいちばん愛せるところです。もちろん、聖霊なる神様に助けられて、神様をいちばん愛します。それで、神様を愛することと、人に仕えることとは、一つのことだったね。問40で教えられました。神様を愛していると言いながら、人に仕えていないならば、それは、神様を愛していることにはならないの。それで、子どもの教会の礼拝は、神様を愛するだけでなく、人に仕えることも、実は、たくさんあります。たとえば、礼拝の中でお祈りをしますね。お祈りは、人に仕えることでもあります。それで、今日は、誰がお休みかな。先生が知っているのは、〇〇君、彼は、夏休みの宿題ができなくてお休みなんじゃなくて、風邪で熱が出てお休みです。みんなも、風邪で熱が出た時はつらいよね。〇〇君も、今、つらいんじゃないかって思いやって、神様が治してくださるようにお祈りすることで、実は、〇〇君に仕えることになるのです。それで、そのように〇〇君のことを思いやって、お祈りできるのも、聖霊なる神様のお助けがあってこそです。

十戒、神様の御言葉は、私たち、ぼくたちにとって、本当に役立つのです。ですから、十戒を聴けば聴くほど、イエス様に似た、新しい人に造り変えられてゆくのです。聖霊なる神様が、ちゃんと働いてくださって、十戒を喜んで守ることができるようにしていただきます。これからも、子どもの教会の礼拝で、十戒、そして、神様の御言葉を聴くことから、一週間の生活を始めましょう。

(長谷川潤)

[今週の暗唱聖句] エフェソの信徒への手紙 4章13節

キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。



〈ねらい〉

神様は十戒を喜んで生きることができるよう助けてくださる。この聖化の歩みは、キリストの体である教会の歩みの中で起こる。

〈展開例〉**1. だめだめシールが金ピカシールに**

誰もイエス様の規準で十戒を守ることはできません。神様から貼られているシールは、どの人もだめだめシール✕ばかりです。十戒を完全に守り、神様から全く正しい者と認められたのは、イエス様だけでした。イエス様だけが正しいものに与えられる金ピカシール☆をもらうことができるのです。

神様は金ピカシールを私たちにくださるためにイエス様を十字架にわたされました。イエス様の十字架によって、私たちに貼られていただめだめシールは、イエス様の金ピカシールと取り替えられました。

2. 十戒は感謝の生活の規準

イエス様を信じた人は、聖霊の働きによって、神様に喜ばれる生き方をしたいと思うようになります。

救われた私たちにとって、もはや神様のおきては重荷ではなく、喜びとなります。「主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え、主の戒めは清らかで、目に光を与える」(詩編19編9節)

十戒は、私たちが罪にさだめるおきてではなく、感謝と喜びの生活の規準となるのです。こうして私たちは神様の御心になった生き方へと導かれます。

3. 教会の中で成長する

神様の喜ばれる生き方を教えてくれるのはどこでしょうか。それは教会です。

教会はキリストの体です。イエス・キリストが満ちておられる場所です。体が成長して大きくなっていくように、私たちも教会でイエス様に結

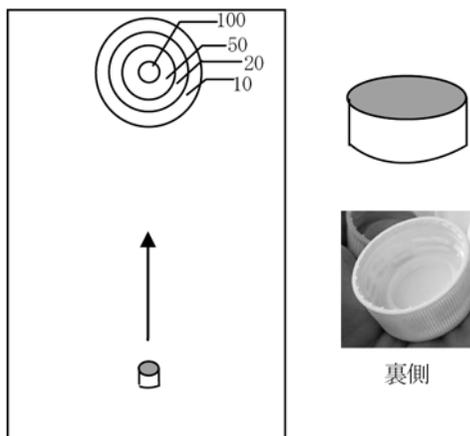
びつけられて、成長していきます。

私たちは教会で神様を愛し、人に仕える生き方を学びます。御言葉や祈りをとおして、聖霊なる神様が、十戒を喜んで生きることができるよう新しい人へと造り変えてくださいます。私たちがイエス様を信じる時、金ピカシールをいただけるだけでなく、十戒を守る力をもプレゼントとしていただけるのです。

4. ビー玉カーリングゲーム

(材料) ビー玉、ペットボトルのキャップ(内側にフレームがあって二重になっているもの・爽健美茶などのペットボトルのキャップなど) 色画用紙、コピー用紙(B4を2枚)、カラーペン、のり、コンパス、ハサミ、セロテープ

(作り方) コピー用紙2枚を縦長に貼り付けて1枚にする。コンパスで4重の円を描く。カラーペンで円に色を塗る。点数をかく。(真ん中の円にイエス様とかく) キャップの上に色画用紙を貼ってカーリングのストーンを作る。



(遊び方) キャップの裏側のフレームの中にビー玉を入れて転がす。止まったところの点数で競い合う。

9月8日 教会に生きる(二) 教理説教のための聖書黙想

テキスト 使徒言行録 20章21節
子どもカテキズム 問66
参照教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問85

問66 罪から救い出されるために、神さまが私たちに求めておられることは何ですか。

答 イエスさまが勝ち取ってくださった祝福を
与えていただくために、
教会に与えられた恵みの手段を用いて、
イエスさまを信じ、
いのちに至る悔い改めをすることです。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

『子どもカテキズム』問66の引用聖句の一つは、使徒パウロがエフェソ教会の長老たちをミレトスに呼び寄せておこなった説教の一部です。今回は、このパウロの説教の一節を聖書テキストとしました。その21節に注目しながら、一緒に問66の教理への理解を深めてまいりましょう。

パウロは、神から遣わされた使徒として、エフェソ教会においても、主イエスの教会を造り上げるために働きました。謙遜の限りを尽くし、泣く者と共に泣き、ユダヤ人による迫害を忍耐しながら、伝道と教会形成の働きに心と力を尽くしたのです。

その際、パウロは、「役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました」(20:20)。「役に立つこと」とは、『子どもカテキズム』問66の表現を用いるならば、「イエスさまが勝ち取ってくださった祝福」のことでしょう。パウロは、この主イエスによる救いの祝福を余す所なく、未信者の人たちに伝え、また、家の教会で教えたのです。

この主イエスによる救いの祝福にあずかるのに必要なのが、「神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰」(20:21)です。18節にはじまるパウロの話は、説教と言われているようですが、このパウロの説教で思い起こすのは、主イエスの説教です。主イエスは、救い主メシアとしてのお働きに就かれて、開口一番、次のように語られました。「時は満ち、神の国は近づいた。

悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ1:15)。この主イエスの説教にはじまる説教の歴史は、この主イエスの御言葉のオウム返しであると言われております。いや、それこそが神の御心です。パウロは、どこの町でも、エフェソでも、この主イエスの御言葉をオウム返しに語ったのです。もちろん、パウロは「神の国」をいろんな表現で語りました。しかし、その神の国、つまりは、主イエスによる救いの祝福にあずかるには、どんな時も、悔い改めて福音を信じるが必要だと語ったのです。

21節後半に、悔い改めと信仰を「ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです」とあります。パウロは、ユダヤ人にはユダヤ人のように、ギリシア人にはギリシア人のようになって伝道しました(コリント一9:19~23)。当然、唯一神を信じているユダヤ人に対してと、多神教のギリシア人に対してとは、主イエスによる救いの祝福へのアプローチ方法が違ったことでしょう。アテネのギリシア人に対して、パウロは、アテネの町の至る所にある偶像の一つ、「知られざる神」の祭壇からアプローチしたのでした(17:23)。しかし、そんなギリシア人も、さらにはユダヤ人も、つまりは、全ての罪人が、主イエスによる救いの祝福にあずかるためには悔い改めと信仰が必要なのです。これらを抜きにしては、主イエスによる救いの祝福、神の国にあずかることはできないのです。

最後におぼえたいのは、神に対する悔い改めと、

主イエスに対する信仰は一つだということです。

悔い改めてから信じるわけではありません。神に対して悔い改めることは、主イエスを信じることなのです。両者は、切っても切り離せない、コインの両面のような関係です。

〈子どもカテキズムの解説〉

今度は、『子どもカテキズム』問66の本文に注目しましょう。

問に「罪から救い出されるため」とありますが、『ウェストミンスター小教理問答』問85を参照しますと、罪からの救いが何なのか、もう少し具体的に分かります。ところで、「罪からの救い」という表現に関して、私たちキリスト者にはその意味内容が分かっております。ところが、子どもや未信者はどうでしょうか。漠然としているかも知れません。それで、「罪からの救い」は、より丁寧には「罪のゆえにわたしたちが受けて当然である神の怒りと呪い」（松谷好明訳）からの救いのことです。ですから、もう少し具体的には、問66は、私たちの罪に対する神の怒りと呪いから救い出されるために、神ご自身が私たちに求めておられることを子どもたちに問うていることとなります。

私たちの罪に対する神の怒りと呪いから救い出されるためには、神がお与えくださる、主イエスが獲得してくださった祝福が必要なわけです。主イエスの最も中心的な御業と救いの祝福が問24で語られておりました。答で確認しておきましょう（『子どもカテキズム』p.18）。

「答 主イエス・キリストは、私たち罪人の身代わりとして十字架に死に、三日目に、永遠のいのちによみがえられました。ですから、私たちは、罪赦されて、神と共に永遠に生きる祝福に生かさ

れています」。

私たちの罪に対する神の怒りと呪いから救い出されるために、神がお与えくださる、主イエスが獲得してくださった救いの祝福とは、教理用語では、「罪の赦し」と「永遠の命」です。ところで、これらの祝福は、棚からばたもち式に与えられるものではありません。これらの祝福にあずかるために、神がお与えくださった手段をまず熱心に用いることが、神ご自身から求められているのです。「教会に与えられた恵みの手段」のことです。いわゆる、この外的な手段に関しては、問68で詳しく学びますが、先取りするならば、「御言葉と礼典とお祈り」です。これらを熱心に用いることで、神は、主イエスに対する信仰と命に至る悔い改めをお与えくださるのです。この信仰と悔い改め、コインの両面の関係にある内的な手段を通じて、神は、私たちに主イエスが獲得してくださった救いの祝福、罪の赦しと永遠の命にあずからせてくださるのです。

〈子どもたちに対して〉

私たちの罪を神は徹底して嫌われること、そして、神は怒られることをしっかりと教えましょう。しかし、神は、私たちを愛しておられますから、豊かな憐れみによって、十字架の上の独り子イエスにこそ、私たちが毎日犯す罪への怒りを注がれ、イエスを私たちの代わりに罰してくださったこと、さらに神はその主イエスが獲得してくださった救いの祝福にあずかる手段までお与えくださったことも教えましょう。

神から託されているクラスの子どもたちが毎日犯す罪を嫌うと同時に主イエスが大好きな子どもとなるようにお祈りしつつ、子どもたちに信仰と悔い改めの大切さを教えましょう。（長谷川潤）



テキスト 使徒言行録 20章21節
子どもカテキズム 問66

(単元のねらい)

私たちの罪を神様は嫌われること、同時に神様は、私たちを愛しておられるので、豊かな憐れみによって、十字架上の独り子イエス様にこそ、私たちが毎日犯す罪への怒りを注がれ、イエス様を私たちの代わりに罰してくださったこと、さらに神様はそのイエス様が獲得くださった救いの祝福にあずかる手段までお与えくださったことも教えよう。その手段こそ、教会に与えられた御言葉(礼典)とお祈りで、これらを熱心に用いるならば、信仰と悔い改めが与えられて、イエス様による救いの祝福に確かにあずかることのできる道が備えられていることに子どもたちと一緒に感謝しよう。なお、この教理説教では、イエス様を信じることを「イエス様、大好き」、悔い改めることを「罪なんか大嫌い」という子どもの世界の言葉に翻訳してみた。

イエス様、大好き！ 罪なんか大嫌い！！

愛するお友だち、おはようございます。

幼稚園や学校がはじまって、一週間経ったけれども、幼稚園とか学校の生活に慣れましたか？長い長い夏休みで、幼稚園や学校に長いこと行っていなかったから、幼稚園や学校のペースにまだ慣れていないお友だちもいるかも知れないね。イエス様は今週もみんなと一緒にいてくださるからね。今週も、イエス様と一緒に幼稚園や学校での生活を楽しんでくださいね。

さて、みんなは、イエス様のこと、大好きだと思います。イエス様を愛していると思います。子どもの教会(日曜学校)の礼拝式に集まっているお友だちの中で、大きなお兄ちゃんには好きな女の子が、或いは、大きなお姉ちゃんには好きな男の子がいるかも知れないね。それで、たぶん、そういう好きな子がいるならば、その子にとって嫌いなことは絶対にしないと思います。たとえば、好きな子がいる所で、誰かをいじめたり、誰かの悪口言ったりしないよね。好きな子がいる前で、人の物を取ったりなんかしないと思います。そんなことをしたら、その子に嫌われちゃうからね。

みんな、イエス様が一番嫌いなことって何か知っている？ そうです。やっぱり、天のお父様と一緒にね、罪がいちばんお嫌いな。神様の戒

め、十戒に従わない罪がとってもお嫌いなんです。

ところで、聖書の御言葉は、そんなイエス様がいつも一緒におられることを教えているよね。だから、さっき、先生は、「イエス様は今週もみんなと一緒にいてくださるからね」と言いました。先生は、特に夕ごはんを家族のみんなと食べている時も、イエス様は目には見えないけれども、ちゃんとあいている席に座っておられて、黙って、先生や家族のみんなの会話を聴いておられると信じています。でも、つい、そのことを忘れてしまって、イエス様が嫌われるような言葉を使っておしゃべりしてしまうことがあります。口から出て来る言葉をコントロールできたら、どんなに良いかしらといつも思われます。そんな言葉は、誰よりも、天の神様が嫌われます。

ところが、本当に感謝なことに、イエス様が、そして、天の神様が嫌われる言葉に対する、神様のお怒りを全部、何とイエス様ご自身が引き受けてくださったんだよね。あのゴルゴタの十字架の上で。イエス様は、ご自分が嫌いな言葉をよく口から出してしまふ、どうしようもない、私たち、僕たちの代わりに十字架の上で神様から罰せられ、死んでくださったのです。そのようにして私たち、僕たちの罪が償われ、赦されるためです。

た。

そんなイエス様のことが聖書に書いてあって、毎週日曜日に子どもの教会（日曜学校）の礼拝式で、イエス様のことが語られています。そういうイエス様のことを聴くと、ますます、イエス様のことが大好きになるよね。イエス様は、私たち、僕たちの罪が全部赦されて、天国に行って神様と一緒に仲良く暮らすことができるようにしてくださったからです。

さて、神様は、私たち、僕たちが、聖書の御言葉を聴けば聴くほど、読めば読むほど、イエス様のことを知って、イエス様が大好きになるようにしていただきました。ですから、イエス様をもっともっと大好きになりたいお友だちは、毎週日曜日、子どもの教会（日曜学校）の礼拝式に出て、聖書のお話をよく聴いてください。また、お家に帰っても、聖書の御言葉を『リジョイス』の「いのちのパン」を使って、お父さんやお母さんと一緒に読んでくださいね。そうすれば、イエス様をもっともっと大好きになれます。イエス様をもっともっと愛することができます。

そして、不思議なことに、イエス様を大好きになればなるほど、罪が大嫌いになって行くの。これは、本当に不思議！ だって、イエス様が見ておられるところで、イエス様がとっても嫌われる罪んでできなくなるよね。

さあ最後に、今週も、イエス様が、私たち、僕たちと一緒にいてくださって、私たち、僕たちを見守ってくださるようにお祈りしましょう。

天の神様。おはようございます。

今日も、みんな元気に、子どもの教会（日曜学校）の礼拝式に来て、聖書のお話を聴くことができました。ありがとうございます。

どうか、今週も、イエス様が私たち、僕たちと一緒にいてください。そして、私たち、僕たちが、イエス様に嫌われることでなく、イエス様に喜ばれる生活をする事ができますように、助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

（長谷川潤）

[今週の暗唱聖句] 使徒言行録 20章21節

神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証してきたのです。



〈ねらい〉

神様は教会をとおして祝福と恵みを与えてくださる。教会につながることの大切さを覚えよう。

〈展開例〉**1. 教会ってどんなところ？**

まだ教会に行ったことのないお友達に「教会ってどんなところなの」と聞かれたら、どう答えますか。

教会でどんなことをしているか、思いつくものものをあげてみましょう。

- ①一緒に神様を礼拝する
- ②一緒に御言葉を読む
- ④一緒に祈りをする
- ⑤一緒に賛美する
- ⑥一緒に聖餐や洗礼にあずかる
- ⑦一緒に食事をしたり遊んだり交わりをする

これらのことを誰と一緒にするのでしょうか。イエス様を信じて神様の子どまとされたお友達と一緒にいきます。教会はイエス様を信じる人たちが集まる場所です。

2. 家で一人で礼拝すればいいんじゃないの？

毎週日曜日にわざわざ教会まで行かなくても、それぞれが自分の家で聖書を読んだり、お祈りをして礼拝すればいいんじゃないですか、と聞かれたらあなたはどうか答えますか。

イエス様は「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」(ヨハネ福音書15章5節)とされました。

教会はキリストの体です。枝がぶどうの木から離れてしまうと、実を結ぶことができないように、私たちもイエス様の体である教会につながっていなければ、実を結ぶことができません。自己流のへんてこな実を結んでしまったり、だんだん元気

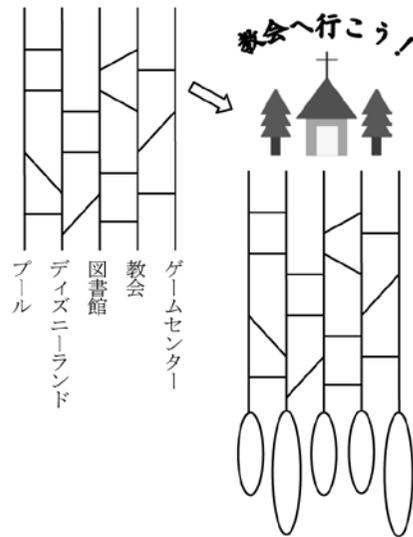
がなくなって、しまいにはしおれたり枯れたりしてしまうでしょう。

教会で御言葉を食べ、お祈りの息をして元気をもらいましょう。他の枝に励まされ、助け合い、仕え合います。教会はイエス様を信じる者たちが互に愛し合うところです。そうして私たちは成長し、神様の祝福をいただいて、悔い改めの実、喜びの実、義の実などの実を結ぶようになります。

3. あみだくじで教会へ行こう！**(スクラッチゲーム)**

(材料)長い紙、セロテープ、修正液、カラーペン、定規

(作り方)長い紙にあみだくじを描く。下のほうのゴールに教会やその他の場所を書く。その上にセロテープを貼る。その上から修正液をぬって文字をかくし、乾かす。



(遊び方)お友達と交換してくじをしたり、別のクラスのお友達に挑戦してもらってもよい。10円玉などでこすると、どこに着いたか見えてくるよ。

テキスト 使徒言行録 2章37～40節

子どもカテキズム 問67

参照教理問答 ウェストミンスター小教理問答 問86,87

問67 信仰と悔い改めとは何ですか。

答 聖霊のお働きによって与えられる、
救いの恵みです。
イエスさまを救い主として受け入れ、
信頼すること、
罪を認め、罪を憎み、
神さまに向かって歩むことです。

〈聖書テキストの解説と黙想〉

○37節まで

五旬祭の日に聖霊が主イエスの弟子達の上に降臨し、全員が様々な言語で福音を語り出した(4節)。それを目撃し、驚き怪しんでいたユダヤ人達に、ペトロはヨエル書3章に預言されていた神の聖霊が注がれたのだと説明した(16節)。あなたがたが十字架につけて殺してしまった、ナザレの人イエスを父なる神は復活させられ(24節)、神の右にあげられ、彼が聖霊を御父から受けて注いでくださったと解説した(33節)。ペトロは23節と36節で「あなたがたが十字架につけて殺してしまったイエス」と二度も繰り返し、罪を明確に指摘する。そしてこの聖霊降臨は、この大きな罪をイスラエルの全家にはっきりと知らせる証拠となったのである。

○37節

聖霊が降るといふ約束の成就を待って、キリストの復活がここではじめて公に告知されている。神の言葉を預かった人達、神の民である人達、救い主を歓迎するべき人達が、自分達の救い主を殺したという罪を、ペトロは明確に指摘した。罪を指摘された人達は強く心を刺され、良心の呵責と痛みを覚えた。そしてペトロに何をなすべきか尋ねている。

○38節

「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただき

なさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」とペトロは命じる。

二つの命令がなされている。第一の命令は「悔い改めなさい」、第二の命令は「イエス・キリストの名によって洗礼を受けなさい」である。第一は『罪の赦しへと至る悔い改め』をするように、つまり『神に対する悔い改め』、『神に向かって立ち帰る』ように命じている。第二は「イエス・キリストの御名」を告白しなさいと命じている。『主イエス・キリストに対する信仰』を持ち告白するように命じているのである。洗礼は「イエス・キリストの名による洗礼」とある。この「名」という言葉は「権威」「力」という意味の言葉である。即ち①イエス・キリストによって「権威付けられている」洗礼、②イエス・キリストに「結びつけられた」洗礼、③キリスト体である信仰共同体である教会に「入る」という意味での洗礼である。

そして、その結果二つのことが約束されている。第一が「罪が赦していただける」こと、第二が「賜物として聖霊を受ける」ことである。「悔い改め」と「イエス・キリストの名による洗礼」は、信じる者の悔い改めの印であり、このように悔い改める者は、イエス・キリストの名により罪が赦され、賜物として聖霊を受けるのである。

これは「めいめい」が個別に為さなくてはならないことである。誰も一人ひとりが、個別に自分の主体的な決断をもって、神の前に悔い改め、洗礼を受け、罪の赦しと聖霊を受けるのである。

○39節

その救いは時間的拡がり、末永くいつの世代までも及び、また空間的拡がり、ユダヤ人、異邦人を含む全世界の人にまでも及ぶものである。その救いは「わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられている」(39節)と記されているのは、ヨエル書3章5節と呼応している。

○40節

ペトロは言葉を尽くして力強く説教し、救い主を拒んだために裁かれるべき「邪悪なこの時代から救われなさい」と命令している。

〈子どもカテキズムの解説〉

○信仰とは何でしょうか？

信仰とは、福音において提供されているままに、キリストのみを受け入れ、キリストに差し出される、救いに導く神の恵みの賜物です。

信仰とは、聖書に啓示されている福音において、私たちに指し出されるままに、救い主であられる主イエス様だけを受け入れ、依り頼むことです。信仰は目を自分の罪から主イエス様に向けることです。そして神様の赦しの約束に全く寄り頼むことです。信仰は神様の恵みを受け取る手段なのです。それ故、信仰の中心はイエス様で、イエス様を離れては成り立ちません。

信仰は御霊なる神様による、恵みの賜物でもあります。私たちが御霊の継続的な力強い活動を体験したいなら、御霊に従順に歩むことを学ばねばなりません。

通常、信仰は御言葉の宣教によって生み出されます。神への信仰は神の言葉への確実な認識と同意ですので、御言葉を学ぶことで養われます。信仰とは信念とは異なり、聖霊が心に起こしてくださる神への人格的な信頼です。

○悔い改めとは何でしょうか？

悔い改めもまた、聖霊なる神様のお働きによって与えられる、救いに導く神の恵みの賜物です。

悔い改めとは、神に立ち帰ること、神へと向きを変えることで、それは御国に入る必要条件で、悔い改め無しに本当の救いは決してありません。神の律法において直面する、神の純潔に照らされて、私たちは自分の罪をありのままに見始めます。

神の言葉と聖霊の助けによって、私たちは自分の罪を真摯に自覚し、認め、その汚らわしさと忌まわしさを見、感じる感覚が与えられていきます。その時にこそ、私たちは、主イエス様がその罪のために十字架にお掛かりくださり、罰と呪いを身代わりに受けてくださったという福音を聞かなくてはなりません。私たちの罪を完全に償うために、主イエス様が、御自身の命を捧げてくださったことを覚えるのです。神はその罪人の私たちを憐れみ、愛してくださっています。

私たちは自分の罪を悲しみ、憎みながら、しかしそこに留まるのではなく、新しい神への従順へと自らの心を向けるのです。これが命に至る悔い改めです。そのようにした者は、神の戒めの全ての道において、神と共に歩むことを決意し、そう努める意図を持って神に立ち帰ります。それは喜びに満ちた決断と努力でもあります。古い生き方を捨てて、罪から神に立ち帰り、神様に向かって歩むことが許されています。

悔い改めや罪に対する償いは、罪の赦しの根拠ではありません。罪の赦しはキリストにおける無償の恵みです。しかしこの悔い改め無くして赦しを期待することはできません。私たちは自分の罪との関係を断つ決断をしなくてはなりません。裁きに値しないほど小さな罪は無く、必ず神の裁きを招きます。しかし真実に悔い改める者には、キリストによって赦されない程大きな罪はありません。

罪の悔い改めは一般的なものだけでなく、個々の罪についてなす努力が必要です。私たちは神との関係において罪を告白し、赦しを祈り求めるべきですが、人との関係においても罪の告白と赦しを求めることが必要です。それは教会において共に生きる者たちであるからです。

〈子どもたちに対して〉

聖書は皆さんにも、罪を告白し、悔い改めて、主イエス様に対する信仰を公にして歩むように求めています。主イエス様を救い主として告白し、洗礼を受け、罪の赦しを受け取り、聖霊に導かれながら、信仰生活を共に歩むこと。これが、イエス様が望んでおられることです。皆さんも信仰告白または受洗を考えてください。(袴田清子)

テキスト 使徒言行録 2章37～40節
参照教理問答 子どもカテキズム 問67

〔単元のねらい〕

信仰と悔い改めについて学ぶ。ペトロが悔い改めについて記している箇所から、悔い改めと信仰を告白することについて学ぶことによって、子供達も自分のこととして信仰告白と洗礼を考えるように促す。

ペトロの説教

今日はペンテコステの時のペトロの説教を通して、悔い改めと信仰について学びたいと思います。

イスラエルの人たちは神の民でした。預言者たちを通して神様の御心について特別に教えられ、神様の言葉を預かり、特別に導かれ、また救い主が来られることも知っていました。

しかし、父なる神様が御自身の約束に従って、イスラエルの人たちに、救い主として御自身の御子イエス様を地上にお送りになった時、イスラエルの人たちは神様の戒めを知らない人たちの手を借りて、救い主であるイエス様を十字架につけて殺してしまいました。父なる神様はそのことを承知の上で御自身の子であるイエス様を地上に産まれさせられました。主イエス様は不当な扱いでありながらも、父なる神様の御心に従って、十字架の死を耐えられました。

それは、御自分の民の救いのためでした。イエス様が私たちの全ての罪を代わりに背負い、私達の罪の罰と呪いを代わりに受けてくださったのです。

父なる神様は罪を何一つ犯さず、死に至るまで従順であった御子を、死んだままにさせてはおかれませんでした。そして父なる神様はイエス様を、復活させられました。

ペトロと弟子たちはこの神の御子イエス様の復活の証人であり、目の前に見ている五旬祭の光景は、父なる神様がイエス様を復活させられ、イエス様が父なる神の右にある王座にお着きになり、約束された聖霊を、父なる神様から受け取って注

いでくださっているのだと語りました。ペトロは「あなたたちが十字架につけて殺したイエスを」父なる神は神として受け入れられ、主、また救い主とされたと知らなくてはならないと言って説教しました。ここでペトロは「あなたがたが十字架につけて殺した」と二度も明確に罪を指摘します。悔い改めるためには、罪が明確に自覚されることが必要なのです。この明確な罪の指摘に、人々は大いに心を打たれ、ペトロと他の使徒たちに「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と尋ねています。

答えは「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい」（38節）という命令でした。

二つの命令がなされています。第一は「悔い改めなさい」で、第二が「イエス・キリストの名によって洗礼を受けなさい」です。「そうすれば、賜物として聖霊を受けます」と約束されています。そして、この約束は何世代にも亘り、全世界に亘る約束だとペトロは語ります。そして救い主を殺したような「邪悪な時代から救われなさい」と命じているのです。

このペトロの命令から分かるように、私たちが、神の前に悔い改めて、主イエス様を救い主と認め、公にイエス様に対する信仰を告白し、洗礼を受けることは命じられていることです。

ペトロはまず「悔い改め」を命じています。「悔い改め」とは何でしょうか？「悔い改め」とは「神に立ち帰る」「神へと自分の向きを変える」とい

うことです。それは、本当の救いに与るためにはどうしても必要ですが、自分の力ではできないことで、神様の恵みの賜物です。神の言葉と神の戒めと自分の心や生き方を比較し、聖霊なる神様に心を探られる時にはじめて、私たちは自分の罪をありのままに見るようになります。そして、主イエス様が律法を守られる時の基準の高さを知る時に、はじめて、いやおうなしに自分が罪人であるということを知ります。そして私たちは自分の罪を真摯に自覚し、認め、感じるようになるのです。自分が如何に罪深いか分かりだすと、私たちは暗い気持ちになり、自分のことが嫌になってしまいます。しかしこの悔い改めの過程も神の恵みの賜物なのです。神様は真実に悔い改める者に、イエス様によって罪の赦しを与えてくださいます。

罪を自覚するその時にこそ、私たちは主イエス様を見上げることが大切です。救い主であられる主イエス様を受け入れ、主イエス様に依り頼むのです。これが信仰です。私たちは自分の罪を悲しみ、憎みながら、しかしそこに留まるのではなく、自分のために死んでくださった救い主を見つめ、新しく神様に従おうと決心し、努力することに心を向けるのです。これが命に至る悔い改めです。

罪の悔い改めは一般的なことだけでなく、個々の罪についてなす努力が必要です。私たちは神との関係と、人との関係の両方において罪の告白と赦しを求めることが必要だからです。つまり、いじわるをした相手に対しては、相手が赦してくれなくても、謝するという努力が必要なのですね。

本当の救いへと導く、悔い改めも信仰も、共に聖霊なる神様による恵みの賜物です。私たちは神様の恵みによって、悔い改めへと導かれ、信仰も造り出していただけます。

実は信仰も悔い改めも、神様の言葉である聖書を教えられることによって生み出され、養われるのです。私たちは神様の言葉である聖書に従って

律法の基準を知ります。そして聖書に従って救い主イエス様について知ります。悔い改めも信仰も、神の言葉である聖書の御言葉を学ぶことと密接につながっているのです。

だから、読める人は神様の言葉である聖書を、自分で読むことが大切です。小さい子供たちは誰かに教えてもらい聖書を聞かせてもらうことが必要かも知れませんね。聖書から、神様の語りかけを聞き、それを思い巡らし、祈りにおいて神様と交わり、毎日の生き方の中で神様に応答する。私たちは自分で聖書を読んで祈る習慣をつけることが、生ける神様との交わりを保つために不可欠なのです。もし私たちが、御霊の継続的な力強い活動を体験したいなら、御霊に従順に歩むことを学ばねばなりません。そのためにも、毎日聖書の御言葉を通して神様との交わりを持つことが大切です。

今日の聖書の箇所は、もう一つ大切なことを記しています。それは「信仰を告白すること」と、「洗礼を受けること」です。ペトロは、イスラエルの人達に、神の前に悔い改めて、主イエス様を救い主と認め、公にイエス様に対する「信仰を告白」し、「洗礼を受ける」ように命じました。これは私たちにも当てはまります。

幼児の時に洗礼をさすけられた人は、イエス様への信仰を公に「告白」することが命じられています。洗礼を受けていない人は、主イエス様を救い主として告白する「洗礼」を受けるように命じられています。そのようにして、イエス様を信じる人の群れである教会に加えていただき、信仰者として共に生きるのです。神様が福音において提供して下さっているままに、イエス様を自分の救い主として受け取り、罪の赦しを与えられて、信仰生活を、教会の一員として歩むのです。皆さんも真剣に信仰告白あるいは、洗礼について考えてください。(袴田清子)

[今週の暗唱聖句] 使徒言行録 2章38節

悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、
罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。

〈ねらい〉

信仰と悔い改めの関係について学ぶ。

〈展開例〉**1. 悔い改めってなあに**

「悔い改め」って難しい言葉ですね。国語辞典で調べてみると、「過去のあやまちを反省して心を入れ替えること」とあります。

似たような言葉で、後悔という言葉があります。後悔するというのは、しなければよかったと後になって悔やむことです。「あ～あ、あんなことをしなければよかった」「言わなければよかった」と思うことです。

悔い改めは後悔とは違います。罪を犯したことを後悔したのに、悔い改めなかった人がいます。イエス様を裏切ったイスカリオテのユダです。彼はイエス・キリストを銀貨三十枚で敵の手に売り渡します。それがきっかけとなり、イエス・キリストに十字架の死刑が宣告されたとき、「俺はなんでこんなことをしてしまったんだ」と後悔しました。しかし彼は、イエス様にゆるしを求めませんでした。返しに行ったお金を受け取ってもらえず、神殿の中に銀貨三十枚を投げ捨てた彼は、首をくくって死にました。

自分の罪を認め、イエス様の前にひれ伏し、悔い改めた人がいます。徴税人のザアカイです。彼は、貧しい人にその財産を施し、ごまかしたものはみな四倍にして返しました。

二人の違いはどこにあるのでしょうか。イスカリオテのユダは自分がしたことを嘆き、ばかなことをしたと悲しみました。でもその心は神様の方を向いてはいませんでした。

悔い改めは、悔いるだけでなく、改めることです。自分ではなく、神様へと方向を変えること、方向転換することです。心をイエス様に方向転換し、「私はあなたに対して罪を犯しました。どう

ぞおゆるしてください」とゆるしを求めることです。悔い改めとは、神様に背いている自分の罪を悲しみ、神様のもとに立ち返ることです。

2. 悔い改めと信仰

しかし、神様のもとへ立ち返るためには神様と和解（仲直り）をしなければなりません。イエス様の十字架によって罪がゆるされていることを信じる必要があります。この救いのプレゼントを受け取ること、これが信仰です。

ですから、悔い改める心は信仰を求め、また信仰は悔い改めを起こさせます。

救いに至る悔い改めは一度だけですが、私たちがイエス様に似たものとなるためには、日々、悔い改める必要があります。神様は罪をゆるし、私たちを聖めてくださいます。罪を憎み、罪と戦う力を与えてくださいます。

3. 洗礼（信仰告白）

聖書は、悔い改めて洗礼を受けるように命じています。幼児洗礼を受けているお友だちは、イエス様をただ一人の救い主として心から受け入れたとき、教会の礼拝の場で自分の信仰を言い表す信仰告白をします。

洗礼や信仰告白は、罪がゆるされ、新しい命を与えられたことのあるしるしです。体の汚れが水で洗われるように、罪が清められ、古い自分が死んで、新しい命に生きる者とされたしるしです。主イエスとひとつとされて、神様の家族とされたしるしです。

まだ洗礼や信仰告白を受けていないお友だちがこの喜びを共にすることができるように、心から祈ります。

4. 悔い改めて戻ってくるもどり車の工作

（次ページ参照）

《もどり車の作り方と遊び方》

(材料) ガムの缶や綿棒の缶などの円柱状の容器、輪ゴム、糸（または、細いひも）、ガムテープ、はさみ、千枚通しかきり、爪楊枝、ナット（大きくて重いもの）

(作り方)

- ①缶のふたと底の中心にきりや千枚通しで穴をあけます。
- ②ナットの穴に輪ゴムを通してナットの真ん中に輪ゴムを結びつけます。



- ③輪ゴムを通すときに一工夫します。輪ゴムの両端にあらかじめ10cmくらいの糸かひもを結んでおきます。ひものさきに爪楊枝をつけておきます、ひものついた爪楊枝をふたと底に通してからガムテープで固定します。止め方は、輪ゴムから結んであった糸かひもをほどいて、輪ゴムの先に楊枝（楊枝は1本の半分ほどの長さ）を結び、ガムテープでふたに貼り付けます。ふたと底の両方に輪ゴムを楊枝とガムテープで貼り付けられたら完成です。



- ④もどり車をそーっと転がせば、ある程度転がってから戻ってきます。



<http://www.asahi-net.or.jp/~ue6s-kzk/sub26.htm#modori> から掲載しました。

テキスト	マタイによる福音書 28章18～20節
子どもカテキズム	問68
参照教理問答	ハイデルベルク信仰問答 問65 ウェストミンスター小教理問答 問88

問68 恵みの手段とは何ですか。

答 御言葉と礼典とお祈りです。

父なる神さまは、

聖霊のお働きによって、

特にこの三つを通して、

私たちに、

イエスさまがいっしょにいてくださることを

信じさせてくださいます。

こうして、私たちは

イエスさまと一つに結び合わせられ、

キリストの体なる教会として

建て上げられます。

私たちが罪から救われるためになすべきことはキリストを信じることと悔い改めることであることを前回学んだ。今回学ぶのは、この信仰と悔い改めのために聖霊が用いられる「恵みの外的手段」についてである。カテキズムは、この恵みの手段を三つ、数えている。それが、御言葉、礼典、祈りである。

この教理は、単に「恵みの手段」と呼ぶのではなく「恵みの外的手段」というのが正式な呼び方である。私たちは、聖霊によらなければ、キリストを信じることも、悔い改めることもできない。聖霊が、私たちの心のうちで内にお働きになって、信仰と悔い改めに導かれる。しかし、そのとき、聖霊は通常は、外的な手段を用いて人の心を変えて、信仰と悔い改めに導かれる。この外的な手段が、御言葉と礼典と祈りの三つなのである。

カテキズムはこれを「父なる神」が私たちのために備えられた恵みの手段とする。神が備えられたのであれば、私たちはこれを何よりも感謝して用いるべきである。

御言葉と礼典と祈りの個々については、次主日から順番に学ぶことになるので、ここでは触れな

いしておく。ただ包括的に、全体として触れておかなければならないことがある。

恵みの手段としての御言葉と礼典と祈りとは、ここでは第一義的には教会、特に、教会の礼拝のことが覚えられているのであって、個人的な礼拝やデポジションのことではない。御言葉、礼典、祈りが示しているのは、要するに教会の礼拝である。

確かに人が信仰に至り、悔い改めに導かれるというときに大きな苦難や幸福、奇跡的な経験なども意味を持つことはあり、全く排除する必要はない。しかし、それはすべての人に与えられるものではない。すべての人が不思議な奇跡的な経験をしなければならないのでもない。いちばん大切なこと、およそすべての人に開かれており、与えられるのは、この恵みの外的手段である。また信仰を一時的ではなく、持続するという点においても大切なことは、この外的な手段を用いることであろう。

カテキズムは、この恵みの手段によって与えられる恵みを、「イエスさまがいっしょにいてくださることを信じさせてくださいます」と言い換え

ている。子どもたちにとっての一つの問いはここにあると言っても良いであろう。

「イエスさまがいっしょ」ということをよく聞くがそれはどこでわかることなのかということである。いっしょにいてくださるイエスさまはこの肉の目で見ることはできない。「イエスさまがいっしょ」ということは、「イエスさまと会う」と言い換えてもよいかもしれない。それが「どうして、どのようにして可能なのか？」ということである。

これは子どもたちにとっても問いであろう。そして、子どもたちもまた体験というものに縛られてしまうことがあるかもしれない。劇的な特別な体験がなければならぬ、そうであれば、信じられるのという思いは大人だけの思いではない。そこから自由にしてあげることは、教会の大切な役目である。イエスさまがいっしょにいてくださる、どんな人でも信じられるようになる。それが教会である。ここでの説教の大切な役割は、主の日ごとの礼拝に招くことである。子どもたちに上から教え込むというのではなく、しつけるのではない。「ここで主に会えるから、恵みにあずかれるから、ここにいらっしやい」と心を込めて呼びかける。招くのである。

また一方で、この神の恵みの手段を子どもたちは今既に味わっていることも忘れてはならない。この恵みを教会に集う子どもたちは知らないわけではないのである。子どもたちはすでに日曜日ごとに教会に集い、礼拝をささげている。説教に聞き、祈っている。聖餐にはあずかっていないが、聖礼典を執行している教会に集っている。そこで子どもたちに何が起きているのか、それを信仰のまなざしを開かれて見出したい。こういうところで、問われてくるのは、説教者である私たちの信仰である。繰り返すが、私たちはこの恵みを、新しくどこからか見出してこなくてはならないものではない。すでに私たちみんなが味わって

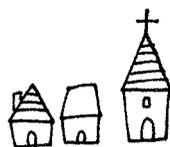
いる恵みである。それがここにあること、それですでに私たちがあずかっているのだということを示したい。

恵みの外的手段の引照聖句としては、使徒言行録2章42, 46, 47節などもあげられる。聖霊が注がれたはじめ教会が重んじたのが使徒言行録2章から、御言葉、礼典、祈りであることが受け止められる。しかし、ここからよりは、マタイ28章からの説教するほうが子どもたちの教会学校においては良いように思い、こちらを選択した。

マタイによる福音書28章は、復活のキリストの顕現の箇所である。ここでマタイによる福音書の主題が宣言されて、福音書が閉じられる。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」。この主の言葉は、11人の弟子たち、この弟子たちが代表する教会に対する約束の言葉である。

マタイによる福音書は、主イエスの地上のご生涯、とりわけその十字架の死と復活において、「主が我らと共にいます」ということが実現したということ語っている。しかし、キリストが共にいてくださるということ、そのインマヌエルの恵みは決して自動的、機械的なものではない。イエスさまが、共にいると約束される教会は、伝道する群れである。また御言葉を語り、洗礼をさずける教会である。つまり、御言葉が語り伝えられ、礼典が行われる、そこにいてくださるという約束なのである。言い換えるなら、教会のそういう営みの中で、主が共にいてくださることが示されていくということでもある。このキリストの約束に基づいて、私たちも礼拝する。子どもたちの礼拝もそのことにおいて何ら変わることはない。

今日も「イエスさまがいっしょにいてくださる」ということを、子どもたちに私たちは教会として語り伝えたい。私たちの語る、外からの言葉を子供たちは聞くことを必要としている。(橋谷英徳)



9月22日

恵みの手段

説教展開例

テキスト

マタイによる福音書 28章16～20節

参照教理問答

子どもカテキズム 問68

〔単元のねらい〕

恵みの手段にあずかっている恵みを子どもたちと共に味わいたい。同時に、この恵みにあずかり続けることを励ましたい。

ここにある恵み

私をはじめて教会に行ったのは中学2年生の時でした。それまでは教会に行ったことは一度もなかったのです。はじめて行く教会は、なにもかもはじめてのことだらけでした。

聖書を読むのははじめて。

お祈りをするのははじめて。

賛美歌を歌うのははじめて。

はじめて出席した教会は、家の近くの小さな教会でした。礼拝には10人くらいの方が出席しておられました。

はじめて教会に行ったとき、どんなことを思ったのでしょうか？

もう多くのことは忘れてしまいました。

でも今でも覚えていることがあります。

「学校やおうちとは何かここは違うな～」と思いました。今まで自分が行ったいろんなところはどこか違う、何かが違うと思ったのです。

残念ながら教会の先生が何を話されているのかはよくわかりませんでした。はじめて聞くことばだらけだったからです。

でもそれから、毎週というわけではありませんが、ときどき教会に行くようになりました。そして、しばらく教会に通っているうちに、不思議に思うようになったことがありました。

それは、教会に来られている方は、どうして神さまを信じているのかということです。イエスさまを見たこともないのに、どうして教会のみんなは「イエスさま」、「イエスさま」と言うのだろうか、なぜイエスさまを信じることができるのだら

うかととても不思議に思ったのです。

なんだか教会に通っているうちに、ある日のこと、教会の先生から聖書を教わっているときに、「あなたはイエスさまを信じますか」と質問されました。そのとき、なんと私は「信じません」と言ったのです。なんということをと思いますが、正直な思いだったのです。でも先生がとても寂しそうだったのを今でもよく覚えています。

とても不思議なことは、「信じません」と言ったはずの私が今は「イエスさまを信じています」と言っていることです。なぜでしょうか。

私はそのとき「信じません」と教会の先生に言ってしまいました。それでも、「信じません」と言いながら教会に行くのは止めなかったのです。

そして、教会の先生も、「信じません」と言った私に「もう来たらだめ」だとは言われませんでした。いつも歓迎してくださいました。教会のみんなもこんな私のことをあたたかく心にかけてくれました。きっと祈ってくださっていたと思います。

教会は神さまを信じますと言う人だけが来る場所ではないのですね。信じないと言う人が来てもいいところなのですね。

「信じません」と言った私が、「信じます」と言えるようになったのは、大学生になってからでした。はじめて教会に行ってから、もう5年も過ぎてからのことです。どうして「信じます」と言えるようになったのでしょうか？

それは何か、特別なことがあってというわけで

はありません。

日曜日に教会に行き続けました。そこで聖書のお言葉に聞きました。賛美歌を歌いました。お祈りをしました。礼拝が終わると、みんなでお話しをしたり、質問をしたりしました。

そういうことを続けている間に、ああ、神さまはここにいらっしゃるということが信じられるようになった。とても大きな傷が、長い時間がたって、ふと気づいたら傷口がふさがってその傷跡が薄くなっているように、私は教会に通い続けることによって、信じない人から信じる人に変えられました。

イエスさまが私たちの罪のために十字架に死んでくださったこと、よみがえってくださったことを信じるようになりました。そして、目に見えなくても、このイエスさまがいっしょにいてくださって、私のことも愛していてくださるということを信じるようになったのです

もし教会に行かなかったら、どうなっていただろうと思うことがあります。こんなことを思うのは変かもしれませんが、そんなことをふと考えます。

聖書のお言葉も聞けず、賛美歌も歌えません。お祈りもできません。教会の先生とも、お友だちとも出会うことができません。ですから、きっと神さまを信じることも、イエスさまを信じることもできなかったと思います。「信じます」とはきっと言えるようにならなかったでしょう。きっとそ

うだと思います。

これは、私だけのことではないでしょう。

みんなそうです。私たちは日曜日に教会に来て、礼拝をささげています。賛美歌を歌います。聖書のお言葉を聞きます。お祈りをします。礼拝が終わったら、先生やお友だちとおしゃべりしたり、いっしょに遊んだりします。教会に来ると、元気になります。なぜでしょうか。それはここに来ると、イエスさまが私たちといっしょにいてくださることがわかるからです。

イエスさまが「いっしょにいるよ～」と言ってくださる。言うてくださるだけじゃなくて、本当にいっしょにいてくださいます。イエスさまを私たちはこの目で見てはいません。でもイエスさまはおられるのです。イエスさまがいっしょにいてくださるのです。

イエスさまがいっしょなら大丈夫です。

勇気100倍、元気100倍です。

ですから、ここで神さまを礼拝することをこれからも大事にしてゆきましょう。そして、心を込めて、お祈りしましょう。賛美歌を歌いましょう。聖書を読みましょう。そして、みんなで遊びましょう。

今日もイエスさまは私たちみんなに言われます。

「わたしはあなたがたといっしょにいる」と。

(橋谷英徳)

[今週の暗唱聖句] マタイによる福音書 28章20節

わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。



〈ねらい〉

神様は教会の礼拝をとおり、御言葉・礼典・祈りの手段によって私たちに恵みを届けてくださる。

〈展開例〉**1. いろいろな方法で愛を伝える**

大好きな友達に「あなたが大好きだよ」と伝えようと思ったら、どんな方法を使いますか。

直接、そのことを話して伝える方法があります。手紙を書いて伝える方法もあります。また、プレゼントをあげることによって伝える方法もあります。

神様の子もとされた者たちに神様はいろいろな方法で恵みを届けてくださいます。

2. 恵みの手段

それでは、神様はどんな方法で恵みを届けてくださるのでしょうか。

それは御言葉と礼典（洗礼式と聖餐式）と祈りです。

①御言葉によって

御言葉によって、礼拝の説教をとおして聖霊なる神様が語りかけてくださいます。神様のみこころを示され、元気や喜び、平安をいただくことができます。弱っている心を強め、励まし、進むべき道を教えられます。

②礼典によって

礼典とは神様が定めてくださったものです。それによって神様は目に見えるかたちで、救いの確かさを教えてくださいます。礼典には「洗礼」と「聖餐」の二つがあります。

洗礼式を見たことがありますか。牧師先生が頭に水を注ぎます。イエス様の十字架のあがないによって罪がゆるされ、きよめられることのしるしです。

聖餐式では一つのパンを裂いて食べ、ブドウ酒を飲みます。パンは、十字架の上で裂かれたイエス様の体をあらわします。ブドウ酒

は、十字架で流されたイエス様の血をあらわします。イエス様の十字架の死によって、私たちの罪が確かにゆるされていることを知り、目で見、味わって確認するのです。

洗礼も聖餐もそれにあずかる人だけでなく、その場に集う人たちにも恵みが注がれ、共にその恵みにあずかる日を待ち望むようにと導かれます。

③祈りによって

信仰とは神様と私たちをつなぐパイプのようなものです。祈りによって、そこに神様の恵みが注がれます。祈りによって神様に賛美と感謝、悔い改めと願いをささげます。ぶどうの枝が木から栄養をもらうように、私たちは祈りによって神様と交わり、恵みをいただきます。

3. 恵みの手段は礼拝の中にある

神様は礼拝に集う者たちに神様の恵みを天から注ごうと待っておられます。

日曜日の礼拝に出られないことがあります。その日は礼拝をささげているいつもの日曜日と何か違っていませんか。礼拝に出られなかったとき、私たちは礼拝をとおしてどんなに大きな恵みを神様からいただいているのかを知りたいのでしょうか。主の日の礼拝は一週間の歩みの力と元気の元です。

4. 宝（恵み）さがし

みことばれいてん
おいのり

の文字を1文字ずつ書いた紙を用意する。封筒に入れて折り曲げて封をしたものを、あちこちに隠す。みんなで宝さがしをして、封筒を見つけ出す。

全部の封筒が見つかったら、文字を並べかえて、みことば・れいてん・おいのりの三つの言葉を作る（礼典が難しいようなら聖餐式と洗礼式にかえてもよい）。

9月29日 神の御言葉—聖書 教理説教のための聖書黙想

テキスト ヨハネによる福音書 5章31～40節
子どもカテキズム 問69

問69 御言葉とは何ですか。

答 生ける神の言葉、イエス・キリストです。
書かれた神の御言葉である聖書と、
聖霊なる神さまが語られる神の御言葉としての
教会の説教を通して、
私たちは、
イエスさまと一つに結び合わせられます。

〈聖書の著者は聖霊である〉

聖書は神の言葉である。聖書を書き記したのは聖書記者たちであるが、聖書の真の著者は聖霊である。聖霊が聖書記者たちの背後にお働きになり、聖書を神の言葉として書き記すことができるよう、守り導いてくださったのである。

聖霊は旧新約聖書66巻が完結するまでのいつさいのプロセスを守り導かれた。それゆえに聖書全巻は「神の霊の導きの下に書かれ」（テモテニ3:16）た神の言葉である。聖霊はご自身が（聖書記者たちを用いて）お書きになった聖書をお用いになって、救いのわざをなしとげていかれる。聖書を読む者たちの心に働きかけ、その心を照らし、イエス・キリストを信じる信仰に導き、永遠の救いへと招き入れてくださるのである。

聖霊降臨日以後、聖霊は聖書を用いて全世界の人々を救い、聖書を説き明かす説教のわざによって信者たちを教会に集め、神の国の祝福を地上におしひろげていく働きを終わりの日の完成にいたるまで担っていかれる。わたしたちもこの聖霊の働きによって、聖書をとおしてキリストと出会ったのである。

〈神は言葉をもって人と出会われる〉

人が神を知り、神と出会うための手だては何か。それは言葉である。神は生ける、人格をもつお方であられるゆえに、言葉を語られる。偶像一人が造り出した神々は言葉をもたない（だからこそ、人のいいなりになる）。しかし真の神は言葉をもって人に語りかけ、言葉をもって人にご自身を自己

紹介される。

人は神の言葉によって神を鮮やかに知ることを得る。神は言葉をもって永遠の命の道を教え示してください。人は神の言葉に聞き従う信仰によって救いを得、命を得る。人を永遠の命に至らせるため、神はみ言葉をもって人を「教え」「戒め」「正し」「訓練」し、聖なる者とされるのである。

〈聖書はキリストを証しする〉

キリストは「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」（ヨハネ1:14）お方、人となられた神の言葉である。聖書は（旧約、新約のいずれも）このひとりのお方を証しする書物である。

旧約聖書の時代には、神はさまざましかたで人にご自身をお示しになった。たとえば雲の柱や火の柱をもって、ご自身が今ここにおられることを示された。あるいは荒海をふたつに分けるといっためざましいみわざをとおして、ご自身のみ力をあらわされた。さらに預言者たちの口をとおして、ご自身のみこころをお示しになった。

しかし今や時が満ちて、神はひとり子を世に遣わし、ひとり子キリストをとおして鮮やかにご自身をお示しになった。「神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました」（ヘブライ1:1, 2）、「わたしを見た者は、父を見たのだ」（ヨハネ14:9）。

聖書がキリストを証しする書物であるとは、聖書を開くとき、読む者の前に生けるキリストが立

ちたもうということである。聖書をとおして、わたしたちはキリストに向かい合う。キリストに直面する。キリストの命に触れる。

聖書、書かれた神のみ言葉が、なぜ命の言葉であるのか。神の霊が神の言葉に命を吹き込むからである。聖書の著者であられるみ霊が、聖書のみ言葉を用いて、わたしたちの心に生きて働き、わたしたちをキリストと出会わせ、わたしたちにキ

リストの命を注いでくださる。そのようにして、聖霊は聖書を用いてわたしたちを死から命へと移しかえてくださるのである。わたしたちに救いをもたらしてくださるのである。

そのようなことが起こるときにこそ、聖書はキリストについて証しをするものであることが証明される。わたしたちひとりひとりの命と人生のいとなみにあって証明されるのである。(木下裕也)



テキスト ヨハネによる福音書 5章31～40節
子どもカテキズム 問69

〔単元のねらい〕

31～40節をテキストとしたが、とくに39節に聞きたい。聖書は神の言葉であり、イエス・キリストについて証しをする書物である。わたしたちは聖書をとおして十字架と復活のキリストにお会いする。聖書と聖霊との関係に意を用いつつ、聖書をとおして生けるキリスト、復活の主がわたしたちと出会い、わたしたちを生かしてくださる恵みを覚えたい。

聖書をとおしてイエスさまと出会う

神さまはご自身のことを自己紹介なさるため、わたしたち人間と交わりを持たれるため、そしてわたしたちを罪から救い、永遠の命へと招き入れてくださるために、言葉をお用いになりました。そしてご自身のみ言葉を、書かれた言葉、書物のかたちとなさることをみこころとなさいました。それが聖書です。

そしてイエスさまは仰せになりました。「聖書はわたしについて証しをするものだ」。

聖書はイエスさまを証しする書物です。この世にあっては、聖書はさまざまなかたで読まれています。聖書には何かありがたいことが書いてあると考える人もあるでしょう。聖書から生活に役立つ知恵が得られると考えたり、聖書は人の心を鍛えるのによい本だと考えたりする人もあるかもしれません。すぐれた芸術作品と見なす人もあるかもしれません。しかし、聖書とはイエスさまを証しする書物なのです。

それはどういうことでしょうか。聖書を開くとき、わたしたちの前に生きておられるイエスさまが立たれるのです。聖書をとおして、わたしたちはイエスさまにお会いするのです。今ここでお会いするのです。そしてイエスさまの命に触れるのです。

聖書—書かれた神さまのみ言葉は、命の言葉です。それは聖霊なる神さまが聖書に命を吹き込まれるからです。聖霊が聖書をお書きになりました。

その聖霊が聖書のみ言葉を用いて、わたしたちの心に生きて働き、わたしたちをイエスさまと出会うせ、わたしたちにイエスさまの命を注いでくださる。そのように、聖霊は聖書を用いてわたしたちに命をくださるのです。わたしたちを救ってくださるのです。そのとき、聖書がイエスさまを証しする書であることが証明されるのです。わたしたちの命と人生にあって証しされるのです。

聖書を読むことはわたしたちにとって大きな喜びです。聖書を読むとき、わたしたちは慰めと力を得ます。聖書をとおして、わたしたちはイエスさまとお会いします。イエスさまはわたしたちの罪を贖うために十字架に死んでくださり、わたしたちを生かすためによみがえられました。そのイエスさまに生かされて生きるとき、人生の苦しみも罪のみじめさも死の苦しみも退いていきます。わたしたちは真理を知り、命を受けます。よみがえられ、今も生きておられるイエスさまがわたしたちと出会うてくださる。聖書をとおして、聖霊によってイエスさまはわたしたちとともにいてくださるのです。

聖書を用いてわたしたちをイエスさまと出会うせてくださるみ霊のお働きに信頼しましょう。み霊に信頼して、イエスさまに近づきましょう。イエスさまはわたしたちを、ご自身のみ姿に似る者としてくださいます。み前に身を低くして、日々み言葉に聞き、悔い改めと信仰とを新しくさせら

れていく。聖書に聞き続け、聖霊に導かれるそのような歩みを重ねていく中で、わたしたちはイエスさまを映し出す幸いな人に造りかえられていくのです。

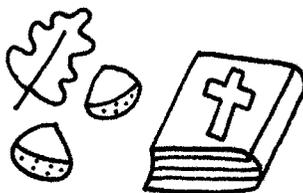
聖書を読むこと。それは聖書をとおして神さまと出会い、神さまと交わることです。神さまとともに生きること、神さまの命に生かされて生きることです。聖書を読むいとなみをとおして、わた

したちはイエスさまに近づいていくのです。そして父なる神さまがこの世にお遣わしになったお方—イエスさまのみ言葉を心深くとどめる人は、イエスさまの命を生きるのです。イエスさまがその心にとどまってくださるからです。その心に生きてくださるからです。聖書はイエスさまを、イエスさまの救いを、イエスさまの命を証しする書物です。
(木下裕也)

[今週の暗唱聖句]

ヨハネによる福音書5章39節後半

聖書はわたしについて証しをするものだ。



〈ねらい〉

聖書の作者は誰か、聖書が書かれた目的は何かを学ぶ。

〈展開例〉**1. 聖書の作者は誰？**

(いろいろな本を用意する) それぞれの本には、本を書いた人の名前が書いてあります。(どこに書いてあるか見てみる) それでは、聖書には作者の名前が書いてありますか(発行所は著者ではないので注意)。

聖書は不思議な本ですね。著者の名前がない本です。では、どこにも著者の名前がないかというと、そうではありません。ちゃんと聖書の中に著者の名前が出てきます。「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ……」(テモテニ3章16節)とあります。聖書は約40人の人の手によって書かれました。でも、聖書の本当の著者は、実際に書いた人たちではなく、彼らを導かれた神様なのです。聖書は神様の霊に導かれて書かれた、神様から私たちへの手紙です。

2. 聖書が書かれた目的は？

地図、和英辞典、商品のカタログ、電話帳など、いろいろな種類の本を用意し、これらの本がどんな目的で書かれているか考える。→それぞれの本には書かれた目的があることに気づかせる。

聖書にも書かれた目的があるはずですね。聖書が書かれた目的は？ 聖書から探してみよう(一緒に読む)。

「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」(ヨハネによる福音書5章39節)。「これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また信じてイエスの名により命を受けるためである」(ヨハネによる福音書20章31節)。

金太郎飴って知っていますか。どこを切っても金太郎の絵が出てくる飴です。聖書は金太郎飴のような本です。どこを開いてもイエス様を指し示

し、証ししています。たとえば……

創世記3:15…サタンを打ち砕くキリスト

出エジプト12:3-14…過越の子羊としてのキリスト

レビ記16章…大祭司としてもキリスト

民数記11:9…いのちのパンとしてのキリスト

民数記21:8…青銅の蛇＝十字架上のキリスト

申命記18:15…モーセのような預言者キリスト

イザヤ書53:5…身代わりの苦難を受けるキリスト

エゼキエル34:23…ダビデのような牧者のキリスト

ヨナ書1:17…三日間葬られているキリスト

ミカ書5:2-4…ベツレヘムに生まれるキリスト

ゼカリヤ9:9…ろばの子に乗られる王キリスト

聖書を読む人がイエス・キリストを信じて永遠の命を得ること、これが聖書が書かれた目的です。神様は御言葉を用いて、聖書を読む人を、悔い改めと信仰へと導びきます。

3. みことばせんべいを作って食べよう**◆アイシング***

(材料) 卵白大さじ10g 粉砂糖40g レモン汁少々、食紅またはココア

(作り方) 1. 卵白を泡だて器で白くなるまでしっかり練る。2. 粉砂糖を少しずつ加えていき、その都度泡だて器でよく練る。3. レモン汁を加えて最後に食紅やココアで色をつける。

◆コルネ(絞り袋)の作り方

ラッピング用の袋(セロハン)を二等辺三角形に切る。丸めて三角の袋を作る。セロテープで止める。中にアイシングを半分ぐらいまで入れたら後ろの方を折る。口の先をハサミで少し切る(穴が大きくなりすぎないように注意)。

◆御言葉を書こう

お菓子(お子様せんべいやえびせんべいなどが書きやすい)にアイシングで好きな御言葉を書きましょう。ラッピングしてプレゼントしてもいいですね。

2013年10～12月カリキュラム (第51号)

— 『子どもカテキズム』に基づく二年サイクル第2年—

月日 教会暦・行事	主 題	子どもカテキズム	参照教理問答
		聖書箇所	暗唱聖句
単元の目標			
10月6日	神の御言葉—説教—	問69	—
		ローマ10:14-17	ローマ10:17
説教をとおして語られる生ける神の御言葉を聞き取る			
13日	御言葉への聴従	問70	ウ小89, 90, ウ大155-160
		テモテニ3:10-17	テモテニ3:14
神への愛と奉仕として、御言葉に聞き従う歩みに励もう			
20日	礼典	問71	ジュネ309-322, ウ大161-164他
		コリントー11:23-29	コリントー11:28
礼典によって私たちの信仰が強められる。聖霊の祝福のうちに生きよう			
27日 宗教改革記念	宗教改革	—	—
		詩編32:1-7	詩32:7
宗教改革と私たちの教会の歴史を学び、その信仰告白を受け継いで歩もう			
11月3日	洗礼	問72, 73	ウ小94, 95
		使徒2:36-42	使徒2:38
洗礼の恵みを知り、信仰告白と洗礼に招こう			
10日	主の晩餐	問74, 75	ウ小96, 97
		マタイ26:26-30	マタイ26:26-28
聖餐の恵みを知り、聖餐の食卓へと招こう			
17日	祈りとは何か (一)	問76	—
		ヨハネ14:1-14	ヨハネ14:6
祈りは神の御心を聞くこと。御言葉に耳を傾けることから始めよう			
24日	祈りとは何か (二)	問76	ウ小98, ウ大184
		フィリピ4:6-7	フィリピ4:6-7
主なる神を信頼して、どんなことでも素直にお祈りしよう			
12月1日 アドベント	インマヌエル預言	—	ハイデ28, 47, 53
		イザヤ7:1-17	マタイ1:23
神と私たちを結ぶしるしである救い主キリストを待ち望もう			
8日 アドベント	平和の君	—	—
		イザヤ9:1-6	マタイ5:9
平和の君キリストを待ち望み、平和の完成のために仕えよう			
15日 アドベント	ヨセフへの告知	—	子ども22, 23
		マタイ1:18-25	マタイ1:23
「神は我々と共におられる」。インマヌエルのおとずれを喜ぼう			
22日 降誕祭	降誕・東方の学者たち	—	—
		マタイ2:1-12	ローマ12:1
キリストの降誕を喜び、感謝をささげて、神をほめたたえよう			
29日 年末	一年の感謝	—	ジュネ111, ウ小20, ウ大80他
		詩編103:1-5	ヨハネー4:10
主の御計らいを心に留め、与えられた日々を感謝をもって振り返ろう			

2013年度 年間カリキュラム (第49～52号)

(2013年4月～2014年3月)

二年サイクル カテキズム カリキュラム 第2年 (子どもカテキズム問36～85)

	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
2013年 第49号	4月7日	進級式	復活のときの祝福	問36
	4月14日		感謝の生活	問37
	4月21日		感謝としての服従	問38
	4月28日		十戒—感謝の道しるべ	問39
	5月5日		神と人への愛	問40
	5月12日	母の日	贖いのみわざ—過越—	問41, 42
	5月19日	聖霊降臨祭	聖霊と終わりの時代	—
	5月26日		過越の成就—キリスト	問41, 42
	6月2日		第一戒 神を神とする	問43, 44
	6月9日	花の日	第二戒 刻んだ像の禁止	問45, 46
	6月16日	父の日	第三戒 神の御名	問47, 48
	6月23日		第四戒 安息日の聖別	問49, 50
	6月30日		第五戒 父母を敬う	問51, 52
第50号	7月7日		第六戒 殺してはならない	問53, 54
	7月14日		第七戒 姦淫してはならない	問55, 56
	7月21日		第八戒 盗んではならない	問57, 58
	7月28日		第九戒 偽証してはならない	問59, 60
	8月4日		第十戒 むさぼってはならない	問61, 62
	8月11日	(平和)	平和を創り出す	—
	8月18日		神のおきてを喜ぶ生活	問63
	8月25日		十戒の完成者キリスト	問64
	9月1日		教会に生きる (一)	問65
	9月8日		教会に生きる (二)	問66
	9月15日	(敬老の日)	信仰と悔い改め	問67
	9月22日		恵みの手段	問68
	9月29日		神の御言葉—聖書—	問69

年・号	月 日	教会暦・行事	主題	子どもカテキズム
第51号	10月6日		神の御言葉—説教—	問69
	10月13日		御言葉への聴従	問70
	10月20日		礼典	問71
	10月27日	宗教改革記念	宗教改革	—
	11月3日		洗礼	問72, 73
	11月10日		主の晩餐	問74, 75
	11月17日		祈りとは何か（一）	問76
	11月24日		祈りとは何か（二）	問76
	12月1日	アドベント	待降節	—
	12月8日	アドベント	待降節	—
	12月15日	アドベント	待降節	—
	12月22日	降誕祭	降誕祭	—
	12月29日	年末	一年の感謝	—
2014年	1月5日	新年	新しい一年に向けて	—
第52号	1月12日		祈りのお手本	問77
	1月19日		天の父よ	問78
	1月26日		御名をあげさせたまえ	問79
	2月2日		御国を来たさせたまえ	問80
	2月9日	(11 信教の自由)	御心の天になるごとく	問81
	2月16日		日用の糧を与えたまえ	問82
	2月23日		我らの罪を赦したまえ	問83
	3月2日	(5- レント)	悪より救い出したまえ	問84
	3月9日	レント	頌栄	問85
	3月16日	レント	アーメン	問85
	3月23日	レント	受難節	—
	3月30日	レント	受難節	—

〈執筆よりひとこと〉

●小学科上級用として執筆しましたが、工夫すれば、他の分級でも用いていただけたと思います。子どもたちの意見が飛び交う分級となりますように。
(漆崎春美)

●この4月、四日市教会併設のまきば幼稚園の園長になって2年目となりました。以前から宗教主事として関わっていましたが、園児たちに聖書のお話はしていましたが、園長として、ご父母にお話をする機会も増えました。お話をする度毎に自分の実力のなさを思い知らされます。特にイメージ豊かな言葉の乏しさです。幼稚園でキリスト教と本格的に出会った方々(親、教師)、そして、子どもたちに福音を伝えることの難しさを日々実感しています。聖霊なる主よ、助けて下さいと祈るしかありません。
(長谷川潤)

●新しく編集部に加えていただき、編集実務のお手伝いから始めています。教案誌と『リジョイス』の「いのちのパン」のために、どれだけの方々の尊いご奉仕とお祈りがあるかを、まず知ることができました。そのことに感謝しています。校正や編集の作業に滞りができませんように、お祈りください。
(安田直人)

〈あとがき〉

●第50号をお届けします。今号も多くの方々のご協力をいただきました。神様と執筆者・読者の皆様に心からの感謝を申し上げます。

●分級展開例は、しばらくの間、幼稚科・小学科下級・小学科上級・中学科の4つの分級展開例から、ひとつのみを掲載することになります。できるだけ早く、元の形に戻せるようにお祈りください。

●芦田高之先生の講演原稿を掲載することができて、感謝しています。ご講演にふさわしく、今号より「新しい歌」のコーナーを設けました。皆さまの教会で歌っておられるオリジナルソングがありましたら、是非、ご紹介ください。

●子どもたちの信仰の証を募集しています。子ども自身の言葉でも、教師(もしくは親)の言葉でもかまいません。皆さまは、主の日の朝、誰よりもはやく教会の玄関をくぐり、祈りつつ、子どもたちを迎えておられることと思います。皆さまの奉仕の労苦を主の豊かにねぎらってくださいように。そして、子どもたちの信仰告白と受洗の実り以上のねぎらいはないでしょう。喜びをぜひ互いに分かち合しましょう。

●日本キリスト改革派教会の教育機関紙『リジョイス』の「いのちのパン」についても、ご意見をお寄せください。当教案誌編集部より提供させていただきます。それぞれの祈りの場が主の祝福に満たされますように。

●教案誌のためにご奉仕くださる方を募っています。ぜひ、編集部にお気軽に声をかけてください。問い合わせは相馬伸郎まで。

E-mail: iwanoue@me.ccnw.ne.jp

●Soli Deo Gloria!

〈購読の申し込み〉

●『教会学校教案誌』をぜひご購読ください。また、品切れになっていた『子どもカテキズム』を再刷しました。現在のカリキュラムは、『子どもカテキズム』に基づいて編まれています。ぜひお求めください。教案誌はバックナンバーもありません。第44号までは一部500円で販売しています(品切れの号もあり)。

●教案誌購読受付と送付は大垣伝道所の辻幸宏教師が担当しています。お求めは下記までご連絡ください。『子どもカテキズム』(300円)、副読本『主は羊飼ひ』(800円)のお買い求めも下記までお願いいたします。

大垣伝道所 辻幸宏まで

〒503-0996 大垣市島町283

Tel/Fax. 0584-91-3538

E-mail: yukihito.tsuji@nifty.ne.jp

福音のためなら、
わたしは
どんなこと
でも
します



☆ 執筆者一覧 ☆

まえがき	赤石めぐみ (伊丹教会会員)
安田直人 (田無教会牧師)	望月 信 (高蔵寺教会牧師)
巻頭説教	辻 幸宏 (大垣伝道所協力牧師)
中田 稔 (岡山西伝道所宣教教師)	二宮 創 (太田伝道所宣教教師)
日曜学校・教会学校訪問	相馬伸郎 (名古屋岩の上传道所宣教教師)
渡辺 亮 (船橋高根教会教会学校校長)	長谷川潤 (四日市教会牧師)
講演	袴田清子 (園田教会信徒)
芦田高之 (新浦安教会牧師)	橋谷英徳 (関キリスト教会牧師)
新しい歌	木下裕也 (名古屋教会牧師)
聖書黙想・説教展開例	分級展開例
草野 誠 (恵那教会牧師)	小学科上級 漆崎春美 (金沢伝道所会員)
大西良嗣 (滋賀摂理教会牧師)	イラスト作画
木村恭子 (上福岡教会執事・信徒説教者)	表紙 田口裕美 (尾張旭教会会員)
	本文 岡野美佳 (青葉台キリスト教会会員)

☆ 編集部 ☆

相馬伸郎 (長)	名古屋岩の上传道所宣教教師
木下裕也	名古屋教会牧師
辻 幸宏	大垣伝道所協力牧師
二宮 創	太田伝道所宣教教師
長谷川潤	四日市教会牧師
安田直人	田無教会牧師

日本キリスト改革派教会 中部中会 『教会学校教案誌』
2013年7・8・9月号 (季刊)
第50号
2013年5月25日発行

発行	日本キリスト改革派教会 中部中会 日曜学校委員会
発行所	日本キリスト改革派教会 中部中会 教会学校教案誌編集部 名古屋岩の上传道所 宣教教師 相馬伸郎 〒458-0021 愛知県名古屋市緑区滝の水2-2012 Tel/Fax. 052-895-6701
郵便振替口座	00890-2-148183 「伊藤治郎」
編集・印刷	株式会社あるむ
頒価	900円 (本体価格)
